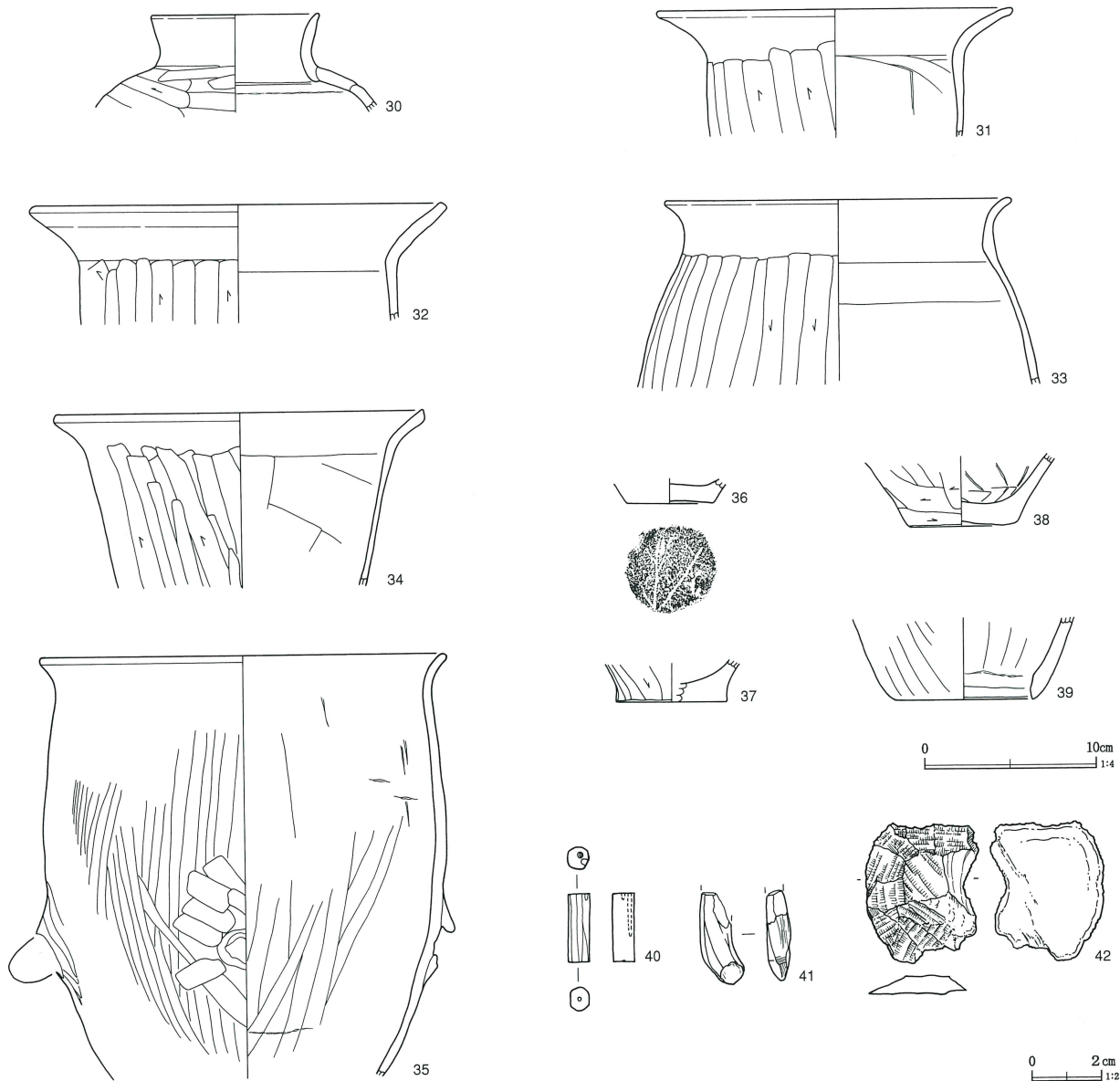


第203图 第406号住居跡出土遺物 (1)



第204図 第406号住居跡出土遺物(2)

第407号住居跡(第205図)

○・P-46・47グリッドにかけて検出された。第403・408・409・410号住居跡、第800・801・806号土坑と重複していた。新旧関係は、第403・408・409・410号住居跡より新しく、第800・801・806号土坑より古かった。北側は、谷部へと至るため標高がやや低くなっており、覆土がほとんど残存していなかったため、北壁から東壁の範囲が明瞭ではなかった。

規模は、南北推定4.1m、東西3.3m、深さが0.01~0.04mで、平面形態は南北にやや長い長方形をしていた。主軸方位は、N-41°-Wであった。

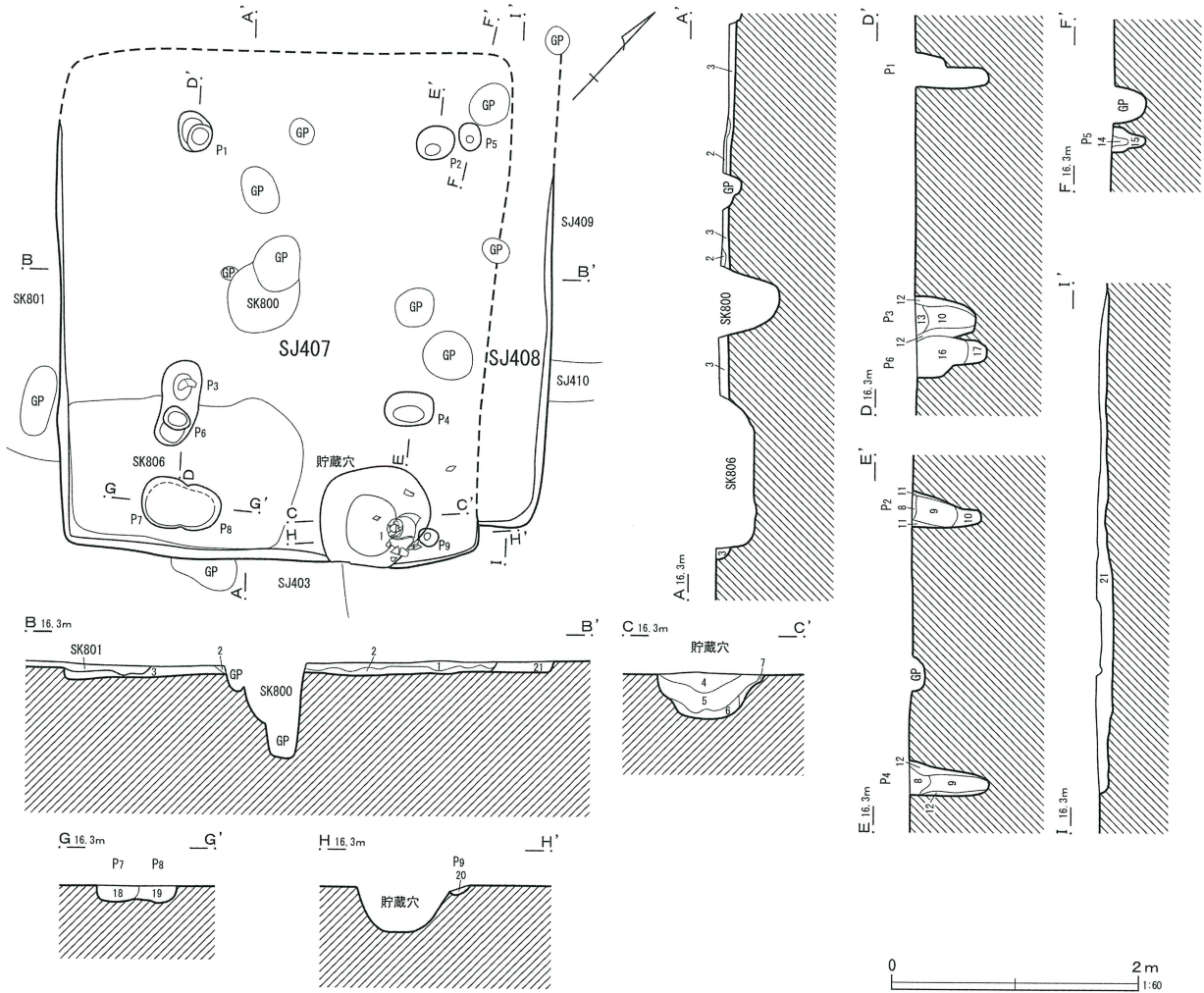
覆土は、3層からなる自然堆積であった。

炉跡、壁溝は検出できなかった。

貯蔵穴は、南東コーナー部の南壁際で検出された。規模は、長軸85cm、短軸83cm、深さが35cmで、平面形態は楕円形をしていた。貯蔵穴のすぐ東側からは胴部下半を欠損した土師器の壺が出土している。

ピットは9本を検出した。P1が33×57cm、P2が32×59cm、P3が38×52cm、P4が39×65cm、P5が22×28cm、P6が32×59cm、P7が41×10cm、P8が36×10cm、P9が16×6cmであった。

第206図1は、土師器の壺である。口縁端部と胴部



第407号住居跡

- | | | |
|--|----------|---|
| 1 黒褐色土 | 2. 5Y3/2 | 黒っぽい暗茶褐色のしまりある土 しまりあり 粘性ややあり |
| 2 黒褐色土 | 2. 5Y3/2 | 1層と同じ土+黄褐色土ブロック (φ10~20mm) 中~多量 炭化物ブロック (φ10mm) 少量 しまりあり 粘性ややあり |
| 3 灰オリーブ色土 | 5Y3/3 | 黄褐色土のしまりある土主体 暗茶灰色土少量 しまりあり 粘性ややあり |
| 貯蔵穴 | | |
| 4 黒褐色土 | 2. 5Y3/2 | 暗茶褐色のしまりのある粘質土主体 黄褐色土粒子 (φ3~10mm) 中~多量 しまりあり 粘性ややあり |
| 5 暗灰色土 | N3/0 | 暗灰色粘質土主体 青灰色土粒子 (φ1~3mm) 少~中量 粘性ややあり |
| 6 暗緑灰色土 | 5G3/1 | 緑灰色粘質土主体 暗灰色粘土少量 炭化物ブロック (φ5mm) 微量 しまりなし 粘性あり |
| 7 暗緑灰色土 | 5G4/1 | 6層よりも明るい緑灰色土 しまりあり 粘性ややあり (壁崩落土) |
| ビット 2~4 | | |
| 8 暗灰黄色土 | 2. 5Y4/2 | 茶褐色のしまりある土主体 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 少量 しまりあり 粘性ややあり |
| 9 黄灰色土 | 2. 5Y4/1 | 茶褐色のしまりある粘質土主体 黄褐色土粒子 (φ2mm) 多量 |
| P2の層下半は暗青灰色に変色している | | |
| 10 暗緑灰色土 | 5G4/1 | 緑灰色粘質土主体 暗灰色粘土少~中量 しまりなし しまりあり |
| ※P3は、全体的に少し色が暗めで5G3/1(暗緑灰色土)である | | |
| 11 黄褐色土 | 2. 5Y5/3 | 黄褐色のしまりある土に9層の土少量 しまりあり 粘性なし |
| 12 緑黒色土 | 5G2/1 | 黒っぽい暗緑色粘質土主体 緑灰色シルト斑を含む しまりややあり 粘性あり |
| ※P3・P4ともに12層の上部は変色しておらず 黒褐色土2. 5Y3/2を呈している | | |
| ※P3の方は変色していない上部の部分に黄褐色土粒子 (φ2mm) 多量 | | |
| 13 黒褐色土 | 2. 5Y3/1 | 黒褐色のしまりある土主体 焼土ブロック (φ5mm)・炭化物粒子 (φ1mm) 微量 しまりあり 粘性なし |
| ビット 5 | | |
| 14 暗オリーブ褐色土 | 2. 5Y3/3 | 暗茶褐色のしまりある土主体 黄褐色土粒子 (φ2~3mm) 斑を含む しまりあり 粘性なし |
| 15 黄灰色土 | 2. 5Y4/1 | 暗灰色のしまりある土主体 黄褐色土ブロック (φ10~20mm) 多量 しまりあり 粘性ややあり |
| ビット 6 | | |
| 16 暗緑灰色土 | 5G3/1 | 暗緑灰色粘質土主体 緑青灰色土斑を含む しまりあり 粘性ややあり |
| 層上部は変色しておらず暗茶褐色土 (2. 5Y3/3) に黄褐色土粒子含む | | |
| 17 暗緑灰色土 | 5G3/1 | 16層とほぼ同じ緑灰色土シルト少量 しまりややあり 粘性あり |
| ビット 7・8 | | |
| 18 オリーブ黒色土 | 5Y3/2 | 暗茶褐色のしまりある土主体 黄褐色土粒子 (φ3mm) 斑を含む しまりあり 粘性なし |
| 19 オリーブ黒色土 | 5Y3/2 | P7とほぼ同じで、黄褐色土粒子がP7より少ない |
| ビット 9 | | |
| 20 暗青灰色土 | 5B3/1 | 暗青灰色粘質土主体 青灰色土粒子 (φ50mm) 斑を含む |

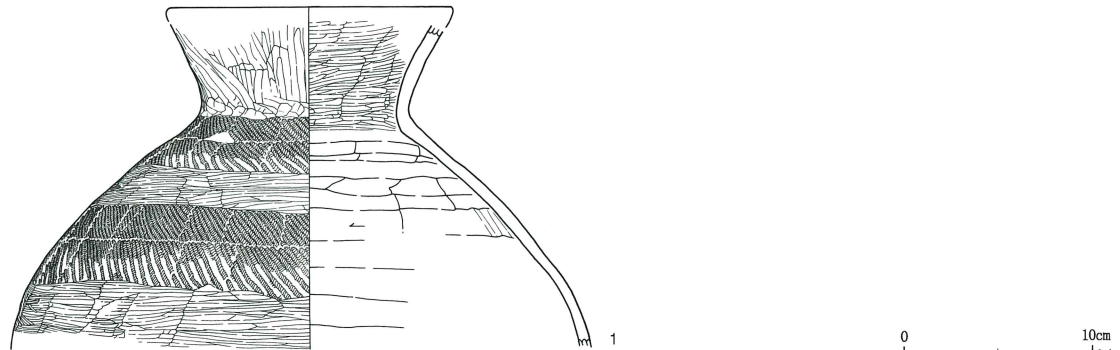
第408号住居跡

- | | | |
|---------|---------|--|
| 21 黒褐色土 | 10YR3/1 | 黒褐色のしまりある土主体 黄褐色土ブロック (φ10~20mm) 含む しまりあり 粘性ややあり |
|---------|---------|--|

第205図 第407・408号住居跡

下半を欠損している。胴部上半には、間に横方向のヘラミガキを挟んで、RL0段多条の縄文が施文される。胴部内面は、ヘラナデと指ナデによって整形

される。上に何かを載せるための台として転用された可能性もある。



第206図 第407号住居跡出土遺物

第408号住居跡 (第205図)

O・P-46グリッドにかけて検出された。第407・409・410号住居跡と重複していた。新旧関係は、第409・410号住居跡より新しく、第407号住居跡より古かった。北側は、谷部へと至るため標高がやや低くなっており、覆土がほとんど残存しておらず、検出できたのは東壁の一部のみであった。

規模は、南北3.8m以上、東西0.9m以上、深さが0.08mで、平面形態は不明である。主軸方位は、N-40°-Wであった。

炉跡、壁溝などの付属施設は検出できなかった。

遺物は、古墳時代前期の甕、縄文が施文された壺胴部片などが少量出土しているが、図示できるものがなかった。

第409号住居跡 (第207図)

O・P-46グリッドにかけて検出された。第407・408・410・411号住居跡と重複していた。新旧関係は、第410号住居跡より新しく、第407・408号住居跡より古かった。第411号住居跡との切り合いは不明である。本住居跡も、地形が低い地点で検出されたため、全体の形状が明瞭ではなかった。

規模は、南北推定3.2m、東西1.9m以上、深さが0.04mで、平面形態は不明である。主軸方位は、N-39°-Wであった。

炉跡、壁溝などの施設は検出できなかった。

ピットは小規模なものが6本検出できた。各ピットの規模は、P1が29×23cm、P2が32×27cm、P3が37×13cm、P4が31×21cm、P5が31×18cm、P6が29×47cmであった。

掘り方からは、北壁側でピットが新たに2本検出できた。ピットを繋ぐような形に、東半部のみ粗掘りをしていたことがわかった。

遺物は、古墳時代前期の甕や赤彩された壺の破片が少量出土しているが、図示できるものがなかった。

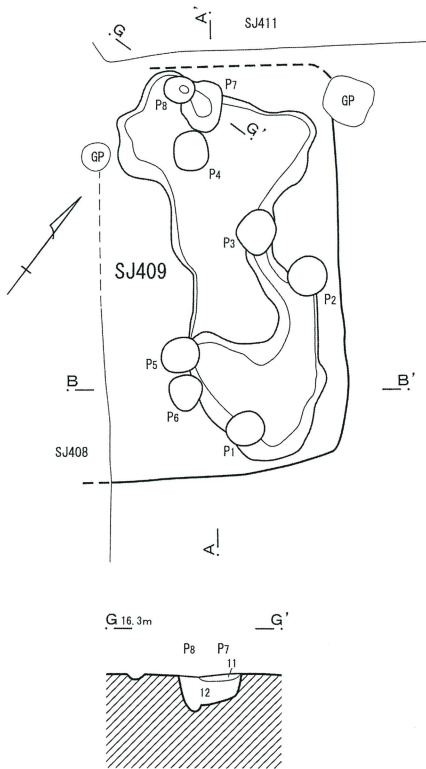
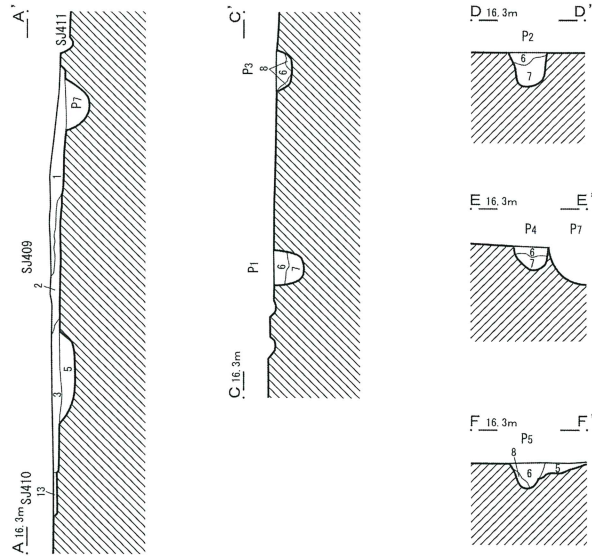
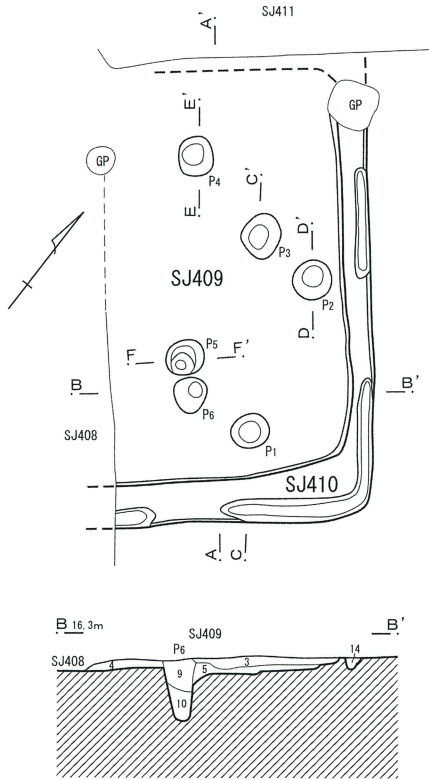
第410号住居跡 (第207図)

O・P-46グリッドにかけて検出された。第407・408・409・411号住居跡と重複していた。新旧関係は、第407・408・409号住居跡より新しく、第411号住居跡との切り合いは不明であった。第409号住居跡に大きく壊されていたため、検出できたのが南壁と東壁の一部だけであった。

規模は、南北3.7m以上、東西2.1m以上、深さが0.04mで、平面形態は不明であった。主軸方位は、N-39°-Wであった。

壁溝は、壁際を部分的に巡り、幅9~20cm、深さが2~4cmであった。

遺物は、古墳時代前期の土師器甕片などが少量出土しているが、図示できるものがなかった。



第409号住居跡

- | | | |
|------------|---------|--|
| 1 黒褐色土 | 2.5Y3/2 | 黒っぽい暗茶褐色のしまりある土 黄褐色土粒子 (φ5~10mm) 少量 炭化物粒子(φ1mm) 微量 しまりあり 粘性ややあり |
| 2 暗オリーブ色土 | 2.5Y3/3 | 3層より明るい暗茶褐色のしまりある土 黄褐色土ブロック (φ20~50mm) 多量 炭化物粒子 (φ2mm) 微量 しまりあり 粘性ややあり |
| 3 黒褐色土 | 2.5Y3/2 | 黒褐色のしまりある土主体 黄褐色土粒子 (φ3mm) 微量 しまりあり 粘性なし |
| 4 暗オリーブ褐色土 | 5Y4/3 | 地山っぽい黄褐色土主体 茶褐色土少量 しまりあり 粘性ややあり |
| 5 暗灰黄色土 | 2.5Y4/2 | 黄褐色ローム土多量 暗茶褐色土少量 しまりあり 粘性弱い (掘り方) |

ピット 1~5

- | | | |
|--------|---------|--|
| 6 黒褐色土 | 2.5Y3/2 | 黒っぽい暗茶褐色のしまりある土 しまりあり 粘性弱い |
| 7 緑黒色土 | 5G2/1 | 黒っぽい暗灰緑色土主体 緑灰色土粒子 (φ3mm) 少~中量 しまりあり 粘性ややあり |
| 8 暗灰色土 | N3/0 | 暗灰色粘質土主体 黄褐色土ブロック (φ10mm) 多量 しまりあり 粘性ややあり (壁崩落土) |

ピット 6

- | | | |
|------------|---------|---|
| 9 暗オリーブ褐色土 | 2.5Y3/3 | 暗茶褐色のしまりある粘質土 黄褐色土 (φ5mm) 斑に多量 しまりあり 粘性ややあり |
| 10 暗青灰色土 | 5B4/1 | 暗青灰色粘質土 青灰色土ブロック (φ10mm) 多量 しまりややあり 粘性あり |

ピット 7・8

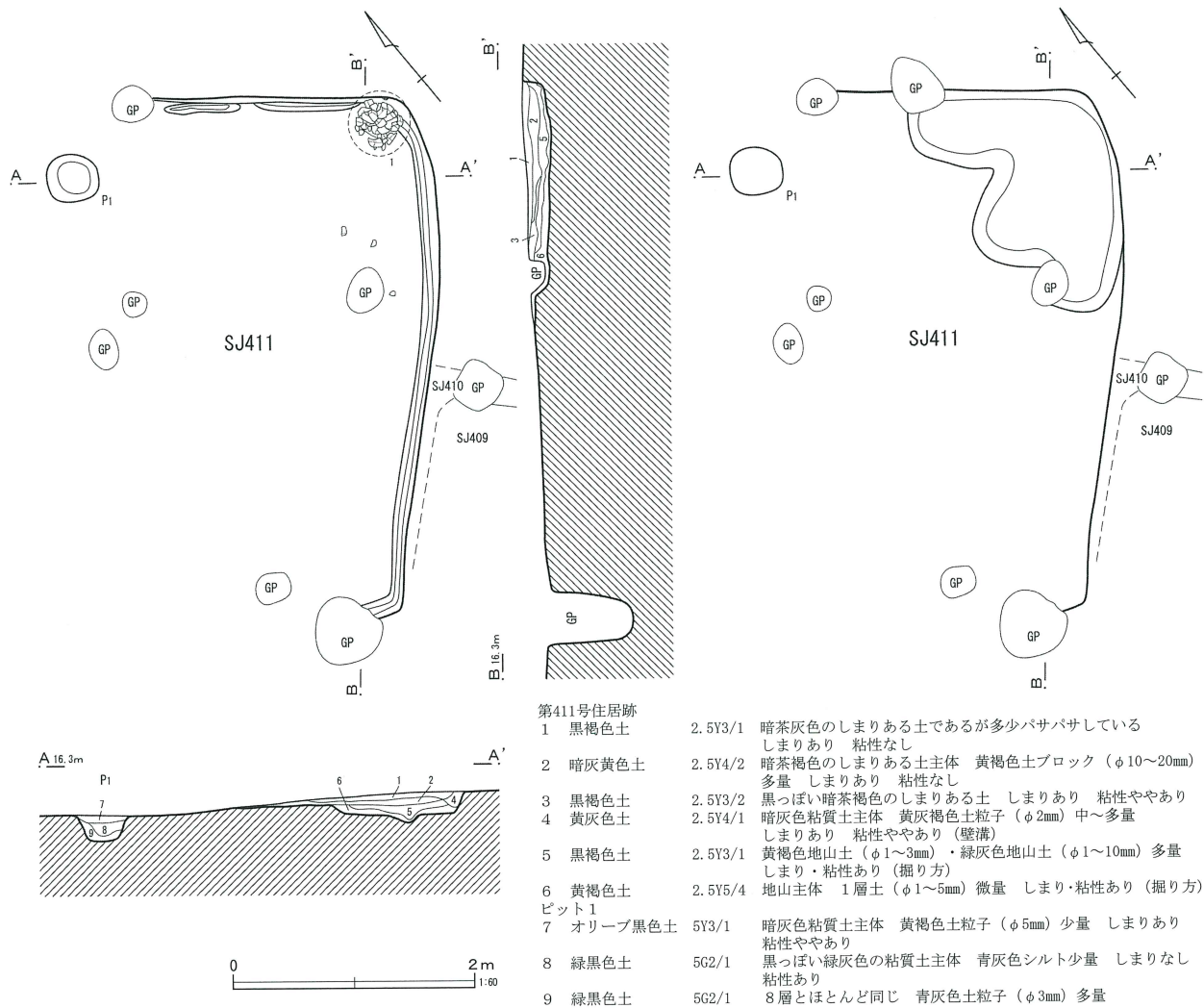
- | | | |
|---------|---------|--|
| 11 黄灰色土 | 2.5Y4/1 | 暗灰色のしまりある土主体 青灰色土粒子 (φ2mm) 少~中量 しまりあり 粘性ややあり |
| 12 暗灰色土 | N3/0 | 暗灰色粘土主体 青灰色土粒子 (φ5mm) 少量 しまりなし 粘性ややあり |

第410号住居跡

- | | | |
|----------|---------|---|
| 13 黒褐色土 | 2.5Y3/2 | 黒っぽい暗茶褐色のしまりある土 しまりあり 粘性なし |
| 14 暗灰黄色土 | 2.5Y3/2 | 茶褐色のしまりある土 黄褐色土粒子 (φ3mm) 多量 しまりあり 粘性なし (壁溝) |



第207図 第409・410号住居跡



第208図 第411号住居跡

第411号住居跡 (第208図)

○・P-46グリッドの谷部への落ち際で検出された。第409・410号住居跡と重複していたが、新旧関係は不明である。標高が16m前後と低い地点にあったため、形状は不明瞭であった。

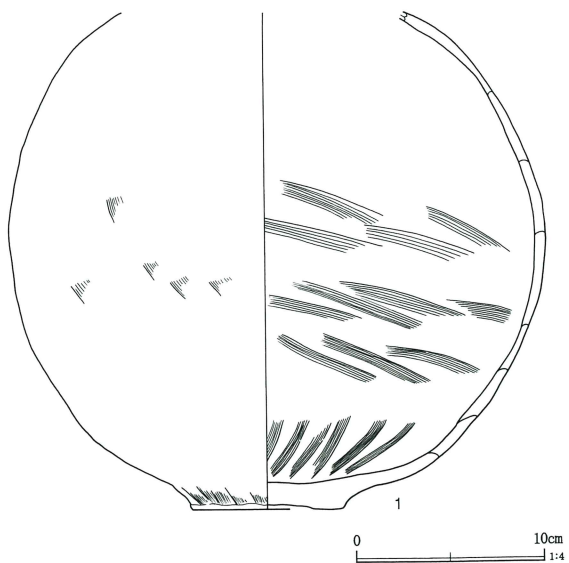
規模は、南北4.3m、東西3.2m以上、深さが0.07mであった。主軸方位は、N-42° - Eであった。

壁溝は、壁が検出できた範囲ではほぼ全周しており、幅9~16cm、深さが2~4cmであった。

ピットは北西部で1本のみ検出できた。規模は、42×22cmであった。

掘り方は、北東隅のみ粗掘りが確認できた。

遺物は、北東コーナー部で第209図1のほぼ完形の壺が潰れた状態で出土している。



第209図 第411号住居跡出土遺物

第412号住居跡（第210図）

Q-45・46グリッドにかけて検出された。第413号住居跡、第416号井戸跡、第786号土坑、第816・817・818号溝跡と重複していた。新旧関係は、第413号住居跡より新しく、第416号井戸跡、第786号土坑、第816・817・818号溝跡より古かった。西側は遺構の重複が著しかったため、壁の立ち上がりがよくわからなかった。

規模は、南北4.8m、東西推定3.9m、深さが0.02～

0.09mで、平面形態は南北に長い長方形をしていた。主軸方位は、N-25°-Wであった。西壁部分は推定ラインよりまだ西側へ延びる可能性がある。

覆土は、2層からなる自然堆積であった。住居跡南西部の床面上には薄い炭化物の層（2層）が堆積していた。

カマドは検出できなかった。

壁溝は、壁が検出できた範囲では全周しており、幅14～21cm、深さが4～6cmであった。



- 第412号住居跡
 1 暗褐色土 10YR3/3 2～3cmのロームブロックを含む
 2 にぶい黄褐色土 10YR4/3 焼土粒子（φ10mm）・炭化粒子（φ10mm）多量

- ピット1
 3 黒褐色土 10YR3/2 黄褐色土ブロック（φ20～30mm）多量 しまりやや弱い（住居の覆土とほぼ同じ）
 4 黒褐色土 10YR3/2 黄褐色土粒子（φ5mm）少量 しまりやや弱い

- 第413号住居跡
 5 黒褐色土 10YR2/3 5～10cmのロームブロック多量（埋め戻し）

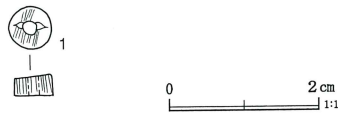
0 2m 1:60

第210図 第412・413号住居跡

ピットは北東コーナー部で1本を検出できた。規模は61×50cmで、平面形態は円形をしていた。位置から推測すると、貯蔵穴である可能性も考えられる。

遺物は、覆土中から古墳時代後期の土師器模倣坏、比企型坏、高坏片などが少量出土している。

第211図1は、西壁寄り出土した滑石製の白玉である。本遺構から出土した遺物で図示できたものは、石製品が1点のみである。



第211図 第412号住居跡出土遺物

第413号住居跡 (第210図)

Q-45・46グリッドにかけて検出された。第412号住居跡、第416号井戸跡、第786・824号土坑、第816・817号溝跡と重複していた。新旧関係は、第412号住居跡、第416号井戸跡、第786号土坑、第816・817号溝跡より新しく、第824号土坑との切り合いは不明であった。

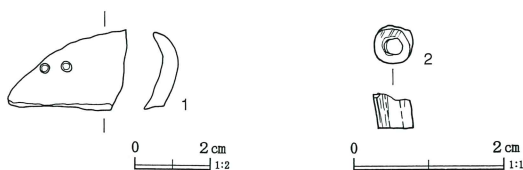
規模は、南北3.6m、東西3.7m以上、深さが0.07～0.09mで、平面形態は方形をしていたと思われる。主軸方位は、N-43°-Wであった。

覆土は1層のみ確認でき、埋め戻しされた可能性がある。第412号住居跡を構築するために行ったのか、住居跡の廃絶に伴って行ったのかは不明である。

カマド、壁溝などの施設は検出できなかった。

遺物は、古墳時代後期の土師器片が少量出土した。

第212図1は、口縁部土器片に穿孔されたもので、補修痕である可能性も考えられる。2は、滑石製の白玉である。2点の遺物を図示できたが、本遺構に伴う遺物であるかは不明である。



第212図 第413号住居跡出土遺物

第414号住居跡 (第213・214図)

P・Q-46・47グリッドにかけて検出された。第406・415・416・421号住居跡、第422・423号井戸跡、第815号土坑、第789・809・811・814・820・822号溝跡と重複していた。新旧関係は、第415号住居跡より新しく、第406号住居跡、第422・423号井戸跡、第815号土坑、第789・809・811・814・820・822号溝跡より古かった。第416・421号住居跡との切り合いは不明である。

規模は、南北6.3m、東西7.9m以上、深さが0.10mで、平面形態は東西に長い方形をしていた。主軸方位は、N-38°-Wであった。

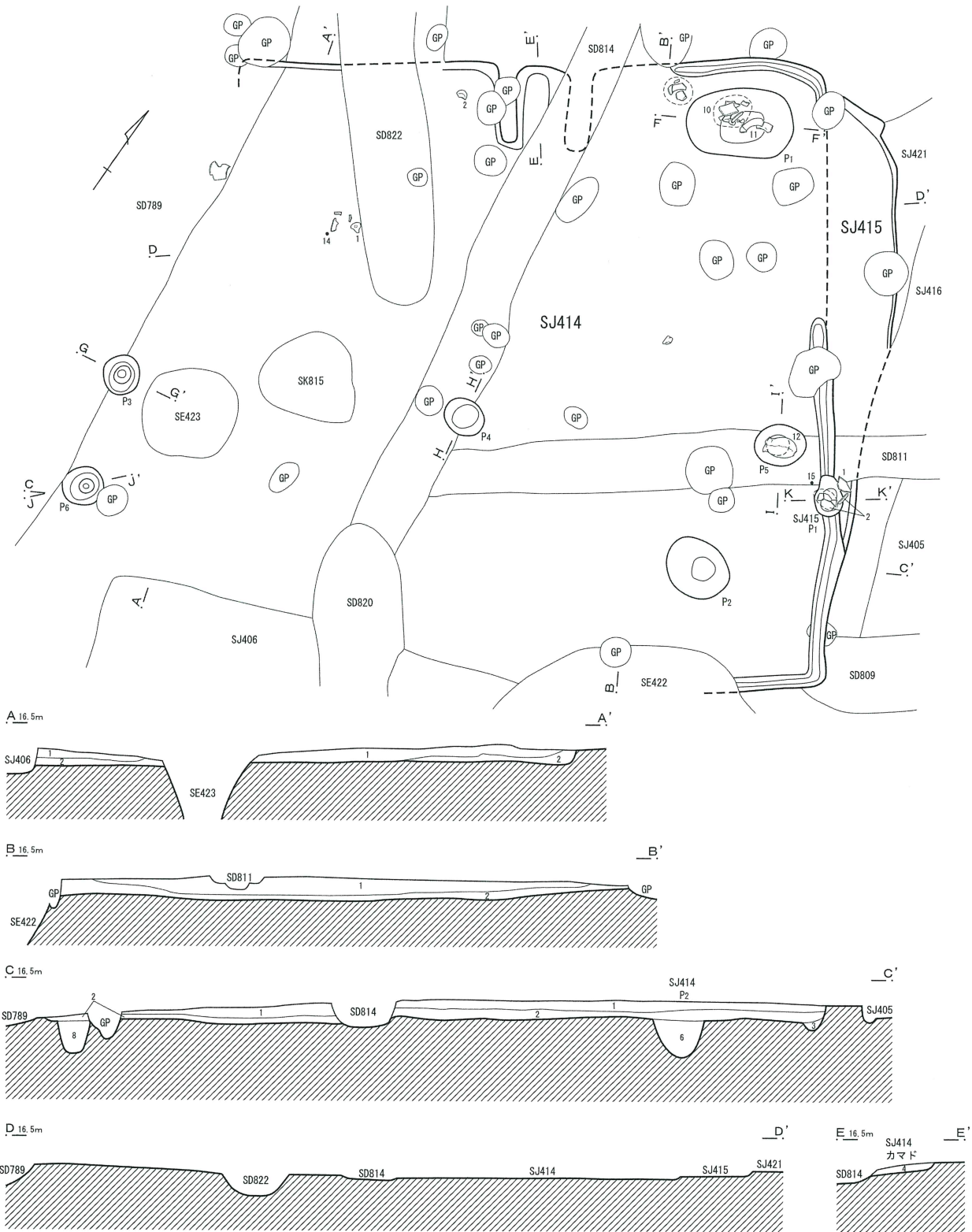
カマドは、住居跡の北壁で検出された。燃焼部は、南北84cm、東西52cmで、床面とほぼ同じ高さであった。覆土には少量の灰が確認できた。

壁溝は、西壁部分のみ検出できた。幅12～24cm、深さが4～7cmであった。

ピットは6本を検出した。P1は北東コーナー部で検出され、貯蔵穴である可能性が高い。規模は、長軸107cm、短軸68cm、深さが36cmで、平面形態は東西に長い楕円形をしていた。他のピットの性格は不明である。P2が68×48cm、P3が40×22cm、P4が43×42cm、P5が53×28cm、P6が42×34cmであった。P5からは土師器甕が出土している。

遺物は、北東コーナー部の貯蔵穴と考えられるP1から、土師器の鉢と甕が出土している。東壁寄りのP5からは、ほぼ完形の土師器甕が埋納されたような状態で出土した。また、図示はできなかったが桃の種が覆土から出土している。

第215図1・2は、小型の須恵器坏蓋である。2点とも湖西産と考えられる。3～7は土師器の坏で、3が有段口縁坏、4が模倣坏、6が身模倣坏、7が比企型坏である。5・7は、口縁部外面から内面にかけて赤彩される。8・9は、土師器の高坏である。12は、P5から出土したほぼ完形の土師器甕である。13は、末野産と考えられる須恵器甕の胴部片である。14・15は、滑石製の白玉である。

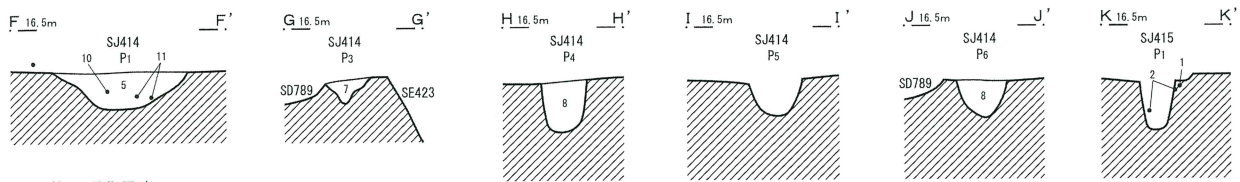


第414号住居跡

- 1 暗褐色土 10YR3/3 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) ・黄褐色土ブロック (φ3~5mm) ・焼土粒子 (φ1~2mm) ・炭化物粒子 (φ1~3mm) 少量
- 2 黒褐色土 10YR3/1 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) ・黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量 焼土粒子 (φ1~3mm) ・炭化物粒子 (φ1~3mm) 少量
- 3 黒色土 5Y2/1 緑灰色土粒子 (φ1~2mm) ・緑灰色土ブロック (φ3~5) 少量
- 4 黒褐色土 10YR3/2 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) ・黄褐色土ブロック (φ3~5mm) ・焼土ブロック (φ2~3mm) 多量 炭化物粒子 (φ2~3mm) ・灰少量



第213図 第414・415号住居跡 (1)

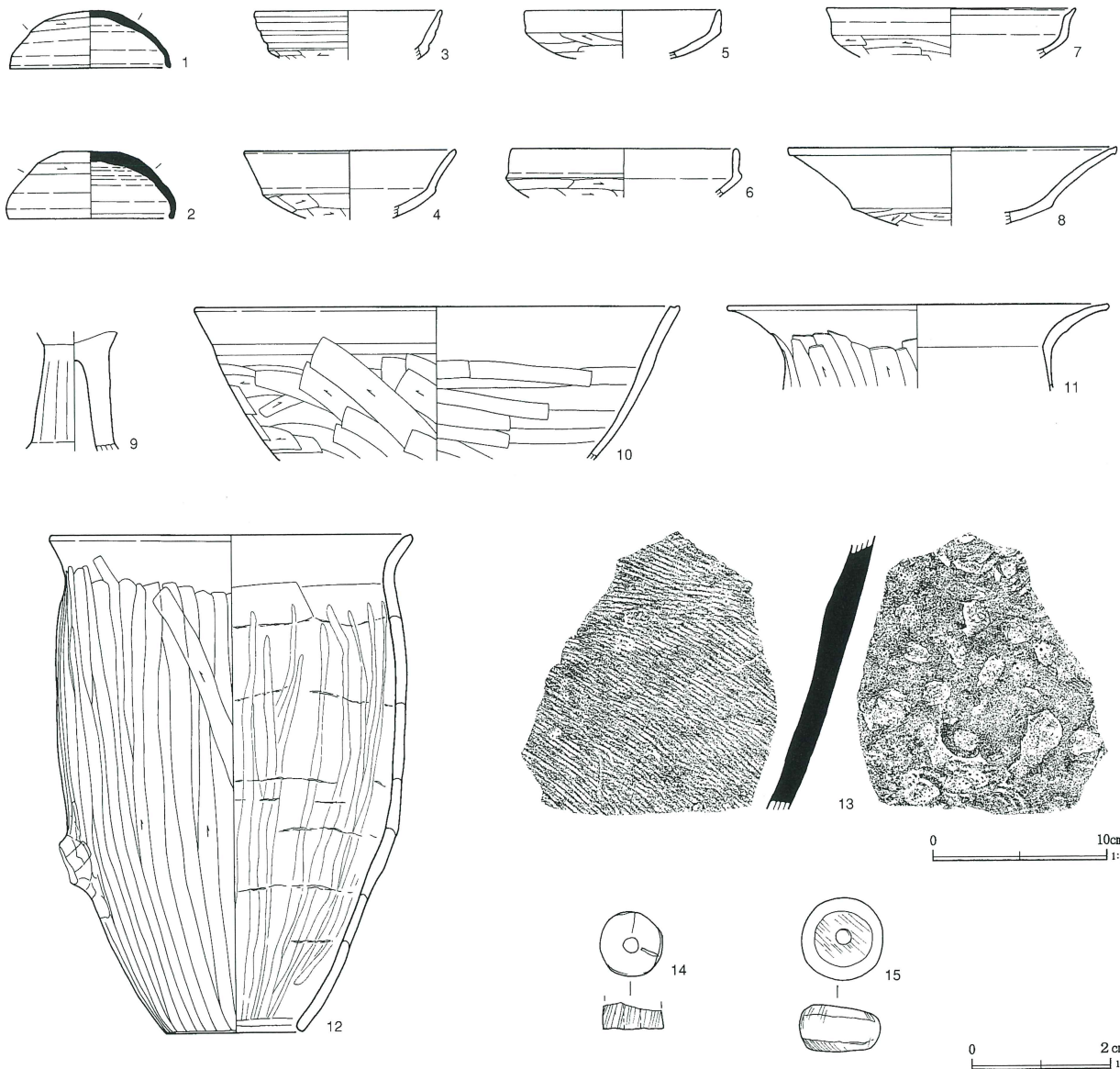


第414号住居跡

- ピット1
 5 黒褐色土 10YR3/1 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~10mm)・炭化物粒子 (φ2~10mm) 多量 焼土ブロック (φ2~5mm) 少量
 ピット2
 6 黒色土 5Y2/1 緑灰色土粒子 (φ1~2mm)・緑灰色土ブロック (φ3~5mm) 少量 炭化物粒子 (φ1~2mm) 微量
 ピット3
 7 暗褐色土 10YR3/3 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 少量 焼土粒子 (φ1~2mm)・炭化物粒子 (φ1~2mm) を微量
 ピット4・6
 8 暗褐色土 10YR3/3 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量 焼土粒子 (φ1~2mm)・炭化物粒子 (φ1~2mm) 微量



第214図 第414・415号住居跡 (2)



第215図 第414号住居跡出土遺物

第415号住居跡 (第213・214図)

Q-46グリッドで検出された。第414・416・421号住居跡、第811号溝跡と重複していた。新旧関係は、第414号住居跡、第811号溝跡より古かった。第416・421号住居跡との新旧関係は不明である。第414号住居跡に大きく壊されていたため、検出できたのが北東コーナー部の一部のみであった。

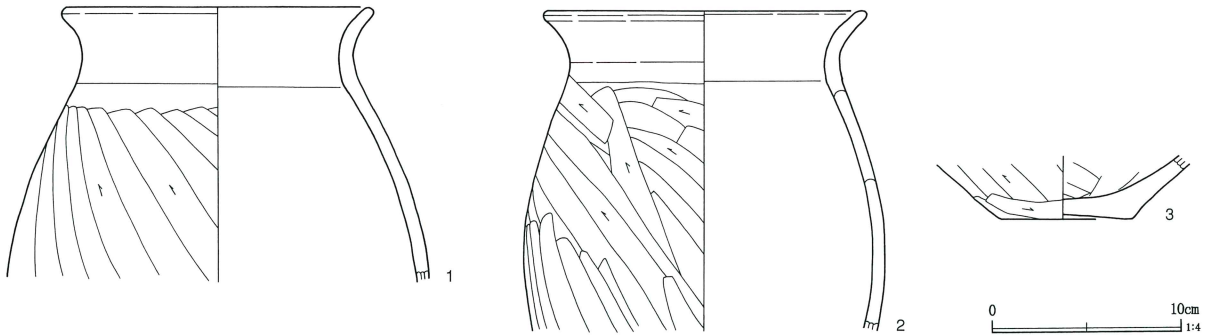
規模は、南北4.6m以上、東西0.7m以上、深さが

0.04mで、平面形態は不明である。主軸方位は、N-33°-Wであった。

カマド、壁溝などの施設は検出できなかった。

ピットは第414号住居跡の壁溝下から1本を検出できた。規模は41×36cmで、土師器の甕が2点出土している。

第216図1・2は、P1から出土した土師器甕である。2点とも胴部下半を欠損している。



第216図 第415号住居跡出土遺物

第416号住居跡 (第218図)

Q-46グリッドで検出された。第405・415・417・421号住居跡、第793・796号土坑、第811号溝跡と重複していた。新旧関係は、第417号住居跡より新しく、第405号住居跡、第796号土坑、第811号溝跡より古かった。第415・421号住居跡、第793号土坑との切り合いは不明である。南半部は第405号住居跡に壊されていたため、残存していたのは北半部だけであった。

規模は、南北2.7m以上、東西3.9m、深さが0.03~0.17mで、平面形態は方形をしていたと思われる。主軸方位は、N-27°-Wであった。

覆土は、2層からなる自然堆積であった。

カマド、壁溝などの施設は検出できなかった。

ピットは2本を検出した。規模は、P1が45×35cm、P2が43×33cmであった。

遺物は、覆土中から古墳時代後期の土師器模倣坏、高坏、壺、甗片などが少量出土している。

第217図1は、須恵器の坏身である。2は、土師器の模倣坏である。

第417号住居跡 (第218図)

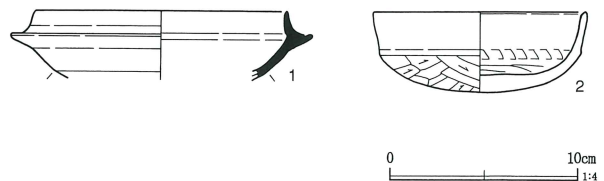
Q・R-46グリッドにかけて検出された。第405・416号住居跡、第809・810・811号溝跡と重複し、切り合う遺構の中で本住居跡が一番古かった。

規模は、南北1.0m以上、東西1.8m以上、深さが0.05~0.09mで、平面形態は不明である。主軸方位は、N-26°-Wであった。

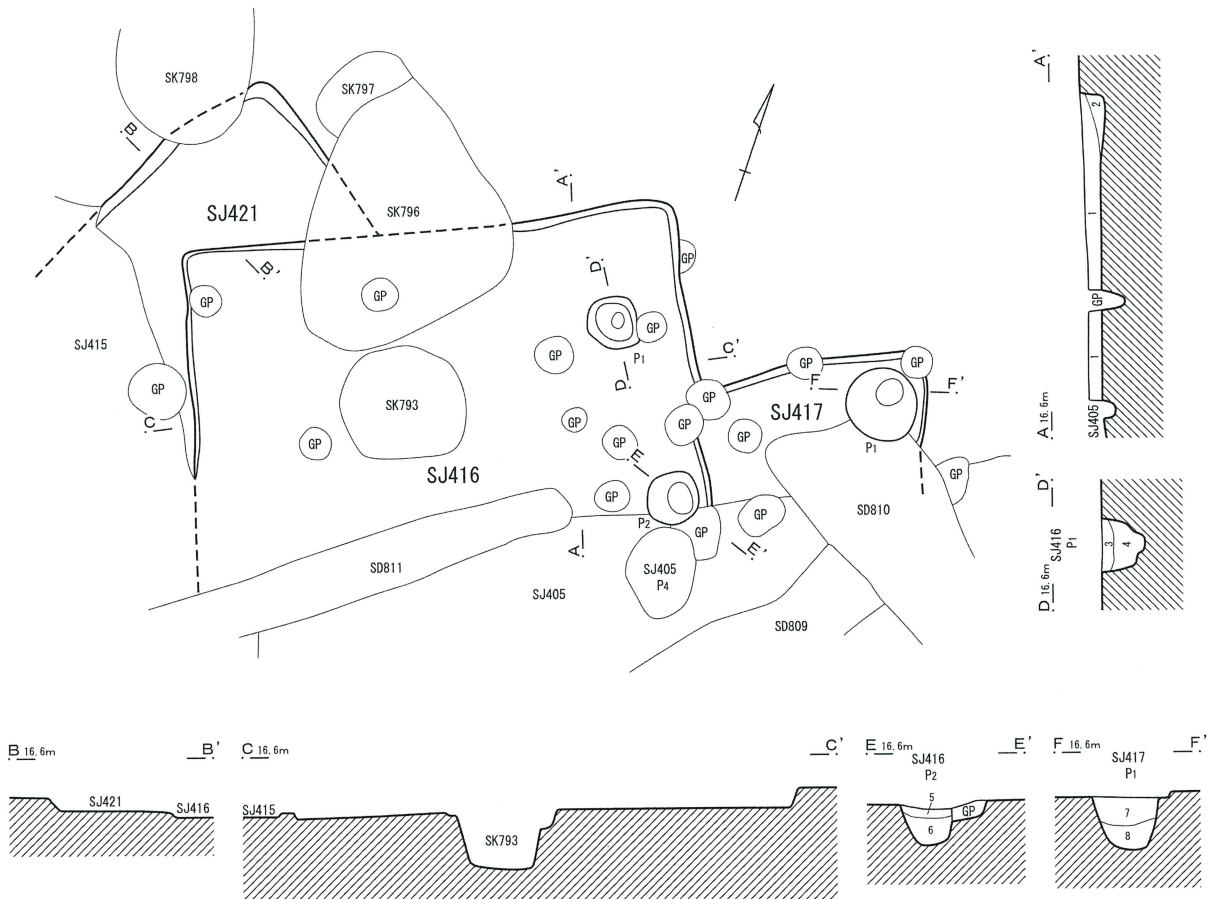
炉跡、壁溝は検出できなかった。

ピットは北東隅で1本を検出できた。規模は58×41cmで、貯蔵穴である可能性が考えられる。

第219図1は、二重口縁の壺口縁部片である。2は、S字状口縁台付甕の口縁部片である。3は、吉ヶ谷式の甕胴部片である。外面に輪積み痕を明瞭に残し、単節LR縄文を施文する。

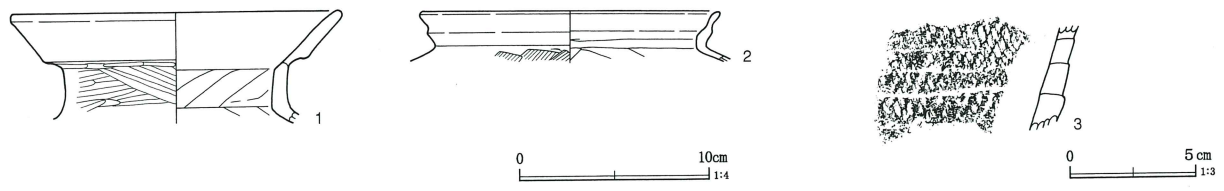


第217図 第416号住居跡出土遺物



- 第416号住居跡
- 1 黒褐色土 10YR3/2 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量 焼土・炭化物粒子 (φ1~3mm) 少量
 - 2 黒褐色土 10YR3/3 黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量 (地山崩落土)
- ビット1
- 3 黒褐色土 10YR3/2 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 焼土粒子 (φ1~2mm)・炭化物粒子 (φ1~2mm) 少量
 - 4 黒褐色土 10YR3/1 黄褐色土粒子ブロック (φ3~10mm) 多量 焼土粒子 (φ1~3mm)・炭化物粒子 (φ1~3mm) 少量
- ビット2
- 5 暗褐色土 10YR3/3 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・焼土粒子 (φ1~3mm)・炭化物粒子 (φ1~3mm) 少量
 - 6 黒褐色土 10YR3/1 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~5mm)・焼土粒子 (φ1~2mm) 少量
- 第417号住居跡
- ビット1
- 7 暗褐色土 10YR3/3 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・焼土粒子 (φ1~2mm)・炭化物粒子 (φ1~2mm) 少量
 - 8 黒褐色土 10YR3/1 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~5mm)・焼土粒子 (φ1~2mm) 少量

第218図 第416・417・421号住居跡



第219図 第417号住居跡出土遺物

第418号住居跡 (第220図)

Q-48グリッドで検出された。住居跡の大部分が調査区域外に延びていたため、全体を調査することができなかった。また、調査開始前に掘削した排水溝により床面の一部が壊されていた。それにより検

出できたのは、北壁部分だけであった。第404・406・419号住居跡と重複しており、本遺構が一番新しかった。

規模は、南北1.4m以上、東西4.8m以上、深さが0.12mで、平面形態は不明である。主軸方位は、N-

22° - Wであった。

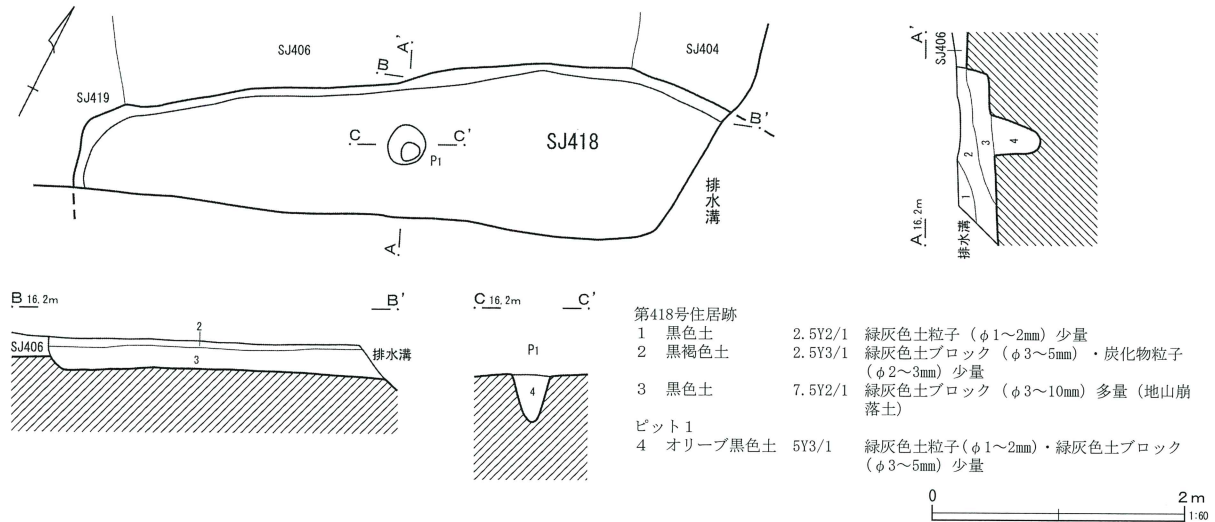
覆土は、3層からなる自然堆積であった。

カマド、壁溝などの施設は検出できなかった。

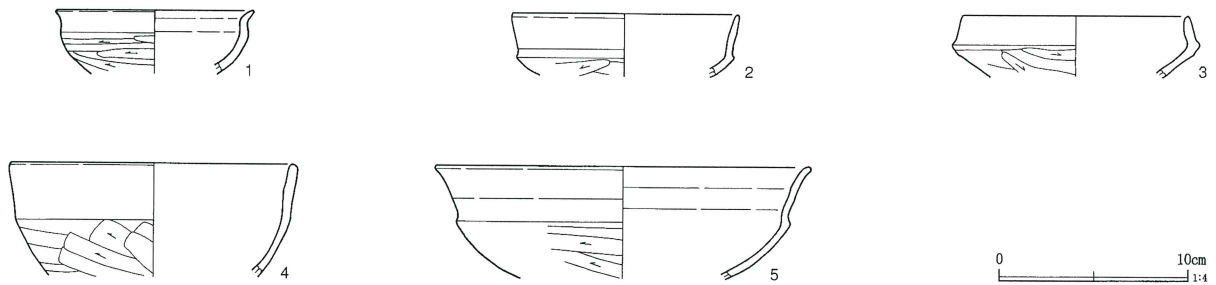
ピットは1本のみ検出できた。規模は31×38cmで、性格は不明である。

遺物は、古墳時代後期の土師器片が覆土から少量出土している。

第221図1～3は土師器坏で、1が比企型坏、2が模倣坏、3が身模倣坏である。1は内外面に赤彩される。4・5は、土師器の鉢である。



第220図 第418号住居跡



第221図 第418号住居跡出土遺物

第419号住居跡 (第223図)

P・Q-48グリッドにかけて検出された。南側は調査区域外に伸びていたため、全体を調査することができなかった。第406・418・420号住居跡、第789号溝跡と重複していた。新旧関係は、第420号住居跡より新しく、第406・418号住居跡、第789号溝跡より古かった。

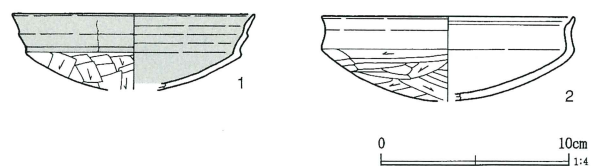
規模は、南北4.7m以上、東西3.6m以上、深さが0.08~0.21mで、平面形態は不明である。主軸方位は、N-45° - Wであった。

カマド、壁溝などの施設は検出できなかった。

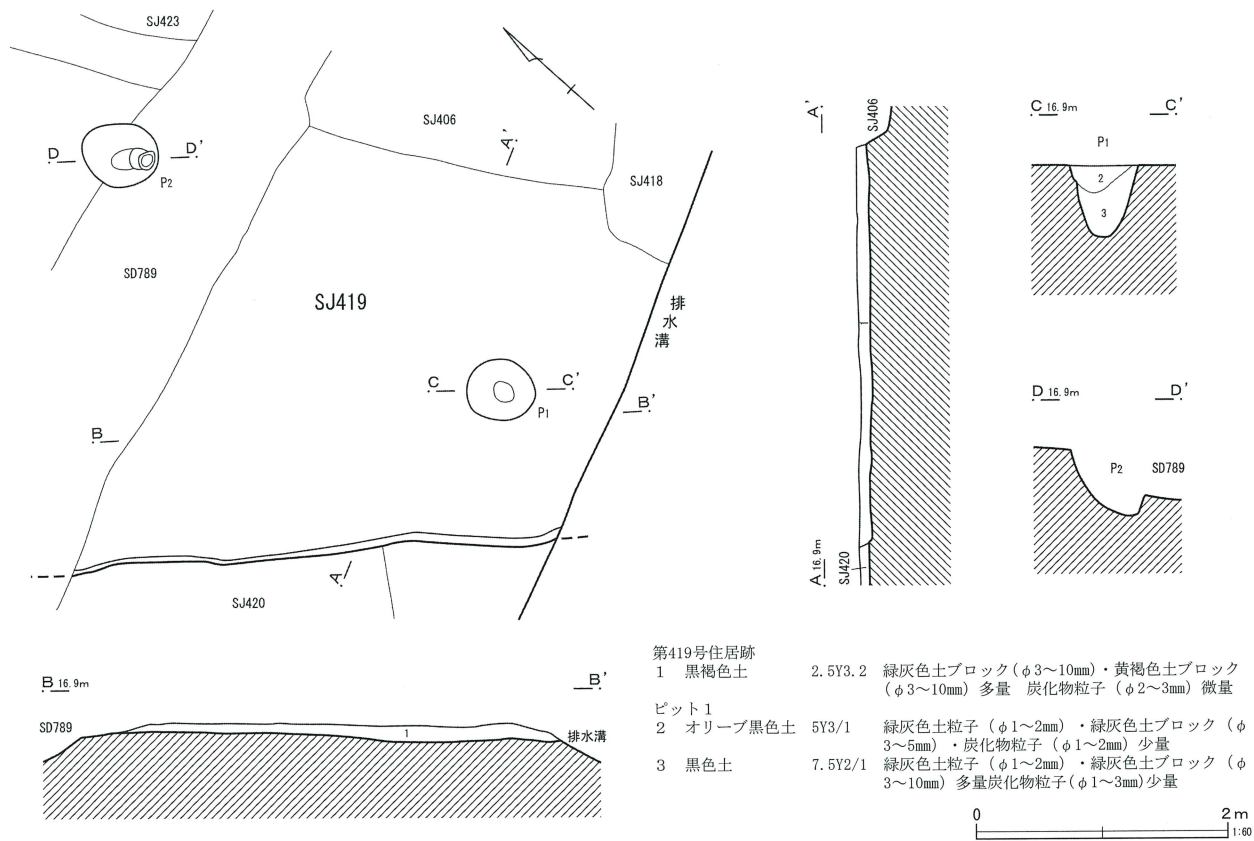
ピットは2本を検出した。規模は、P1が54×56cm、P2が62×53cmであった。

遺物は、古墳時代後期の土師器模倣坏、有段口縁坏、比企型坏などの破片が多量に出土している。

第222図1は、土師器の有段口縁坏で、黒色処理が施される。2は比企型坏で、赤彩が施される。



第222図 第419号住居跡出土遺物



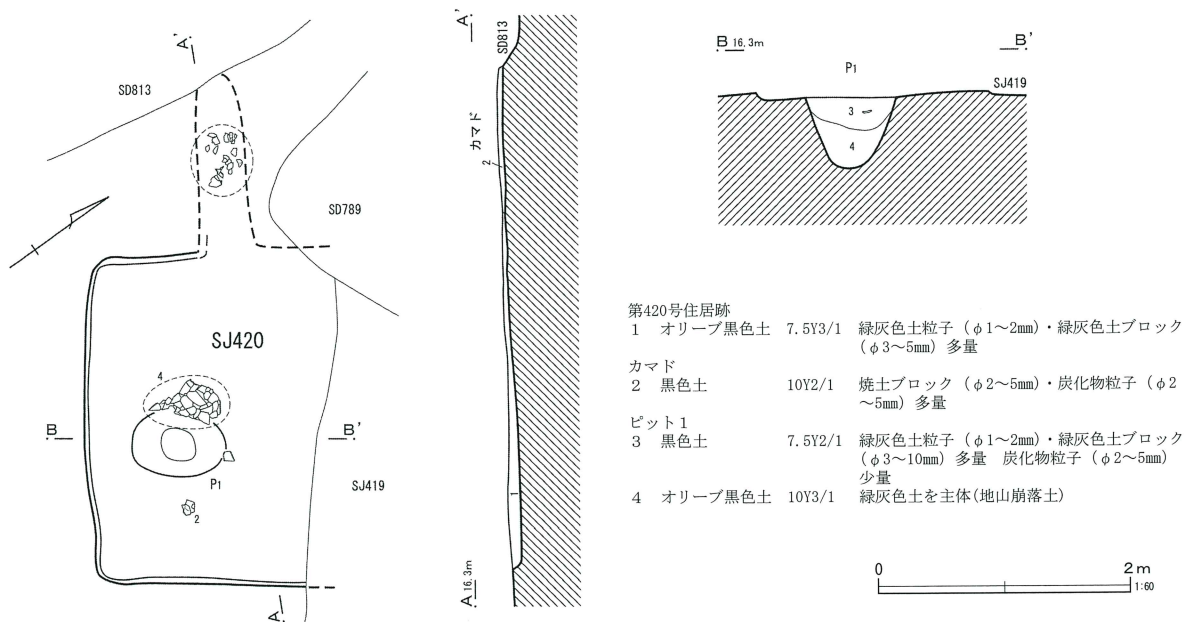
第223図 第419号住居跡

第420号住居跡 (第224図)

P・Q-48グリッドにかけて検出された。第419号住居跡、第789・813号溝跡と重複し、本遺構が一番

古かった。

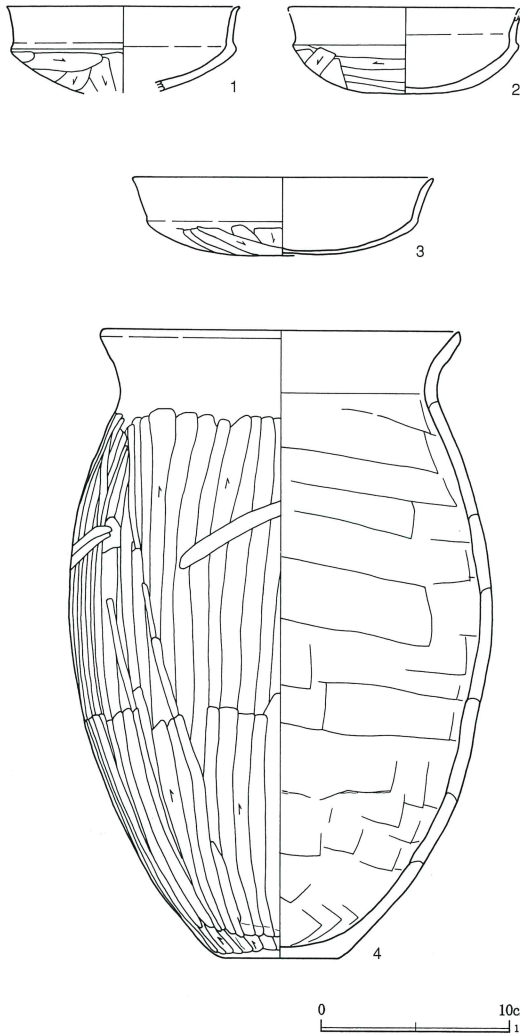
規模は、南北2.0m以上、東西2.6m、深さが0.05mで、平面形態は方形をしていたと思われる。主軸方



第224図 第420号住居跡

位は、N-57° -Wであった。

カマドは、住居跡西壁のほぼ中央で検出された。覆土がほとんど残っていなかったため、袖や煙道部の煙出し部分は確認できなかった。煙道部の先端は、



第225図 第420号住居跡出土遺物

第813号溝跡と重複する部分まで焼土や炭化物が確認できたため、壁外に大きく延びていたものと考えられる。煙道部の規模は、長さ145cm、幅40cm、深さが3cmであった。

壁溝、貯蔵穴は検出できなかった。

ピットは南壁寄りですべて1本を検出した。規模は59×55cmで、土師器の模倣坏片などが出土している。

遺物は、カマド内とP1周辺から古墳時代後期の土師器坏、甕などが少量出土している。

第225図1～3は、土師器の模倣坏である。1・3がP1内から出土した。4がP1の脇から出土した土師器の甕である。

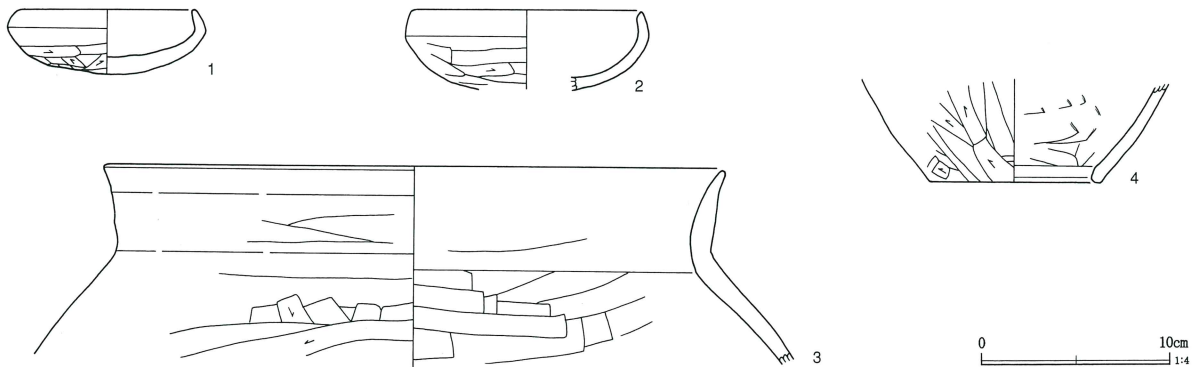
第421号住居跡 (第218図)

Q-46グリッドで検出された。第415・416号住居跡、第796・798号土坑と重複していた。新旧関係は、第796・798号土坑より古く、第415・416号住居跡とは不明である。第415・416号住居跡と大きく切り合っていたため、検出できたのは北東コーナー部だけであった。

規模は、南北2.3m以上、東西1.6m以上、深さが0.10mで、平面形態は不明であった。主軸方位は、N-31° -Eであった。

カマド、壁溝などの施設は検出できなかった。

遺物は、古墳時代後期の須恵器甕、土師器甕片などが少量出土しているが、小破片のため図示できるものがなかった。



第226図 第422号住居跡出土遺物

第422号住居跡 (第181図)

Q-44・45グリッドにかけて検出された。第397号住居跡、第410号井戸跡、第760・783・785号土坑、第789・797・827・829号溝跡と重複していた。

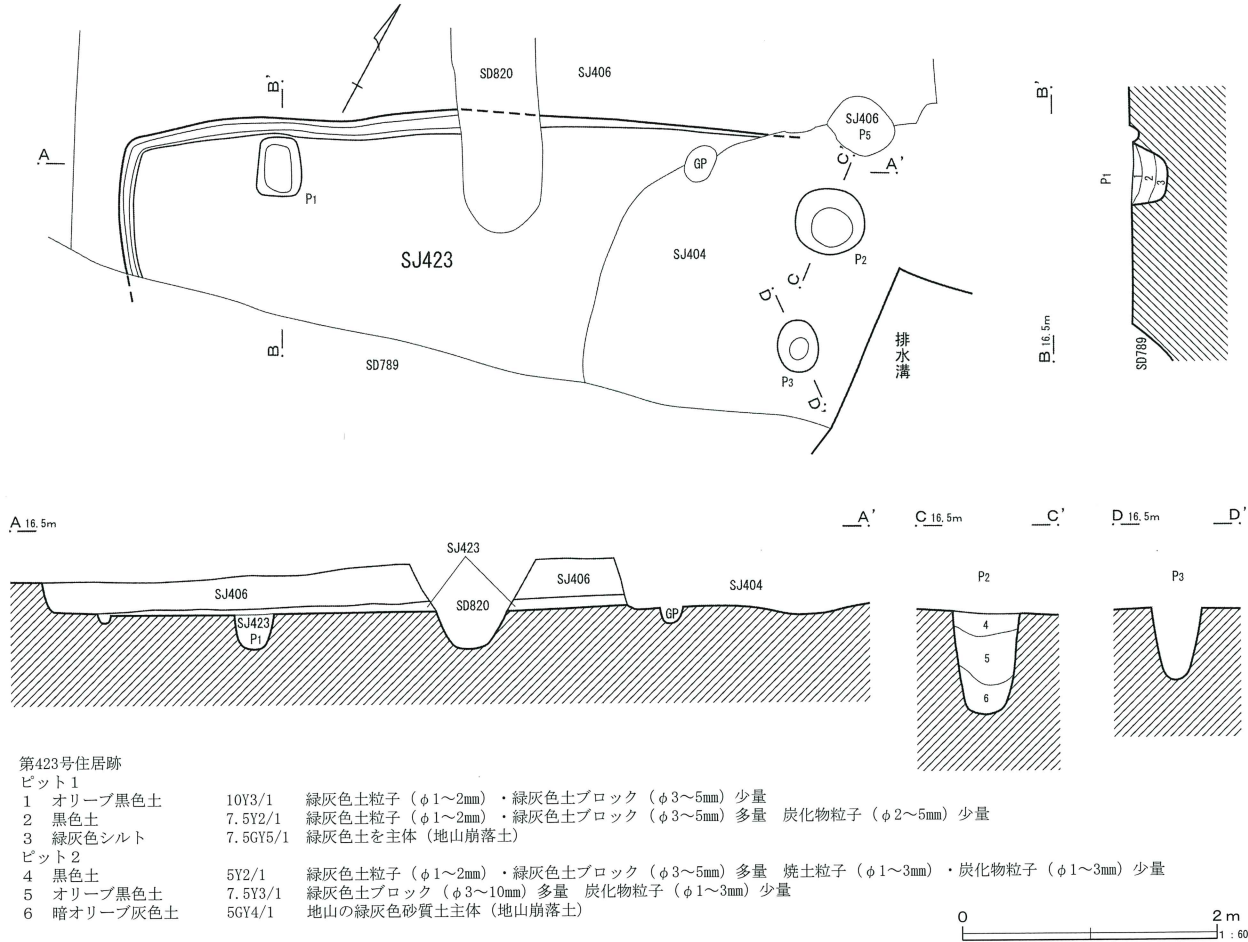
新旧関係は、第397号住居跡より新しく、第410号井戸跡、第783・785号土坑、第789・797号溝跡より古かった。他の遺構との切り合いは不明である。

規模は、南北5.0m、東西3.4m以上、深さが0.08mであった。主軸方位は、N-58° - Eであった。

壁溝は、幅10~24cm、深さが2~11cmであった。

ピットは北西コーナー部で2本を検出した。規模は、P1が39×49cm、P2が36×23cmであった。

第226図1・2は、土師器の坏である。1がP1、3・4がP2から出土している。



第227図 第423号住居跡

第423号住居跡 (第227図)

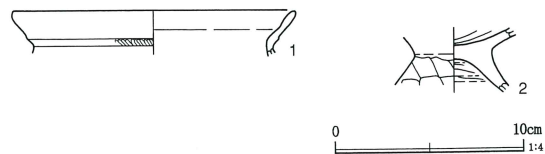
Q-47グリッドで検出された。第406号住居跡の床面下から検出されたため、残りが悪く、南壁の範囲は確認できなかった。第404・406号住居跡、第789・820号溝跡と重複し、本住居跡が一番古かった。

規模は、南北2.2m、東西5.0m、深さが0.01mであった。主軸方位は、N-28° - Wであった。

壁溝は、北壁から西壁にかけて部分的に検出され、幅10~18cm、深さが6~7cmであった。

ピットは3本を検出した。規模は、P1が48×28cm、P2が54×81cm、P3が41×56cmであった。

第228図1は、P1から出土した甕口縁部片である。2は、P2から出土した台付甕である。



第228図 第423号住居跡出土遺物

第5表 住居跡出土遺物観察表(1)

挿図番号	遺構番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	備考	図版
46	1	SJ 324	土師器 坏	(13.0)	[3.2]	—	1/4	雲角赤粒白粒	普通	橙	北武蔵型坏	
46	2	SJ 324	土師器 皿	(15.7)	[3.5]	—	1/3	雲角赤粒	普通	橙		
46	3	SJ 324	須恵器 坏	—	[1.9]	(7.8)	底部破片	雲石英白粒針	良好	灰黄褐	南比企産	
49	1	SJ 325	須恵器 蓋	(18.4)	[2.0]	—	破片	石英赤粒白粒針	普通	灰		
49	2	SJ 325	須恵器 坏	(14.0)	[3.5]	(7.6)	1/4	雲白粒針	普通	灰		
49	3	SJ 325	須恵器 坏	(13.1)	[3.3]	—	1/4	白粒針黒粒	普通	灰		
49	4	SJ 325	土師器 坏	(10.0)	[2.7]	—	破片	雲角赤粒白粒	普通	橙	北武蔵型坏	
49	5	SJ 325	土師器 坏	(9.9)	[2.9]	—	破片	角石英赤粒	普通	褐灰	北武蔵型坏	
49	6	SJ 325	土師器 坏	(12.6)	[2.7]	—	破片	角赤粒白粒黒粒	普通	橙		
49	7	SJ 325	須恵器 甕	—	—	—	破片	石英白粒	普通	暗灰		121-2
49	8	SJ 325	土師器 甕	(21.6)	[8.2]	—	口縁1/3	雲角赤粒	普通	橙		
49	9	SJ 325	土師器 甕	(23.6)	[8.9]	—	破片		普通	橙		
49	10	SJ 325	土師器 甕	—	[3.3]	(6.0)	底部破片	雲赤粒白粒	普通	橙		
49	11	SJ 325	土師器 甕	—	[2.8]	(5.0)	底部破片	雲角赤粒白粒	普通	橙		
49	12	SJ 325	石製模造品 剣形品	幅2.2長さ4.0厚さ0.5重さ6.8			完形				滑石製	127-2
49	13	SJ 325	石製模造品 剣形品	幅2.1長さ2.6厚さ0.3重さ2.4			1/2				滑石製	
49	14	SJ 325	石製品 管玉	径0.5長さ1.9重さ0.8			完形					127-1
49	15	SJ 325	鉄製品 鉄鏃	幅0.7~0.5長さ[4.1]			鏃身部破片					130-1
49	16	SJ 325	石製品 白玉	径0.6長さ0.4重さ0.2			ほぼ完形					
49	17	SJ 325	石製品 白玉	径0.5長さ0.3重さ0.1			完形					
51	1	SJ 326	須恵器 坏	(12.8)	3.5	7.3	2/3	白粒針	良好	灰		
51	2	SJ 326	須恵器 坏	13.8	4.0	8.0	4/5	長石砂粒白粒針	普通	にぶい赤褐		65-1
51	3	SJ 326	須恵器 坏	(11.9)	3.4	7.2	2/3	石英赤粒白粒針	不良	橙		
51	4	SJ 326	須恵器 坏	(13.0)	3.5	(6.4)	1/2	石英白粒針黒粒	普通	灰		
51	5	SJ 326	須恵器 坏	(12.0)	3.1	6.9	1/4	白粒黒粒針	普通	明灰		
51	6	SJ 326	須恵器 坏	(12.4)	3.0	(7.0)	1/4	雲石英	普通	黄灰		
51	7	SJ 326	須恵器 坏	(12.2)	[3.3]	(7.0)	1/4	石英針	普通	灰		
51	8	SJ 326	須恵器 坏	(12.2)	[3.8]	(6.8)	1/5	雲白粒針	普通	灰		
51	9	SJ 326	須恵器 坏	—	[1.4]	7.9	底部のみ	雲白粒針	良好	灰		
51	10	SJ 326	須恵器 坏	(13.0)	[3.2]	—	破片	白粒針	普通	灰		
51	11	SJ 326	須恵器 坏	(11.5)	[3.6]	—	破片	石英白粒針	普通	灰		
51	12	SJ 326	須恵器 高台坏	(13.8)	5.3	7.4	1/2	赤粒針	不良	にぶい橙		
51	13	SJ 326	土師器 坏	(12.4)	2.4	—	1/2	雲石英砂粒赤粒	普通	橙		
51	14	SJ 326	須恵器 甕	—	[5.5]	(15.6)	破片	白粒黒粒	普通	灰		
51	15	SJ 326	須恵器 甕	—	—	—	破片	白粒	良好	青灰		
51	16	SJ 326	石製品 紡錘車	孔径0.9径4.0厚さ2.6重さ53.5			完形					120-1
53	1	SJ 328	土師器 壺	—	[3.9]	9.3	底部のみ	雲石英赤粒	不良	にぶい橙		
55	1	SJ 330	須恵器 蓋	(17.3)	[2.1]	—	1/3	白粒針	良好	灰	南比企産	
55	2	SJ 330	須恵器 坏	12.2	3.8	7.4	2/3	針	普通	灰白	全面回転へう割り	
55	3	SJ 330	須恵器 坏	14.0	3.9	7.9	2/3	白粒粒針	普通	灰白	南比企産	65-2
55	4	SJ 330	須恵器 坏	(12.2)	[3.5]	—	破片	針	良好	灰	南比企産	
55	5	SJ 330	須恵器 坏	(10.0)	[1.1]	8.0	底部破片	雲石英	良好	灰白		
55	6	SJ 330	須恵器 坏	—	[3.6]	—	1/4	白粒針	良好	灰	南比企産	
55	7	SJ 330	土師器 坏	(10.6)	[2.2]	—	破片	雲赤粒白粒	普通	橙	北武蔵型坏	
55	8	SJ 330	土師器 坏	12.4	3.5	—	1/2	赤粒白粒	普通	橙	北武蔵型坏	
55	9	SJ 330	土師器 坏	(13.1)	[3.1]	—	1/3	角白粒	普通	にぶい橙	北武蔵型坏	
55	10	SJ 330	土師器 坏	(13.8)	[2.8]	—	1/5	雲	普通	にぶい褐	北武蔵型坏	
55	11	SJ 330	土師器 坏	—	[2.6]	—	破片	雲白粒	普通	にぶい褐	比企型坏、赤彩	
55	12	SJ 330	土師器 坏	(15.2)	[3.9]	—	破片	砂粒白粒	普通	橙		
55	13	SJ 330	須恵器 短頸壺	(20.0)	[6.0]	—	口縁破片	片赤粒白粒	良好	灰白	末野産	
55	14	SJ 330	須恵器 台付甕	—	[4.3]	15.0	底部破片	片石英	普通	灰白	末野産	
55	15	SJ 330	緑釉陶器 長頸瓶	—	[10.5]	—	頸部	雲	良好	灰白		
55	16	SJ 330	須恵器 高坏	—	[5.4]	—	脚部	白粒	良好	灰白		
55	17	SJ 330	土師器 小型甕	(14.6)	[4.1]	—	口縁破片	白粒	普通	黄橙		
55	18	SJ 330	土師器 甕	(26.1)	[9.2]	—	口縁破片	砂粒	普通	にぶい橙		
56	1	SJ 331	土師器 碗	12.2	5.0	—	ほぼ完形	雲黒粒	普通	明赤褐	赤彩、放射状暗文	65-3
56	2	SJ 331	土師器 碗	11.2	6.2	—	坏部破片	長石石英赤粒白粒	普通	赤橙	赤彩、放射状暗文	86-1
56	3	SJ 331	土師器 甕	15.8	26.8	6.1	ほぼ完形	雲砂粒赤粒白粒	不良	灰赤~にぶい橙		104-1

第6表 住居跡出土遺物観察表(2)

挿図番号	遺構番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	備考	図版
56	4	SJ 331	土師器 甕	—	[3.3]	8.0	底部破片	長石 砂粒	普通	赤褐		
57	1	SJ 332	土師器 坏	11.0	3.9	—	1/4	雲 砂粒	普通	褐灰		
57	2	SJ 332	土師器 鉢	18.6	5.7	—	破片	砂粒 赤粒	普通	にぶい橙		
57	3	SJ 332	土師器 甌	19.6	[9.5]	—	1/5	砂粒 赤粒	普通	浅黄橙		
57	4	SJ 332	土師器 甕	21.0	7.5	—	破片	砂粒 赤粒 白粒	普通	にぶい橙		
61	1	SJ 333	土師器 坏	(10.6)	[3.3]	—	破片	赤粒 白粒	普通	橙	北武蔵型坏	
61	2	SJ 333	土師器 坏	11.4	[2.9]	—	1/3	砂粒 白粒	普通	橙	北武蔵型坏	
61	3	SJ 333	土師器 坏	11.8	[3.4]	—	1/5	白粒	普通	にぶい橙	北武蔵型坏	
61	4	SJ 333	土師器 坏	12.4	4.2	—	3/4	砂粒 赤粒	普通	浅黄橙	北武蔵型坏	65-4
61	5	SJ 333	土師器 坏	(10.0)	[2.8]	—	1/5	雲 白粒	普通	灰褐	黒色有段口縁坏	
61	6	SJ 333	土師器 坏	(13.6)	[3.6]	—	1/5	雲 白粒	良好	明赤褐	有段口縁坏	
61	7	SJ 333	土師器 小型甕	(11.8)	[6.0]	—	口縁破片	雲 片 赤粒	普通	浅黄橙		
61	8	SJ 333	土師器 甕	(15.4)	[6.6]	—	口縁破片	砂粒 赤粒 白粒	普通	灰褐		
61	9	SJ 333	土師器 甕	(19.2)	[5.9]	—	口縁破片	砂粒 赤粒	普通	浅黄橙		
61	10	SJ 333	土師器 甕	18.4	[11.3]	—	1/5	赤粒	普通	橙		
61	11	SJ 333	土師器 甕	(17.5)	[7.3]	—	口縁破片	黒粒	普通	にぶい黄橙	赤彩	
61	12	SJ 333	土師器 甕	20.0	8.2	—	1/5	赤粒 白粒	普通	橙		
61	13	SJ 333	土師器 小型甕	10.6	12.5	—	2/3	赤粒	普通	にぶい橙		86-2
61	14	SJ 333	土師器 坏	—	[2.7]	(9.8)	1/5	雲	普通	浅黄橙		
61	15	SJ 333	石製品 紡錘車	孔径0.5径3.6厚さ1.9重さ40.2			完形					120-1
61	16	SJ 333	石製品 白玉	径0.7長さ0.3重さ0.2			完形					128-2
61	17	SJ 333	石製品 白玉	径1.6長さ0.8重さ3.0			2/3				滑石製	
61	18	SJ 333	鉄製品 棒状品	幅0.5~0.3長さ[4.6]			両端欠損					
61	19	SJ 333	鉄滓 椀型滓	幅4.2長さ3.6厚さ1.3								
62	1	SJ 334	土師器 坏	(12.4)	3.5	—	ほぼ完形	雲 白粒 黒粒	普通	橙	北武蔵型坏	65-5
65	1	SJ 336	須恵器 蓋	(15.6)	[3.7]	—	1/3	砂粒	良好	灰		
65	2	SJ 336	土師器 坏	(13.0)	[4.1]	—	1/3	雲 砂粒 針 黒粒	普通	にぶい橙	有段口縁坏	
65	3	SJ 336	石製品 勾玉	幅2.0長さ3.5厚さ0.8重さ5.6			ほぼ完形					127-1
67	1	SJ 338	鉄製品 鉸具	幅5.2長さ5.9刺金長3.7			完形					130-1
68	1	SJ 339	須恵器 坏	(14.0)	[2.8]	—	破片	白粒 針	普通	灰		
71	1	SJ 340	須恵器 蓋	(11.0)	3.7	—	1/2	石英 白粒	良好	灰白	秋間産	65-6
71	2	SJ 340	須恵器 蓋	(12.8)	3.9	—	1/2	石英 砂粒 白粒	普通	にぶい橙	末野産	65-7
71	3	SJ 340	土師器 坏	(10.6)	[3.5]	—	1/3	赤粒 白粒	普通	にぶい橙	模倣坏	
71	4	SJ 340	土師器 坏	(11.0)	[3.9]	—	1/5	赤粒 白粒	普通	橙	比企型坏、赤彩	
71	5	SJ 340	土師器 坏	(12.2)	[2.9]	—	口縁破片	石英 赤粒 黒粒	普通	橙	比企型坏、赤彩	
71	6	SJ 340	土師器 坏	(12.6)	[3.3]	—	口縁破片	雲 白粒 黒粒	普通	淡赤橙	北武蔵型坏	
71	7	SJ 340	土師器 坏	(14.6)	[4.0]	—	2/3	赤角 白粒 黒粒	普通	橙	北武蔵型坏	65-8
71	8	SJ 340	土師器 坏	(12.2)	4.1	—	ほぼ完形	赤角 長石 黒粒	普通	にぶい橙	黒色有段口縁坏	65-9
71	9	SJ 340	土師器 坏	15.0	5.8	—	3/4	雲 角 長石 赤粒	普通	明褐灰	有段口縁坏	65-10
71	10	SJ 340	土師器 高坏	12.2	[6.1]	—	3/4	角 赤粒 白粒	良好	橙		86-3
71	11	SJ 340	土師器 甕	(13.8)	[9.9]	—	口縁部	赤粒 黒粒	普通	灰褐		86-4
71	12	SJ 340	土師器 甕	17.2	[11.7]	—	口縁部	赤粒 白粒	普通	淡橙		86-5
71	13	SJ 340	土師器 甕	(18.0)	[9.7]	—	口縁破片	角 長石 白粒 黒粒	普通	灰白		
71	14	SJ 340	土師器 甕	(20.4)	[10.7]	—	口縁破片	雲 角 赤粒 白粒	普通	褐灰~にぶい橙		
71	15	SJ 340	土師器 甕	(20.0)	[15.5]	—	口縁破片	石英 砂粒 白粒	普通	明赤灰		
71	16	SJ 340	土師器 甕	—	[3.9]	6.0	底部	雲 黒粒	普通	褐灰		
71	17	SJ 340	土師器 甕	—	(13.8)	4.5	底部	白粒 赤粒	普通	灰褐		
71	18	SJ 340	土師器 甌	(24.4)	[9.8]	—	1/4	石英 砂粒 白粒	普通	にぶい黄橙		
71	19	SJ 340	土製品 土玉	幅1.3長さ1.3重さ1.9			完形					129-2
73	1	SJ 342	土師器 埴	(13.2)	5.9	—	1/2	角 赤粒 白粒	良好	淡赤橙		
73	2	SJ 342	土師器 台付甕	—	[4.5]	(7.6)	脚部	雲 片 長石 石英	普通	にぶい橙		
73	3	SJ 342	石製品 砥石	幅7.3長さ13.6厚さ5.7			ほぼ完形					
76	1	SJ 343	土師器 甕	(13.0)	[3.4]	—	口縁破片	白粒 黒粒	普通	橙		
76	2	SJ 343	土師器 埴	(10.7)	14.7	—	1/2	赤粒 白粒	普通	赤褐	赤彩	86-6
76	3	SJ 343	土師器 高坏	—	[3.9]	—	脚部	雲 赤粒	普通	明赤褐	円孔3	
76	4	SJ 343	土師器 高坏	—	[7.6]	—	脚部	雲 赤粒 黒粒	普通	赤	赤彩、円孔2	
76	5	SJ 343	土師器 器台	—	[3.4]	—	脚部	雲 赤粒	普通	橙	赤彩	
76	6	SJ 343	土師器 甕	—	—	—	口縁破片	赤粒 砂粒	普通	明赤褐	単節LR	

第7表 住居跡出土遺物観察表(3)

挿図番号	遺構番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	備考	図版
79	1	SJ 344	須恵器 蓋	—	—	—	1/3	白粒 針	良好	灰		
79	2	SJ 344	須恵器 坏	12.0	3.5	6.9	ほぼ完形	白粒 針	良好	灰		66-1
79	3	SJ 344	土師器 甕	—	[4.2]	(10.8)	底部	雲	良好	灰赤		
79	4	SJ 344	土師器 甕	(18.2)	[8.7]	—	2/3	雲 白粒 黒粒	普通	にぶい褐		87-1
81	1	SJ 345	土師器 坏	(15.0)	[4.5]	—	1/4	白粒	普通	明赤褐	模倣坏	
81	2	SJ 345	土師器 坏	17.0	[4.2]	—	3/5	赤粒 黒粒	普通	橙	模倣坏	
81	3	SJ 345	土師器 坏	(11.8)	[4.2]	—	口縁破片	雲 白粒 黒粒	普通	灰褐	身模倣坏	
81	4	SJ 345	土師器 甕	(20.2)	[7.4]	—	口縁破片	雲片 長石 砂粒 赤粒	普通	浅黄橙		
81	5	SJ 345	土師器 甌	11.8	13.0	3.8	2/3	長石 赤粒	普通	灰白		87-2
81	6	SJ 345	土師器 甌	20.0	23.1	8.0	ほぼ完形	雲片 石英 赤粒	普通	にぶい橙		104-2
81	7	SJ 345	土師器 甌	—	14.5	10.0	胴部	白粒	良好	橙		
81	8	SJ 345	石製模造品 有孔円板	幅4.0長さ3.8厚さ0.6重さ10.9			4/5					滑石製
81	9	SJ 345	石製模造品 剣形品	幅3.3長さ3.3厚さ0.9重さ14.9			1/2					滑石製
83	1	SJ 346	土師器 坏	(11.6)	[2.5]	—	口縁破片	雲 白粒	普通	明赤褐	身模倣坏	
83	2	SJ 346	土師器 坏	12.4	3.0	—	3/5	赤粒	普通	橙	北武蔵型坏	
83	3	SJ 346	土師器 坏	(13.5)	[3.8]	—	1/3	雲 黒粒	普通	にぶい橙	北武蔵型坏	
83	4	SJ 346	土師器 坏	(14.4)	[3.7]	—	1/5	角 砂粒 赤粒 白粒	普通	浅黄橙	比企型坏、赤彩	66-2
83	5	SJ 346	土師器 坏	13.6	[3.5]	—	1/2	赤粒 白粒	普通	にぶい橙	模倣坏	
83	6	SJ 346	土師器 皿	16.8	3.7	—	2/3	雲片 角	普通	橙		66-3
83	7	SJ 346	土師器 甕	(21.4)	[13.5]	—	1/3	雲 赤粒	普通	にぶい橙		87-3
83	8	SJ 346	土師器 甕	(21.4)	[11.6]	—	口縁破片	赤粒	良好	明褐灰		
83	9	SJ 346	土師器 甕	22.4	[29.9]	—	3/4	雲 長石 赤粒 白粒	普通	橙		104-3
83	10	SJ 346	石製模造品 不明品	幅1.0長さ1.1厚さ0.3重さ0.5			—					
83	11	SJ 346	鉄製品 刀子	刀幅1.3背幅0.2長さ[6.7]莖長[6.2]			1/2					
83	12	SJ 346	鉄製品 手鎌	刀幅1.2背幅0.2長さ10.2			完形					穂摘み具
85	1	SJ 347	土師器 坏	(13.8)	[3.8]	—	口縁破片	雲 赤粒 白粒	普通	にぶい橙	模倣坏	
85	2	SJ 347	土師器 坏	11.8	[3.9]	—	1/4	雲 白粒 黒粒	普通	橙	身模倣坏	
85	3	SJ 347	土師器 坏	14.2	[3.1]	—	破片	雲 赤粒 白粒	普通	明褐灰	黒色身模倣坏	
85	4	SJ 347	石製品 砥石	幅2.2長さ3.5厚さ1.8			3/4					120-5
85	5	SJ 347	土製品 土玉	幅1.4長さ1.5重さ2.3			ほぼ完形					129-2
88	1	SJ 348	土師器 坏	13.2	2.4	—	1/5	石英 白粒	普通	にぶい赤褐	北武蔵型坏	
88	2	SJ 348	土師器 坏	13.2	[3.0]	—	1/5	赤粒 白粒	普通	橙	暗文北武蔵型坏	
88	3	SJ 348	土師器 高坏	—	[6.7]	10.8	脚部	雲 石英 赤粒	普通	にぶい橙		87-4
88	4	SJ 348	須恵器 壺	—	—	—	破片	白粒	良好	灰褐		
88	5	SJ 348	土師器 甕	20.4	[5.8]	—	口縁部	雲 角 赤粒 白粒	良好	にぶい橙		66-4
88	6	SJ 348	土師器 甕	(21.0)	[9.7]	—	口縁破片	雲 赤粒 白粒	普通	にぶい橙		
90	1	SJ 350	土師器 坏	11.3	3.7	—	3/4	白粒 黒粒	普通	明赤褐	有段口縁坏	66-5
90	2	SJ 350	土師器 坏	(11.8)	[3.6]	—	1/5	雲 白粒 黒粒	普通	灰褐	模倣坏	
90	3	SJ 350	土師器 坏	13.2	4.8	—	ほぼ完形	雲	普通	にぶい橙	模倣坏	66-6
90	4	SJ 350	土師器 坏	(15.6)	4.5	—	ほぼ完形	角 赤粒 白粒 黒粒	普通	淡橙	模倣坏	66-7
90	5	SJ 350	土師器 坏	(13.0)	[3.3]	—	1/5	赤粒	普通	淡橙	模倣坏	
90	6	SJ 350	土師器 坏	(15.8)	[3.2]	—	1/4	赤粒 白粒	普通	橙	模倣坏	
90	7	SJ 350	土師器 坏	15.0	[3.7]	—	1/5	赤粒	普通	にぶい橙	模倣坏	
90	8	SJ 350	土師器 坏	15.4	4.5	—	2/5	石英 赤粒	普通	橙	模倣坏	
90	9	SJ 350	土師器 坏	14.8	[3.7]	—	1/5	雲 赤粒	普通	にぶい橙	身模倣坏	
90	10	SJ 350	土師器 坏	(14.8)	[3.9]	—	1/4	赤粒	普通	浅黄橙		
90	11	SJ 350	土師器 坏	13.4	4.7	—	1/3	赤粒	普通	淡橙	模倣坏	
90	12	SJ 350	土師器 坏	(14.3)	[4.0]	—	1/3	雲 赤粒	普通	灰褐	身模倣坏	
90	13	SJ 350	土師器 坏	(17.0)	[3.9]	—	1/4	赤粒 白粒	普通	明赤褐	黒色有段口縁坏	
90	14	SJ 350	土師器 坏	(16.8)	[4.4]	—	1/3	赤粒 白粒	普通	にぶい褐		
90	15	SJ 350	土師器 坏	(19.0)	[4.5]	—	口縁破片	角 赤粒	普通	にぶい黄橙	有段口縁坏	
90	16	SJ 350	土師器 鉢	(15.2)	[11.2]	—	2/3	雲 長石 石英 砂粒 白粒 黒粒	普通	にぶい赤褐		87-5
90	17	SJ 350	土師器 壺	15.0	6.0	—	1/4	赤粒 白粒	普通	明赤褐		
90	18	SJ 350	土師器 甕	18.3	[11.6]	—	1/5	雲 石英 砂粒 赤粒	普通	にぶい橙		
90	19	SJ 350	土師器 甌	(19.0)	[8.0]	—	口縁破片	赤粒	普通	明褐灰		
90	20	SJ 350	土師器 甕	20.4	9.1	—	1/4	白粒	普通	にぶい橙		
90	21	SJ 350	土師器 甕	(19.0)	[20.4]	—	口縁	雲 石英 砂粒 赤粒	普通	にぶい橙		
90	22	SJ 350	土師器 甕	—	[3.8]	5.0	底部	砂粒	普通	橙		

第8表 住居跡出土遺物観察表(4)

挿図番号	遺構番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	備考	図版
90	23	SJ 350	石製品	白玉	径0.6長さ0.3重さ0.1		完形				滑石製	128-2
90	24	SJ 350	石製品	白玉	径1.3長さ0.5重さ1.3		ほぼ完形				滑石製	
92	1	SJ 351	須恵器	甕	—	[4.0]	—	破片	良好	灰		121-1
92	2	SJ 351	土師器	坏	(10.4)	[2.9]	—	口縁破片	普通	橙	北武蔵型坏	
92	3	SJ 351	土師器	坏	10.7	3.5	—	2/3	普通	橙	北武蔵型坏	66-8
92	4	SJ 351	土師器	坏	(12.2)	[2.6]	—	口縁破片	普通	にぶい橙		
95	1	SJ 353	土師器	坏	(12.6)	[3.5]	—	口縁破片	普通	褐灰~にぶい橙	模倣坏	
95	2	SJ 353	土師器	坏	(14.8)	[4.1]	—	口縁破片	普通	にぶい橙	模倣坏	
95	3	SJ 353	石製模造品	不明品	幅2.1長さ3.7厚さ0.4重さ4.8		破片				滑石製	
99	1	SJ 357	須恵器	高台付碗	(14.0)	[6.4]	6.0	1/2	普通	灰白		66-9
99	2	SJ 357	須恵器	高台付碗	(14.0)	[6.7]	6.0	1/4	普通	にぶい橙		
99	3	SJ 357	須恵器	高台付碗	—	[2.3]	(6.0)	底部破片	良好	黄灰		
99	4	SJ 357	須恵器	壺	—	[3.3]	(8.0)	底部破片	良好	灰白		
99	5	SJ 357	土師器	坏	(13.2)	[3.9]	—	口縁破片	普通	にぶい橙		
99	6	SJ 357	石製品	管玉	長さ[0.8]厚さ1.5重さ1.7		2/3					127-1
101	1	SJ 358	土師器	坏	10.1	[3.1]	—	口縁破片	普通	赤褐	比企型坏、赤彩	
101	2	SJ 358	土師器	皿	(16.6)	3.7	—	1/2	普通	淡橙		
101	3	SJ 358	土師器	甕	—	[2.7]	6.2	底部	良好	にぶい橙		
101	4	SJ 358	石製模造品	有孔円板	幅3.5長さ3.7厚さ0.5重さ10.8		ほぼ完形					128-1
101	5	SJ 358	石製模造品	有孔円板	幅3.7長さ3.6厚さ0.5重さ10.0		完形					128-1
103	1	SJ 359	土師器	甕	20.0	[5.4]	—	口縁部	普通	淡赤橙		
103	2	SJ 359	石製模造品	有孔円板	幅2.8長さ3.6厚さ0.4重さ5.8		3/4				滑石製	
105	1	SJ 360	土師器	坏	(13.0)	[3.3]	—	口縁破片	普通	にぶい橙		
105	2	SJ 360	土師器	坏	13.8	[3.3]	—	1/4	普通	にぶい橙	模倣坏	
105	3	SJ 360	土師器	坏	(13.2)	2.8	—	口縁破片	普通	にぶい黄橙	身模倣坏	
105	4	SJ 360	土師器	甕	—	[9.7]	5.8	底部	普通	褐灰	木葉痕	
106	1	SJ 361	土師器	坏	12.6	5.6	—	ほぼ完形	普通	橙	北武蔵型坏	66-10
106	2	SJ 361	土師器	小型甕	(13.4)	[5.5]	—	1/4	普通	にぶい赤褐		
106	3	SJ 361	土師器	甕	—	[4.7]	8.0	底部	普通	にぶい橙	木葉痕	
110	1	SJ 362	土師器	坏	(14.0)	[4.4]	—	口縁破片	普通	にぶい橙	模倣坏、赤彩	
110	2	SJ 362	土師器	坏	(13.0)	4.4	—	1/3	普通	にぶい橙	模倣坏	
110	3	SJ 362	土師器	甕	(19.0)	[7.4]	—	1/3	普通	明赤褐		
110	4	SJ 362	土師器	甕	(15.4)	[8.7]	—	口縁破片	不良	赤		
110	5	SJ 362	土師器	甕	(16.0)	[13.1]	—	口縁破片	普通	にぶい橙		
110	6	SJ 362	石製品	白玉	幅0.6長さ1.4重さ2.1		ほぼ完形				滑石製	
113	1	SJ 363	土師器	高坏	(16.0)	[7.4]	—	3/5	普通	赤褐	赤彩	67-1
113	2	SJ 363	土師器	高坏	17.9	[5.7]	—	坏部	普通	明赤褐		67-2
113	3	SJ 363	土師器	高坏	18.3	[13.9]	—	ほぼ完形	良好	淡橙	赤彩	87-6
113	4	SJ 363	土師器	高坏	—	[6.0]	13.0	脚部	普通	橙		
113	5	SJ 363	土師器	高坏	—	[8.1]	11.7	脚部	普通	橙		88-1
113	6	SJ 363	土師器	壺	(15.4)	[4.5]	—	口縁破片	普通	にぶい赤橙	赤彩	
113	7	SJ 363	土師器	小型甕	12.4	18.6	6.8	4/5	普通	にぶい黄橙		88-2
113	8	SJ 363	土師器	甕	16.0	23.7	6.8	ほぼ完形	普通	暗赤褐		104-4
113	9	SJ 363	土師器	甕	12.2	25.1	8.3	1/3	良好	褐		88-3
113	10	SJ 363	土師器	甕	17.7	26.7	8.2	4/5	普通	にぶい橙		105-1
113	11	SJ 363	土師器	甕	17.4	28.9	8.5	ほぼ完形	普通	灰黄	黒斑	105-2
114	12	SJ 363	土師器	甕	19.0	10.5	—	完形	良好	にぶい橙		88-4
114	13	SJ 363	土師器	甕	25.5	23.2	—	ほぼ完形	良好	淡橙		105-3
114	14	SJ 363	土師器	甕	25.3	22.8	—	ほぼ完形	良好	橙		105-4
118	1	SJ 364	土師器	坏	15.2	4.8	—	ほぼ完形	普通	浅黄橙	模倣坏	67-3
118	2	SJ 364	土師器	坏	(15.8)	[5.2]	—	口縁破片	普通	赤褐	赤彩	
118	3	SJ 364	土師器	坏	(18.6)	[4.1]	—	1/4	普通	橙	模倣坏	
118	4	SJ 364	土師器	坏	15.6	5.0	—	2/5	普通	にぶい赤	比企型坏、赤彩	67-4
118	5	SJ 364	土師器	甕	15.7	[12.1]	—	口縁破片	不良	にぶい橙		
118	6	SJ 364	土師器	甕	(19.0)	[9.2]	—	口縁破片	普通	にぶい橙		
118	7	SJ 364	土師器	甕	24.0	29.9	9.1	ほぼ完形	普通	黄橙	黒斑	106-1
118	8	SJ 364	土師器	甕	18.4	15.1	5.5	ほぼ完形	普通	にぶい橙		88-5
118	9	SJ 364	土製品	支脚	4.5	[15.6]	—	脚部破片	普通	淡黄		

第9表 住居跡出土遺物観察表(5)

挿図番号	遺構番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	備考	図版
118	10	SJ 364	石製品	砥石	幅3.7長さ6.4厚さ2.4			1/2				129-1
121	1	SJ 365	須恵器	蓋	9.3	3.3	—	完形	良好	灰		67-5
121	2	SJ 365	土師器	坏	(13.8)	[3.1]	—	口縁破片	普通	にぶい橙	有段口縁坏	
121	3	SJ 365	土師器	坏	(15.5)	[4.7]	—	1/3	良好	にぶい橙	模倣坏	
121	4	SJ 365	土師器	坏	(18.0)	[4.2]	—	口縁破片	普通	にぶい橙	模倣坏	
121	5	SJ 365	土師器	坏	(12.0)	[3.5]	—	1/4	普通	黒褐	身模倣坏、放射状暗文	
121	6	SJ 365	土師器	坏	12.5	4.5	—	完形	普通	淡橙	黒色、身模倣坏	67-6
121	7	SJ 365	土師器	坏	12.5	4.2	—	完形	普通	にぶい橙	身模倣坏	67-7
121	8	SJ 365	土師器	坏	(12.4)	[3.0]	—	口縁破片	普通	橙	比企型坏、赤彩	
121	9	SJ 365	土師器	坏	(14.0)	[5.2]	—	口縁破片	良好	淡橙	比企型坏、赤彩	
121	10	SJ 365	土師器	坏	(16.0)	5.9	—	1/3	良好	にぶい橙	比企型坏、赤彩	
121	11	SJ 365	土師器	坏	14.9	4.4	—	ほぼ完形	良好	灰白~橙		67-8
122	12	SJ 365	土師器	坏	15.6	4.5	—	完形	良好	橙		67-9
122	13	SJ 365	土師器	鉢	14.3	[6.3]	—	1/2	普通	灰褐		67-10
122	14	SJ 365	土師器	ミニチュア	(5.8)	[5.0]	—	1/4	普通	赤灰		
122	15	SJ 365	土師器	高坏	—	5.9	7.5	脚部	普通	橙		
122	16	SJ 365	土師器	甕	(17.2)	[7.8]	—	口縁破片	普通	にぶい橙		
122	17	SJ 365	土師器	甕	(21.2)	[8.6]	—	口縁破片	普通	灰褐		
122	18	SJ 365	土師器	甕	—	[2.0]	7.8	底部	普通	黒褐		
122	19	SJ 365	土師器	甕	(21.6)	[5.5]	—	口縁破片	普通	にぶい褐		
122	20	SJ 365	土師器	甕	—	[4.7]	(7.2)	底部破片	普通	にぶい黄橙		
122	21	SJ 365	土師器	甕	—	4.7	7.8	胴部破片	普通	にぶい橙		
122	22	SJ 365	土師器	甕	15.8	20.5	(9.2)	3/4	普通	にぶい橙		106-2
122	23	SJ 365	土師器	甕	(21.8)	[17.2]	—	破片	普通	灰褐		
122	24	SJ 365	土製品	土玉	幅2.2長さ2.2厚さ1.4重さ6.6			完形				127-1
125	1	SJ 366	須恵器	蓋	(12.4)	[3.1]	—	1/4	普通	橙		
125	2	SJ 366	須恵器	蓋	(13.0)	[3.7]	—	破片	良好	淡灰		
125	3	SJ 366	土師器	坏	10.7	[2.9]	—	口縁破片	普通	にぶい橙	比企型坏、赤彩	
125	4	SJ 366	土師器	坏	(12.0)	[3.8]	—	1/4	普通	灰白	有段口縁坏	
125	5	SJ 366	土師器	坏	—	[3.3]	—	1/5	普通	にぶい赤褐	有段口縁坏	
128	1	SJ 367	土師器	坏	12.0	4.2	—	ほぼ完形	良好	橙	模倣坏	68-1
128	2	SJ 367	土師器	坏	11.8	5.3	—	4/5	普通	黄橙	模倣坏	68-2
128	3	SJ 367	土師器	坏	12.6	4.2	—	ほぼ完形	普通	にぶい黄橙	北武蔵型坏、赤彩	68-3
128	4	SJ 367	土師器	高坏	12.3	[9.9]	—	4/5	不良	にぶい橙	赤彩	88-6
128	5	SJ 367	土師器	高坏	—	[2.7]	(14.5)	脚部破片	普通	にぶい橙		
128	6	SJ 367	土師器	台付鉢	—	[14.8]	—	2/3	普通	にぶい橙		89-1
128	7	SJ 367	土師器	小型甕	9.3	9.4	5.2	完形	普通	にぶい赤褐		89-2
128	8	SJ 367	土師器	甕	(14.6)	[15.0]	—	1/3	普通	にぶい橙		89-3
128	9	SJ 367	土師器	甕	(15.8)	[5.9]	—	口縁破片	普通	にぶい褐		
128	10	SJ 367	土師器	甕	(21.0)	[7.8]	—	口縁破片	普通	明褐灰		
128	11	SJ 367	土師器	甕	—	[2.0]	6.0	底部	普通	にぶい赤褐		
128	12	SJ 367	土師器	甕	—	[3.0]	5.0	底部	普通	にぶい黄橙		
128	13	SJ 367	土師器	甕	—	[3.6]	6.4	底部	普通	橙		
128	14	SJ 367	土師器	甕	—	[1.7]	7.0	底部破片	普通	赤褐		
128	15	SJ 367	土師器	甕	(16.5)	[21.0]	—	1/3	普通	明赤褐		106-3
128	16	SJ 367	土師器	甕	15.4	31.1	7.6	3/4	普通	にぶい橙	黒斑、煤付着	106-4
128	17	SJ 367	土師器	甕	—	[2.7]	(22.4)	底部破片	普通	にぶい橙		
130	1	SJ 368	土師器	坏	(12.2)	[3.2]	—	1/5	普通	にぶい赤	比企型坏、赤彩	
130	2	SJ 368	土師器	坏	(17.4)	[4.0]	—	1/4	普通	にぶい黄橙	模倣坏	
132	1	SJ 370	土師器	皿	(14.6)	[2.1]	—	1/5	普通	橙		
132	2	SJ 370	土師器	坏	(12.9)	[3.9]	—	1/5	普通	褐灰	黒色有段口縁坏	
132	3	SJ 370	土師器	坏	(13.2)	[4.2]	—	口縁破片	普通	にぶい赤褐	黒色有段口縁坏	
132	4	SJ 370	土師器	坏	13.4	[4.1]	—	1/5	普通	橙	模倣坏	
132	5	SJ 370	土師器	坏	(11.6)	[3.7]	—	1/5	普通	にぶい橙	黒色有段口縁坏	
132	6	SJ 370	土師器	坏	(12.2)	[3.5]	—	1/5	普通	にぶい橙	黒色身模倣坏	
132	7	SJ 370	土師器	坏	(12.4)	4.1	—	1/2	普通	灰褐	黒色身模倣坏	68-4
132	8	SJ 370	土師器	坏	(12.6)	3.9	—	1/4	普通	灰白	身模倣坏	68-5
132	9	SJ 370	土師器	坏	12.4	[3.2]	—	1/4	普通	にぶい橙	黒色身模倣坏	

第10表 住居跡出土遺物観察表(6)

挿図番号	遺構番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	備考	図版
132 10	SJ 370	土師器	坏	(13.2)	4.4	—	1/3	針 白粒 黒粒	普通	にぶい赤褐	比企型坏、赤彩	68-6
132 11	SJ 370	土師器	坏	(22.0)	[4.3]	—	口縁破片	雲 赤粒 白粒 黒粒	普通	淡橙	黒色有段口縁坏	
132 12	SJ 370	土師器	鉢	(20.6)	[4.8]	—	口縁破片	砂粒	普通	赤		
132 13	SJ 370	須恵器	高坏	—	[5.5]	—	脚部1/2	白粒	普通	灰白		
132 14	SJ 370	土師器	小型甕	12.0	[7.4]	—	口縁破片	石英 砂粒	良好	橙		
132 15	SJ 370	土師器	小型甕	—	[6.5]	6.5	1/3	赤粒 白粒	普通	橙	木葉痕	89-4
132 16	SJ 370	石製品	白玉	幅[0.5]長さ1.0重さ0.5			1/2				滑石製	
132 17	SJ 370	石製品	白玉	径1.2長さ0.3重さ0.7			4/5				滑石製	
132 18	SJ 370	石製品	白玉	径1.0長さ0.6重さ1.0			ほぼ完形				滑石製	
132 19	SJ 370	石製品	白玉	径1.3長さ0.7重さ1.7			完形				滑石製	
134 1	SJ 371	土師器	坏	(12.0)	3.8	—	3/5	石英 砂粒 白粒	普通	橙	黒色身模倣坏	
134 2	SJ 371	土師器	鉢	(19.4)	[8.2]	—	1/5	石英 砂粒 白粒	普通	淡黄		
134 3	SJ 371	土師器	甕	—	[12.7]	4.3	底部	雲 長石 赤粒 白粒	普通	にぶい橙		89-5
136 1	SJ 372	土師器	坏	(12.0)	[4.2]	—	1/5	雲 片 赤粒	普通	明赤褐	黒色身模倣坏	
136 2	SJ 372	土師器	坏	12.9	4.6	—	ほぼ完形	赤粒 白粒 黒粒	良好	褐	黒色身模倣坏	68-7
138 1	SJ 373	土師器	坏	(10.8)	[2.5]	—	口縁1/5	石英 砂粒 白粒	普通	にぶい赤褐	比企型坏、赤彩	
138 2	SJ 373	土師器	甕	—	[21.3]	—	底部	針 黒粒	普通	灰黄		107-1
141 1	SJ 375	土師器	坏	15.2	3.6	—	ほぼ完形	長石 石英 砂粒 赤粒 白粒	普通	黄橙	黒斑	68-8
141 2	SJ 375	土師器	坏	(18.4)	[3.5]	—	破片	砂粒 白粒 黒粒	普通	浅黄橙	黒斑	
141 3	SJ 375	土師器	甕	(19.6)	[9.6]	—	口縁1/3	長石 石英 砂粒 赤粒 白粒	良好	橙		
141 4	SJ 375	土師器	甕	—	[9.2]	6.2	1/3	雲 白粒 黒粒	普通	明褐灰		89-6
146 1	SJ 376	須恵器	坏蓋	(11.9)	[4.2]	—	破片	白粒	良好	青灰		121-1
146 2	SJ 376	須恵器	坏蓋	—	[3.2]	—	破片	白粒	普通	青灰		
146 3	SJ 376	須恵器	坏蓋	—	[3.7]	—	破片	白粒	良好	青灰		
146 4	SJ 376	須恵器	坏身	(12.0)	[2.6]	—	破片	白粒	良好	青灰		121-1
146 5	SJ 376	須恵器	坏身	(14.0)	[3.0]	—	破片	白粒	良好	淡灰		121-1
146 6	SJ 376	土師器	坏	13.8	4.0	—	3/4	雲 白粒 黒粒	普通	にぶい赤褐	黒色模倣坏	68-9
146 7	SJ 376	土師器	坏	15.2	[4.0]	—	4/5	雲 赤粒	普通	褐灰	黒色模倣坏	68-10
146 8	SJ 376	土師器	坏	(14.7)	[3.1]	—	口縁破片	雲 黒粒	良好	明赤褐	有段口縁坏	
146 9	SJ 376	土師器	坏	15.0	[4.0]	—	1/3	雲 赤粒 白粒	普通	灰褐	黒色有段口縁坏	
146 10	SJ 376	土師器	坏	(16.0)	[3.6]	—	破片	赤粒 白粒 黒粒	普通	にぶい橙	比企型坏、赤彩	
146 11	SJ 376	土師器	坏	(12.2)	[3.5]	—	1/5	雲 赤粒 黒粒	良好	にぶい橙	黒色身模倣坏	
146 12	SJ 376	土師器	坏	13.5	3.9	—	完形	雲 角 長石 赤粒 白粒 黒粒	良好	橙～褐灰	身模倣坏	69-1
146 13	SJ 376	土師器	坏	12.6	4.1	—	ほぼ完形	赤粒 白粒	普通	にぶい褐	黒色身模倣暗文坏	69-2
146 14	SJ 376	土師器	坏	12.5	3.6	—	完形	雲	普通	黒褐	黒色身模倣暗文坏	69-3
146 15	SJ 376	土師器	埴	(12.3)	6.2	—	1/2	雲	普通	灰褐	黒色	69-4
146 16	SJ 376	土師器	鉢	(12.8)	[11.3]	—	1/5	赤粒 白粒	普通	淡橙		
146 17	SJ 376	須恵器	壺	(8.5)	[4.0]	—	口縁破片	白粒 黒粒	良好	青灰		121-1
146 18	SJ 376	須恵器	壺	(12.0)	[5.0]	—	口縁破片	石英 白粒	良好	青灰	末野産	
146 19	SJ 376	須恵器	壺	(12.8)	4.1	—	破片	白粒	良好	灰		121-1
146 20	SJ 376	須恵器	壺	—	—	—	破片	片 石英 白粒	良好	灰		
146 21	SJ 376	土師器	甕	—	[3.5]	9.0	底部	雲 赤粒 黒粒	普通	にぶい橙		
146 22	SJ 376	土師器	甕	—	[2.7]	7.2	底部	雲 赤粒 白粒	普通	褐		
147 23	SJ 376	土師器	鉢	19.4	14.1	—	完形	雲	普通	赤褐		90-1
147 24	SJ 376	土師器	甗	(21.0)	[16.9]	—	1/4	雲 赤粒 白粒	普通	橙		
147 25	SJ 376	須恵器	壺	18.5	[26.3]	—	3/4	白粒	良好	灰		107-2
147 26	SJ 376	石製品	砥石	幅4.9長さ5.0厚さ2.2			2/3					129-1
147 27	SJ 376	石製品	白玉	幅0.4長さ0.9重さ0.4			ほぼ完形				滑石製	
147 28	SJ 376	石製品	白玉	径0.9長さ0.5重さ0.6			ほぼ完形				滑石製	
147 29	SJ 376	石製模造品	剣形品	幅3.2長さ4.0厚さ0.6重さ11.2			4/5					128-1
147 30	SJ 376	石製模造品	有孔円板	幅4.1長さ3.2厚さ0.8			3/4					
147 31	SJ 376	石製模造品	勾玉形	厚さ3.3重さ3.9			ほぼ完形					127-1
147 32	SJ 376	石製模造品	不明品	幅1.4長さ2.0厚さ0.3重さ1.4			—					
147 33	SJ 376	石製模造品	不明品	幅2.4長さ3.5厚さ0.4重さ7.1			—					
147 34	SJ 376	石製模造品	不明品	幅2.6長さ3.6厚さ0.7重さ8.7			—					
150 1	SJ 377	土師器	坏	(14.0)	[3.6]	—	1/4	砂粒 赤粒 白粒	普通	黒褐	模倣坏	
150 2	SJ 377	土師器	坏	16.2	5.0	—	1/2	白粒 黒粒	普通	褐灰	模倣坏	69-5
150 3	SJ 377	土師器	高坏	(16.8)	[5.2]	—	坏部1/5	砂粒 白粒	良好	黄橙		

第11表 住居跡出土遺物観察表(7)

挿図番号	遺構番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	備考	図版
150 4	SJ 377	土師器	甕	19.3	33.5	—	4/5	角赤粒白粒	普通	にぶい橙		107-3
150 5	SJ 377	土製品	土玉	幅0.8長さ0.8重さ0.5			完形					
153 1	SJ 380	土師器	甕	(18.2)	[8.0]	—	2/3	砂粒赤粒	普通	にぶい橙		
153 2	SJ 380	土師器	甕	(27.0)	[10.0]	—	口縁1/5	雲石英砂粒	普通	橙		
153 3	SJ 380	土師器	甕	18.6	18.1	8.5	2/3	砂粒	普通	にぶい橙		90-2
153 4	SJ 380	石製品	砥石	幅3.4長さ7.8厚さ2.9			4/5		普通	明褐灰		129-1
153 5	SJ 380	石製品	台石	幅20.4長さ24.0厚さ6.7			ほぼ完形				砂岩	
153 6	SJ 380	石製品	勾玉	幅0.9長さ1.5厚さ0.3重さ0.6			完形					127-1
153 7	SJ 380	石製模造品	勾玉形	幅1.5長さ2.8厚さ0.5重さ4.0			ほぼ完形				滑石製	
153 8	SJ 380	石製模造品	有孔円板	幅1.9長さ2.7厚さ0.3重さ2.9			2/3				滑石製	
155 1	SJ 381	須恵器	坏身	(12.2)	4.3	—	1/3	白粒	良好	灰		69-6
155 2	SJ 381	土師器	坏	13.0	[3.8]	—	口縁破片	赤粒白粒	普通	にぶい橙	模倣坏	
155 3	SJ 381	土師器	坏	16.0	[4.9]	—	ほぼ完形	角赤粒白粒	普通	淡橙	模倣坏	69-7
155 4	SJ 381	土師器	坏	15.8	[4.8]	—	2/5	砂粒赤粒白粒	普通	橙	模倣坏	
155 5	SJ 381	土師器	坏	(13.6)	[6.3]	—	1/4	雲赤粒	普通	にぶい橙		
155 6	SJ 381	土師器	坏	(16.2)	[4.9]	—	2/3	石英赤粒	普通	にぶい橙	比企型坏、赤彩	69-8
155 7	SJ 381	土師器	壺	(27.2)	[12.6]	—	口縁破片	角赤粒白粒	良好	明赤褐		90-3
155 8	SJ 381	土師器	甕	—	[4.7]	5.8	底部	砂粒赤粒	普通	にぶい橙		
155 9	SJ 381	土師器	高坏	—	5.4	10.9	2/3	砂粒白粒	普通	橙		
155 10	SJ 381	石製品	砥石	幅5.2長さ12.3厚さ2.0			完形					129-1
155 11	SJ 381	石製品	紡錘車	幅(4.4)厚さ0.7重さ10.7			1/2					120-1
155 12	SJ 381	石製品	白玉	径0.6長さ0.3重さ0.2			ほぼ完形				滑石製	
155 13	SJ 381	石製品	白玉	幅0.5長さ0.8重さ0.6			ほぼ完形				滑石製	
157 1	SJ 382	土師器	坏	13.8	4.0	—	ほぼ完形	雲	普通	淡赤橙	有段口縁坏	69-9
157 2	SJ 382	土師器	甕	—	[3.9]	5.6	底部	赤粒白粒	普通	橙		
159 1	SJ 383	土師器	坏	(14.8)	[3.6]	—	口縁破片	赤粒白粒	普通	にぶい橙	模倣坏	
159 2	SJ 383	土師器	坏	(15.4)	[3.8]	—	口縁破片	赤粒白粒	普通	橙	模倣坏	
159 3	SJ 383	土師器	坏	(11.8)	[3.5]	—	口縁1/5	赤粒白粒	普通	にぶい橙	黒色身模倣坏	
159 4	SJ 383	土師器	坏	13.4	4.4	—	ほぼ完形	赤粒白粒	普通	黒褐	有段口縁坏	69-10
159 5	SJ 383	石製品	紡錘車	幅残1.1厚さ(0.7)重さ3.7			破片					120-1
161 1	SJ 384	土師器	坏	13.2	[4.2]	—	1/4	雲赤粒白粒	普通	にぶい橙	模倣坏	
161 2	SJ 384	土師器	坏	15.8	[4.5]	—	口縁	赤粒白粒	良好	橙	模倣坏	
161 3	SJ 384	土師器	坏	(14.8)	[3.8]	—	口縁破片	赤粒白粒	普通	にぶい橙	模倣坏	
161 4	SJ 384	土師器	坏	(14.7)	4.9	—	1/2	赤粒黒粒	良好	橙	模倣坏	70-1
161 5	SJ 384	土師器	坏	17.6	5.1	—	4/5	雲角白粒	普通	橙	模倣坏	70-2
161 6	SJ 384	土師器	坏	18.2	5.3	—	ほぼ完形	赤粒	普通	橙	模倣坏、赤彩	70-3
161 7	SJ 384	土師器	坏	(12.8)	[5.1]	—	口縁破片	雲赤粒	普通	明赤褐		
161 8	SJ 384	土師器	鉢	—	[9.4]	—	1/3	雲角白粒	普通	にぶい黄橙	赤彩	
161 9	SJ 384	土師器	甕	(18.6)	[22.8]	—	4/5	雲白粒黒粒	普通	赤褐		107-4
161 10	SJ 384	石製模造品	剣形品	幅3.0長さ4.7厚さ0.6重さ12.7			4/5				滑石製	
162 1	SJ 385	土師器	坏	12.0	5.5	—	ほぼ完形	雲黒粒	普通	浅黄橙	模倣坏	70-4
162 2	SJ 385	土師器	甕	(19.1)	16.0	8.6	2/3	砂粒赤粒	普通	橙		108-1
163 1	SJ 386	土師器	鉢	(14.4)	[6.3]	—	口縁破片	雲片石英赤粒	普通	淡橙		
164 1	SJ 388	須恵器	坏身	(13.6)	[2.8]	—	破片	石英白粒	普通	青灰		
164 2	SJ 388	土師器	坏	(12.0)	[2.8]	—	口縁破片	赤粒白粒	普通	明赤褐	比企型坏、赤彩	
168 1	SJ 389	土師器	坏	(13.0)	[3.0]	—	口縁破片	白粒	普通	にぶい赤褐	黒色身模倣坏	
168 2	SJ 389	土師器	坏	(16.6)	[4.9]	—	口縁破片	赤粒黒粒	普通	橙	模倣坏	
168 3	SJ 389	土師器	坏	(19.0)	[3.7]	—	破片	赤粒白粒	普通	明赤褐	模倣坏	
168 4	SJ 389	土師器	坏	14.5	[3.5]	—	口縁破片	雲長石赤粒白粒	普通	にぶい橙	比企型坏、赤彩	
168 5	SJ 389	土師器	甕	—	[2.4]	6.3	底部	雲角長石石英赤粒針	普通	にぶい黄橙		
168 6	SJ 389	土師器	甕	(19.6)	[7.7]	—	口縁破片	角長石砂粒赤粒白粒	普通	灰白		
168 7	SJ 389	土師器	壺	(22.2)	[6.3]	—	口縁破片	角長石赤粒白粒黒粒	普通	橙		
170 1	SJ 390	土師器	甕	21.2	[5.5]	—	口縁破片	角砂粒赤粒白粒	普通	にぶい黄橙	煤附着	
171 1	SJ 391	土師器	坏	(15.0)	[3.6]	—	口縁破片	雲赤粒黒粒	不良	にぶい橙		
171 2	SJ 391	土師器	甕	12.0	[5.9]	—	口縁部	長石赤粒白粒黒粒	普通	にぶい黄橙		
171 3	SJ 391	土師器	甕	(17.0)	[17.0]	—	1/2	雲石英赤粒	普通	茶褐		
171 4	SJ 391	土師器	甕	(15.4)	[11.3]	—	口縁破片	雲片角長石石英赤粒白粒	普通	にぶい橙		
171 5	SJ 391	土師器	甕	—	[3.4]	8.4	底部	雲石英赤粒白粒	普通	にぶい橙		

第12表 住居跡出土遺物観察表(8)

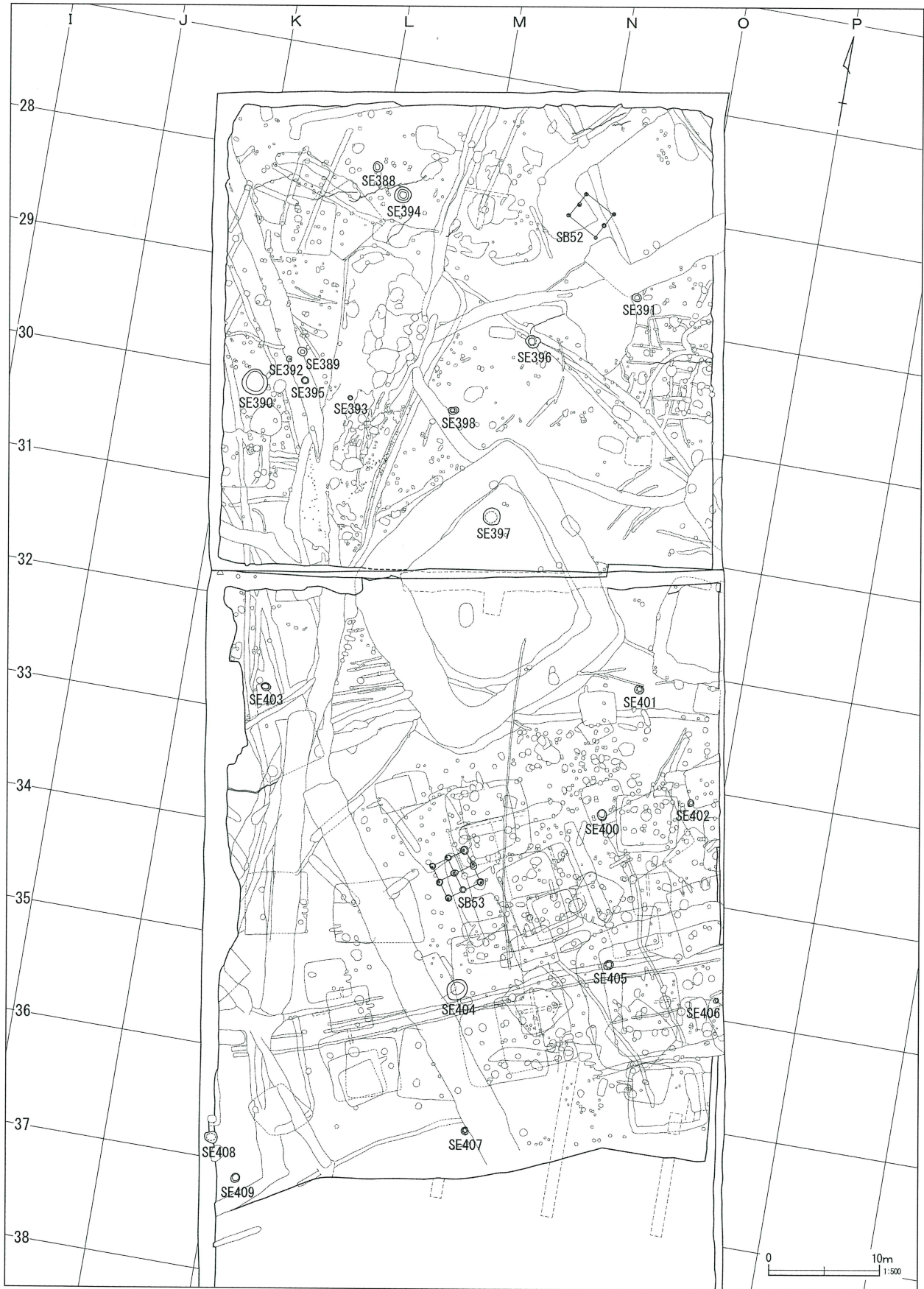
挿図番号	遺構番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	備考	図版
173	1	SJ 392	土師器 坏	(13.0)	[3.2]	—	口縁破片	赤粒	普通	にぶい橙	模倣坏	
173	2	SJ 392	土師器 甕	(15.2)	[9.0]	—	口縁破片	砂粒 白粒 針	普通	灰白		
175	1	SJ 393	土師器 高坏	—	[6.8]	(9.0)	脚部	石英 砂粒 赤粒 白粒	普通	橙		90-4
175	2	SJ 393	埴輪 円筒埴輪	—	[8.4]	—	破片	砂粒 赤粒	普通	にぶい橙		
177	1	SJ 394	土師器 甕	—	[20.9]	7.5	底部	片 角 赤粒 白粒	良好	暗赤褐	単節RL	108-2
179	1	SJ 395	土師器 坏	(13.2)	[2.4]	—	破片	石英 砂粒 赤粒	普通	浅黄橙	比企型坏、赤彩	
179	2	SJ 395	土師器 坏	(14.0)	[3.8]	—	破片	砂粒 赤粒 白粒	良好	明黄褐	模倣坏	
179	3	SJ 395	土師器 坏	(12.0)	3.5	—	1/3	角 石英 砂粒 赤粒 白粒	普通	黄橙	有段口縁坏	
179	4	SJ 395	土師器 坏	(13.0)	[3.6]	—	口縁1/5	石英 砂粒 白粒	普通	浅黄橙	黒色身模倣坏	
179	5	SJ 395	土師器 坏	(11.0)	[3.8]	—	破片	角 砂粒 白粒	普通	にぶい橙	赤彩	
179	6	SJ 395	土師器 埴	(11.8)	[5.7]	—	口縁1/4	雲 白粒	良好	淡黄	赤彩	
179	7	SJ 395	石製品 白玉	径0.7長さ0.5重さ0.5			4/5				滑石製	128-2
179	8	SJ 395	土製品 勾玉	幅1.3長さ2.9厚さ2.9重さ3.2			ほぼ完形					129-2
180	1	SJ 396	須恵器 坏蓋	(14.0)	[3.6]	—	1/3	片 白粒	普通	灰	末野産	70-5
180	2	SJ 396	土師器 坏	(12.4)	[3.9]	—	口縁破片	雲 赤粒	普通	橙	模倣坏	
180	3	SJ 396	土師器 坏	11.0	3.2	—	4/5	砂粒 赤粒 白粒	普通	橙	有段口縁坏	
180	4	SJ 396	土師器 坏	11.4	4.0	—	1/2	赤粒	普通	明褐灰	身模倣坏	
180	5	SJ 396	土師器 坏	12.0	4.2	—	1/2	角 石英 砂粒 赤粒 白粒	普通	灰黄褐	身模倣坏	70-6
180	6	SJ 396	土師器 坏	(13.0)	3.8	—	3/5	雲 角 石英 砂粒 赤粒 白粒 黒粒	良好	にぶい赤褐	黒色身模倣坏	70-7
180	7	SJ 396	土師器 坏	(12.0)	4.3	—	4/5	角 石英 砂粒 赤粒 白粒	普通	灰黄褐	身模倣坏	70-8
180	8	SJ 396	土師器 坏	12.6	4.4	—	ほぼ完形	雲 赤粒 白粒	良好	赤橙	比企型坏、赤彩	70-9
180	9	SJ 396	土師器 甕	(18.6)	7.9	—	口縁のみ	赤粒	普通	淡橙		
180	10	SJ 396	土師器 甕	(21.0)	[17.0]	—	口縁破片	砂粒 赤粒 白粒	普通	灰白		
180	11	SJ 396	土師器 甕	—	[9.6]	9.0	底部	雲 黒粒	良好	灰白		
180	12	SJ 396	石製品 白玉	径0.7長さ0.1重さ0.1			完形				滑石製	128-2
180	13	SJ 396	石製品 白玉	径0.6長さ0.4重さ0.2			完形				滑石製	128-2
182	1	SJ 397	土師器 坏	10.8	[2.3]	—	口縁破片	雲 赤粒 白粒	普通	橙	黒色身模倣坏	
182	2	SJ 397	土師器 坏	13.0	4.7	—	2/3	角 石 砂粒 白粒 黒粒	良好	灰褐～黒褐	黒色模倣坏	70-10
182	3	SJ 397	土師器 小型壺	(5.1)	[5.5]	—	口縁破片	赤粒	普通	にぶい橙		
182	4	SJ 397	土師器 甕	—	[23.2]	7.0	胴部	白粒 黒粒	普通	灰褐		108-3
182	5	SJ 397	土師器 甕	—	[4.0]	7.6	底部	雲 石英 赤粒 白粒	普通	にぶい橙		
182	6	SJ 397	石製品 勾玉	厚さ[1.9]重さ1.2			4/5					127-1
184	1	SJ 398	土師器 甕	—	[12.6]	13.0	底部	雲 角 長石 赤粒 白粒 針	普通	にぶい黄橙		90-5
186	1	SJ 399	須恵器 坏蓋	20.5	[6.7]	—	2/3	砂粒 白粒 針	不良	にぶい灰	南比企産	71-1
186	2	SJ 399	土師器 坏	11.0	3.5	—	1/2	赤粒	普通	明褐灰	有段口縁坏	71-2
186	3	SJ 399	土師器 坏	(13.4)	[4.2]	—	1/3	雲 白粒 黒粒	普通	灰黄褐	有段口縁坏	
186	4	SJ 399	土師器 坏	12.0	4.3	—	1/2	雲 角 白粒	普通	暗灰黄	黒色有段口縁坏	
186	5	SJ 399	土師器 坏	(12.6)	[4.1]	—	口縁破片	白粒	普通	にぶい褐	黒色有段口縁坏	
186	6	SJ 399	土師器 坏	(12.0)	4.3	—	1/2	雲 角 赤粒 白粒 針	普通	にぶい黄橙	黒色有段口縁坏	
186	7	SJ 399	土師器 坏	(12.6)	[4.3]	—	1/4	白粒 黒粒	普通	黒褐	黒色有段口縁坏	
186	8	SJ 399	土師器 坏	(13.4)	4.7	—	3/4	雲 白粒 黒粒	普通	橙	有段口縁坏	71-3
186	9	SJ 399	土師器 坏	(14.0)	[4.3]	—	2/3	黒粒	良好	浅黄橙	有段口縁坏	
186	10	SJ 399	土師器 坏	(16.0)	[4.2]	—	破片	赤粒 黒粒	普通	にぶい橙	黒色有段口縁坏	
186	11	SJ 399	土師器 坏	(13.6)	[3.2]	—	口縁破片	赤粒 白粒 黒粒	良好	橙	比企型坏、赤彩	
186	12	SJ 399	土師器 坏	(12.0)	[4.1]	—	1/3	角 赤粒 白粒	普通	橙	身模倣坏	
186	13	SJ 399	土師器 坏	(12.0)	[3.5]	—	口縁破片	赤粒 白粒 黒粒	普通	橙	身模倣坏	
186	14	SJ 399	土師器 甕	(21.0)	[7.0]	—	1/6	砂粒 白粒	普通	にぶい赤褐		
186	15	SJ 399	須恵器 壺	—	[9.1]	—	1/2	石英 白粒 片	普通	黒灰	末野産	
186	16	SJ 399	須恵器 甕	—	5.5	—	破片	白粒 黒粒	普通	褐灰		
186	17	SJ 399	須恵器 甕	—	6.0	—	破片	雲	普通	にぶい黄橙		
190	1	SJ 400	土師器 甕	(12.0)	[11.3]	—	口縁1/2	角 砂粒 赤粒 白粒	普通	淡黄		90-6
190	2	SJ 400	土師器 台付甕	(14.0)	[16.8]	—	1/5	砂粒 白粒	普通	淡黄	S字状口縁、煤付着	91-1
190	3	SJ 400	土師器 台付甕	(12.8)	[25.8]	8.8	ほぼ完形	砂粒 白粒	普通	淡黄	S字状口縁、煤付着	108-4
190	4	SJ 400	土師器 台付甕	—	[5.5]	(10.6)	脚部2/5	砂粒	普通	淡黄		
190	5	SJ 400	土師器 甕	—	[2.7]	7.0	底部	雲 長石 石英	普通	にぶい褐		
190	6	SJ 400	土師器 埴	16.4	[6.7]	—	ほぼ完形	砂粒	普通	黄橙	赤彩	71-4
190	7	SJ 400	土師器 ミニチュア	6.1	—	3.7	ほぼ完形	雲	普通	にぶい黄橙		119-1
190	8	SJ 400	土師器 甕	—	—	—	破片	雲 砂粒	普通	黒褐		

第13表 住居跡出土遺物観察表(9)

挿図番号	遺構番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	備考	図版		
190	9	SJ	400	土師器	甕	—	—	—	破片	雲	普通	にぶい黄橙	単節LR	
190	10	SJ	400	鉄製品	釘?	幅0.4長さ[1.6]			破片					
193	1	SJ	402	土師器	坏	(11.8)	[2.5]	—	口縁破片	白粒	普通	黒褐	身模倣坏	
193	2	SJ	402	土師器	甕	(21.0)	[17.0]	—	口縁破片	雲 赤粒 白粒 黒粒	普通	にぶい橙		
193	3	SJ	402	土製品	紡錘車	幅4.0長さ0.7厚さ2.1重さ43.7			完形				滑石製	120-1
193	4	SJ	402	土製品	土錘	孔径0.4径1.2長さ4.3重さ5.8			完形					129-2
193	5	SJ	402	土製品	土錘	孔径0.4径1.3長さ5.2重さ8.4			完形					129-2
195	1	SJ	403	土師器	高坏	15.0	[3.6]	—	坏部	雲 石英 赤粒	普通	橙		71-5
197	1	SJ	404	須恵器	坏蓋	(11.7)	[4.0]	—	2/3	長石 白粒	良好	灰白		71-6
197	2	SJ	404	須恵器	坏身	(12.3)	[1.6]	—	破片	石英 白粒	普通	暗青灰色		
197	3	SJ	404	須恵器	壺	(14.8)	[2.8]	—	口縁破片	雲 赤粒 白粒	良好	にぶい橙	末野産	
197	4	SJ	404	土師器	坏	(11.5)	[3.1]	—	1/5	赤粒	普通	にぶい橙	模倣坏	
197	5	SJ	404	土師器	坏	(13.6)	[3.3]	—	1/3	雲 赤粒	良好	明褐	有段口縁坏	
197	6	SJ	404	土師器	坏	12.4	4.2	—	3/4	雲 赤粒 白粒	良好	明赤褐	有段口縁坏	71-7
197	7	SJ	404	土師器	坏	11.6	[3.7]	—	1/5	雲 白粒	良好	にぶい橙	比企型坏、赤彩	
197	8	SJ	404	土師器	高坏	—	[3.5]	—	坏部	雲 赤粒	普通	橙	暗文	
197	9	SJ	404	土師器	甕	—	[7.7]	(5.0)	底部破片	雲 片 赤粒	普通	褐灰		
197	10	SJ	404	土師器	甕	(17.0)	[9.2]	—	口縁1/3	砂粒	普通	明褐灰	小砂利多く含む	
197	11	SJ	404	土師器	甕	19.2	[9.1]	—	口縁部	白粒 白粒	普通	にぶい橙		
197	12	SJ	404	土師器	甕	(21.4)	[8.0]	—	1/4	白粒 黒粒	普通	灰黄褐		
197	13	SJ	404	土師器	甕	—	[20.3]	3.3	底部	赤粒 黒粒	普通	明赤灰		91-2
197	14	SJ	404	石製品	砥石	幅3.0長さ4.9厚さ2.3			完形					
197	15	SJ	404	石製品	すり石	幅7.9長さ11.0厚さ1.7			完形					
198	1	SJ	405	土師器	坏	(12.0)	4.6	—	1/2	雲 赤粒 白粒	良好	橙	模倣坏	
198	2	SJ	405	土師器	坏	(12.8)	[4.4]	—	1/4	雲 砂粒	普通	にぶい橙	模倣坏	
198	3	SJ	405	土師器	坏	(12.2)	[3.2]	—	口縁破片	雲 白粒	普通	浅黄橙	身模倣坏	
198	4	SJ	405	土師器	坏	(12.0)	[6.0]	—	1/5	雲 白粒	良好	にぶい橙	暗文、模倣坏	
198	5	SJ	405	須恵器	甕	(12.8)	—	—	破片	白粒	良好	黒灰		
198	6	SJ	405	土師器	甕	—	[9.0]	8.2	1/2	石英 砂粒 白粒 小石	普通	褐灰		
198	7	SJ	405	石製品	白玉	幅0.6長さ1.2重さ1.0			4/5				滑石製	
203	1	SJ	406	須恵器	坏蓋	(12.6)	[3.5]	—	1/4	白粒	良好	灰		121-1
203	2	SJ	406	須恵器	蓋	13.2	4.6	—	1/2	白粒	良好	灰	児玉産?	71-8
203	3	SJ	406	須恵器	坏身	(13.0)	[2.6]	—	口縁破片	白粒	良好	青灰		121-1
203	4	SJ	406	須恵器	高坏	(11.0)	[5.4]	—	坏身部1/3	白粒	普通	灰	末野産、二方透	
203	5	SJ	406	須恵器	壺	—	—	—	破片	石英 白粒	普通	灰		
203	6	SJ	406	土師器	坏	12.0	[4.7]	—	1/3	赤粒 白粒	良好	にぶい橙	模倣坏	
203	7	SJ	406	土師器	坏	11.5	3.7	—	完形	赤粒	良好	浅黄橙	有段口縁坏	71-9
203	8	SJ	406	土師器	坏	(12.6)	4.0	—	2/3	雲 白粒	普通	灰褐	模倣坏	
203	9	SJ	406	土師器	坏	(13.2)	[3.7]	(6.7)	1/2	砂粒 赤粒	普通	にぶい橙	模倣坏、赤彩	
203	10	SJ	406	土師器	坏	(12.2)	[3.5]	—	1/5	雲 赤粒	普通	にぶい橙	有段口縁坏	
203	11	SJ	406	土師器	坏	(12.8)	[3.9]	—	口縁破片	雲 白粒	普通	赤	有段口縁坏	
203	12	SJ	406	土師器	坏	(13.2)	[4.1]	—	口縁破片	雲 白粒	普通	にぶい赤褐	有段口縁坏	
203	13	SJ	406	土師器	坏	(14.0)	[3.0]	—	口縁破片	雲 砂粒 白粒	普通	褐	模倣坏	
203	14	SJ	406	土師器	坏	15.0	3.5	—	完形	白粒	普通	明赤褐	模倣坏	71-10
203	15	SJ	406	土師器	坏	(13.4)	[3.5]	—	1/3	黒粒	普通	にぶい黄橙	模倣坏	
203	16	SJ	406	土師器	坏	(11.8)	[3.3]	—	口縁破片	雲 長石	普通	灰褐	黒色身模倣坏	
203	17	SJ	406	土師器	坏	(12.2)	[3.8]	—	1/5	雲 赤粒 白粒	良好	にぶい橙	黒色身模倣坏	
203	18	SJ	406	土師器	坏	11.9	[3.2]	—	1/5	雲 白粒	普通	明褐灰	身模倣坏	
203	19	SJ	406	土師器	坏	11.8	[4.1]	—	1/3	雲 赤粒 白粒	良好	にぶい赤褐	比企型坏、赤彩	
203	20	SJ	406	土師器	坏	(13.2)	[3.6]	—	口縁破片	白粒	良好	にぶい黄橙	比企型坏、赤彩	
203	21	SJ	406	土師器	高坏	16.8	[5.3]	—	坏部	雲 砂粒 白粒	普通	黒褐		72-1
203	22	SJ	406	土師器	高坏	17.3	[5.0]	—	坏部1/2	雲 角 赤粒 白粒	良好	橙	赤彩	72-2
203	23	SJ	406	土師器	高坏	—	[7.3]	—	脚部	雲	普通	明褐灰		
203	24	SJ	406	土師器	高坏	—	[8.5]	(9.0)	脚部	雲 白粒	良好	褐		91-3
203	25	SJ	406	土師器	小型壺	(7.9)	9.5	3.7	2/3	雲	普通	にぶい橙		91-4
203	26	SJ	406	土師器	鉢	(9.8)	9.4	—	1/3	雲 白粒	良好	明赤褐		
203	27	SJ	406	土師器	鉢	(16.0)	[6.2]	—	1/5	雲 赤粒 白粒	普通	にぶい橙		
203	28	SJ	406	土師器	鉢	(22.0)	[6.4]	—	口縁破片	角 赤粒 白粒	良好	浅黄橙		

第14表 住居跡出土遺物観察表(10)

挿図番号	遺構番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	備考	図版		
203	29	SJ	406	土師器	鉢	(25.0)	[5.4]	—	口縁破片	赤粒 白粒	普通	赤褐	72-3	
204	30	SJ	406	土師器	壺	9.6	[5.7]	—	口縁部	黒粒	不良	褐灰		
204	31	SJ	406	土師器	甕	(20.4)	[7.4]	—	口縁破片	砂粒	普通	灰白		
204	32	SJ	406	土師器	甕	(24.2)	[6.8]	—	口縁破片	雲 白粒	普通	灰白	109-1	
204	33	SJ	406	土師器	甕	(20.0)	[10.4]	—	口縁破片	砂粒 赤粒 白粒	良好	浅黄橙		
204	34	SJ	406	土師器	甕	(21.2)	[10.1]	—	口縁破片	雲 赤粒	普通	褐灰		
204	35	SJ	406	土師器	甕	(23.3)	[24.2]	—	1/2	雲片角石英赤粒白粒黒粒小礫	良好	灰黄褐		
204	36	SJ	406	土師器	甕	—	[1.4]	5.0	底部	赤粒 白粒	普通	にぶい赤褐		
204	37	SJ	406	土師器	甕	—	[2.2]	6.4	底部破片	砂粒 赤粒	普通	褐灰		
204	38	SJ	406	土師器	甕	—	[4.0]	6.4	底部	雲 石英 砂粒	普通	灰褐		
204	39	SJ	406	土師器	甕	—	[4.7]	(8.0)	底部破片	赤粒	普通	にぶい橙		
204	40	SJ	406	石製品	管玉未製品	長さ0.6厚さ1.9重さ1.6			完形					127-1
204	41	SJ	406	石製品	不明品	厚さ[2.6]重さ2.5								
204	42	SJ	406	石製品	紡錘車	幅3.0長さ3.9厚さ0.5重さ9.6			完形				120-2	
206	1	SJ	407	土師器	壺	—	[17.0]	—	口縁部	片角石英赤粒白粒	良好	明黄褐	91-5	
209	1	SJ	411	土師器	壺	—	[26.0]	8.0	3/4	長石 赤粒 白粒 黒粒	普通	橙	109-2	
211	1	SJ	412	石製品	白玉	幅0.3長さ0.6重さ0.1			完形				128-2	
212	1	SJ	413	土師器	不明品	幅[2.0]長さ[2.9]重さ3.4			破片	雲			129-2	
212	2	SJ	413	石製品	白玉	幅0.5長さ0.5重さ0.2			ほぼ完形					
215	1	SJ	414	須恵器	坏蓋	(9.4)	3.3	—	2/3	雲	普通	灰	72-4	
215	2	SJ	414	須恵器	坏蓋	9.6	3.9	—	3/4	白粒	良好	灰	72-5	
215	3	SJ	414	土師器	坏	(11.8)	[2.8]	—	口縁破片	赤粒	普通	にぶい橙	72-6	
215	4	SJ	414	土師器	坏	(12.2)	[4.9]	—	2/3	黒粒	普通	にぶい橙		
215	5	SJ	414	土師器	坏	(11.4)	[2.5]	—	1/5	雲	普通	橙		
215	6	SJ	414	土師器	坏	(13.0)	[2.8]	—	口縁破片	赤粒 白粒	普通	橙		
215	7	SJ	414	土師器	坏	(14.4)	[2.9]	—	口縁破片	赤粒 白粒	良好	赤		
215	8	SJ	414	土師器	高坏	(19.0)	[5.1]	—	口縁破片	雲	普通	赤		
215	9	SJ	414	土師器	高坏	—	6.8	—	脚部	雲 白粒	普通	淡赤橙		
215	10	SJ	414	土師器	鉢	(28.0)	[8.8]	—	1/4	雲 赤粒 白粒	普通	灰褐	109-3	
215	11	SJ	414	土師器	甕	(22.0)	[4.8]	—	口縁破片	赤粒 黒粒	普通	にぶい橙		
215	12	SJ	414	土師器	甕	20.8	28.5	7.9	ほぼ完形	雲	普通	橙~にぶい橙		
215	13	SJ	414	須恵器	甕	—	15.6	—	破片	石英 白粒	良好	青灰		
215	14	SJ	414	石製品	白玉	幅[0.3]長さ0.9重さ0.4			ほぼ完形					
215	15	SJ	414	石製品	白玉	径1.2長さ0.6重さ1.4			完形					
216	1	SJ	415	土師器	甕	16.2	[14.4]	—	口縁破片	雲 砂粒 白粒	普通	にぶい橙	128-2	
216	2	SJ	415	土師器	甕	(16.6)	[16.8]	—	口縁破片	雲 角 赤粒 白粒	普通	にぶい橙		
216	3	SJ	415	土師器	甕	—	[3.3]	6.9	底部	角 白粒	普通	淡赤橙		
217	1	SJ	416	須恵器	坏身	(13.4)	[3.7]	—	口縁破片	赤粒 白粒	普通	明赤褐		
217	2	SJ	416	土師器	坏	(11.4)	4.2	—	口縁破片	雲 白粒 黒粒	普通	橙		
219	1	SJ	417	土師器	壺	(17.4)	[5.9]	—	口縁破片	雲 赤粒	普通	にぶい赤褐		
219	2	SJ	417	土師器	台付甕	(15.9)	[3.1]	—	口縁破片	雲	普通	暗赤褐		
219	3	SJ	417	土師器	甕	—	—	—	破片	砂粒	普通	橙		
221	1	SJ	418	土師器	坏	10.8	[3.3]	—	口縁破片	雲 白粒 黒粒	普通	橙		
221	2	SJ	418	土師器	坏	(11.9)	[3.3]	—	口縁破片	片 赤粒	普通	橙		
221	3	SJ	418	土師器	坏	(11.9)	[3.3]	—	口縁破片	雲 赤粒 白粒	普通	橙		
221	4	SJ	418	土師器	鉢	(15.0)	[5.3]	—	1/5	石英 砂粒 針	普通	にぶい橙		
221	5	SJ	418	土師器	鉢	(20.0)	[5.8]	—	口縁破片	雲 白粒	良好	橙		
222	1	SJ	419	土師器	坏	(12.8)	[4.0]	—	口縁破片	雲 砂粒	普通	灰褐		
222	2	SJ	419	土師器	坏	(13.4)	[4.4]	—	1/3	雲 赤粒 白粒	普通	明赤褐		
225	1	SJ	420	土師器	坏	(12.2)	[4.5]	—	1/4	赤粒 白粒	良好	橙		
225	2	SJ	420	土師器	坏	—	[4.2]	—	2/3	雲 赤粒	普通	にぶい橙		
225	3	SJ	420	土師器	坏	(16.0)	4.1	—	破片	赤粒 白粒	普通	にぶい橙		
225	4	SJ	420	土師器	甕	18.8	33.0	6.1	3/4	赤粒	良好	明褐灰	109-4	
226	1	SJ	422	土師器	坏	9.2	3.4	—	ほぼ完形	赤粒	普通	にぶい橙		
226	2	SJ	422	土師器	坏	(12.2)	[4.2]	—	1/4	赤粒 白粒	普通	橙	72-7	
226	3	SJ	422	土師器	壺	(32.6)	[10.3]	—	口縁破片	雲 赤粒 白粒	普通	橙		
226	4	SJ	422	土師器	甕	—	[5.3]	9.0	底部破片	雲 赤粒	普通	にぶい橙		
228	1	SJ	423	土師器	甕	(15.0)	[2.2]	—	口縁破片	雲 黒粒	普通	にぶい黄橙		
228	2	SJ	423	土師器	台付甕	—	[3.4]	—	脚台部	白粒 黒粒	普通	灰褐		



第229図 掘立柱建物跡・井戸跡全体図 (1)



第230図 掘立柱建物跡・井戸跡全体図（2）

3. 掘立柱建物跡

本調査区内では、谷を挟んだ北側で2棟、南側で1棟の計3棟の掘立柱建物跡を検出した。何れの遺構も出土遺物が少量で、遺構に伴うと考えられる遺物が出土しなかったため、時期を特定するには至らなかった。他の遺構との重複関係から、平安時代の可能性が高い。また、中世の生活面は遺構確認面よりやや上位にあったと考えられるため、中世の建物跡が存在していた可能性も高い。

一番北側で検出された第52号掘立柱建物跡は、1間×2間で、柱穴の深さも浅く小規模な建物跡であった。第53号掘立柱建物跡は、2間×2間の総柱建物跡で、柱穴の掘り込みが深く、ヒノキ科の柱材が残存していた。第54号掘立柱建物跡は、調査区南側の谷際で検出された3間×2間の総柱建物跡で、中世の井戸に壊され残りが良くなかった。

本遺跡では、底面に片岩の礎石を伴ったピット、柱材の痕跡を確認できたものなど多数の小ピットを検出したが、遺構の重複が著しかったため、建物跡として認識できたものは僅かであった。本来的には今回検出された建物跡の倍以上の遺構が存在していた可能性が考えられる。

第52号掘立柱建物跡（第231図）

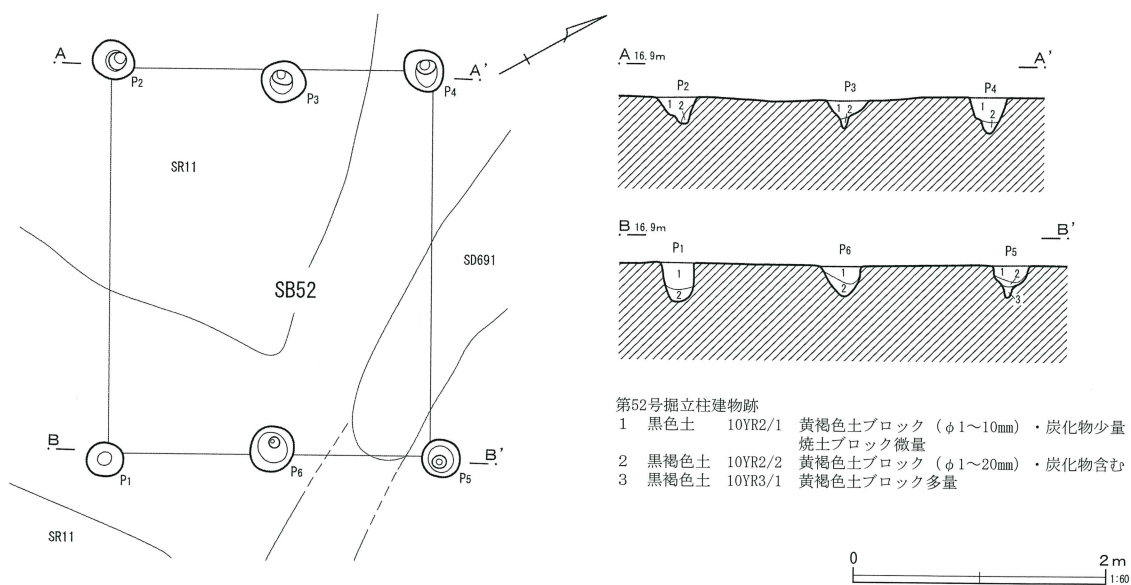
M・N-27・28グリッドにかけて検出された。重複する遺構は第691号溝跡、第11号方形周溝墓であった。

建物構造は、桁行1間×梁行2間で、東西方向に長い建物跡であった。規模は、桁行が3.1m、梁行が2.6mであった。

柱穴の平面形態は、ほぼ円形をしていた。各柱穴の規模は、P1は長軸30cm、短軸28cm、深さは30cm、P2は長軸35cm、短軸30cm、深さは22cm、P3は長軸35cm、短軸32cm、深さは22cm、P4は長軸35cm、短軸32cm、深さは28cm、P5は長軸30cm、短軸30cm、深さは26cm、P6は長軸37cm、短軸35cm、深さは24cmであった。桁方向はN-60°-Wであった。

本建物の周囲には第11号方形周溝墓が巡り、本遺構が切り込んで作られていた。また西側には、集落内を南北に走行する第656・666・667号溝跡が位置し、東西方向に走行する696号溝跡が位置していた。

遺物は、P3から土師器甕の破片が1点出土した。



第231図 第52号掘立柱建物跡

第53号掘立柱建物跡 (第232図)

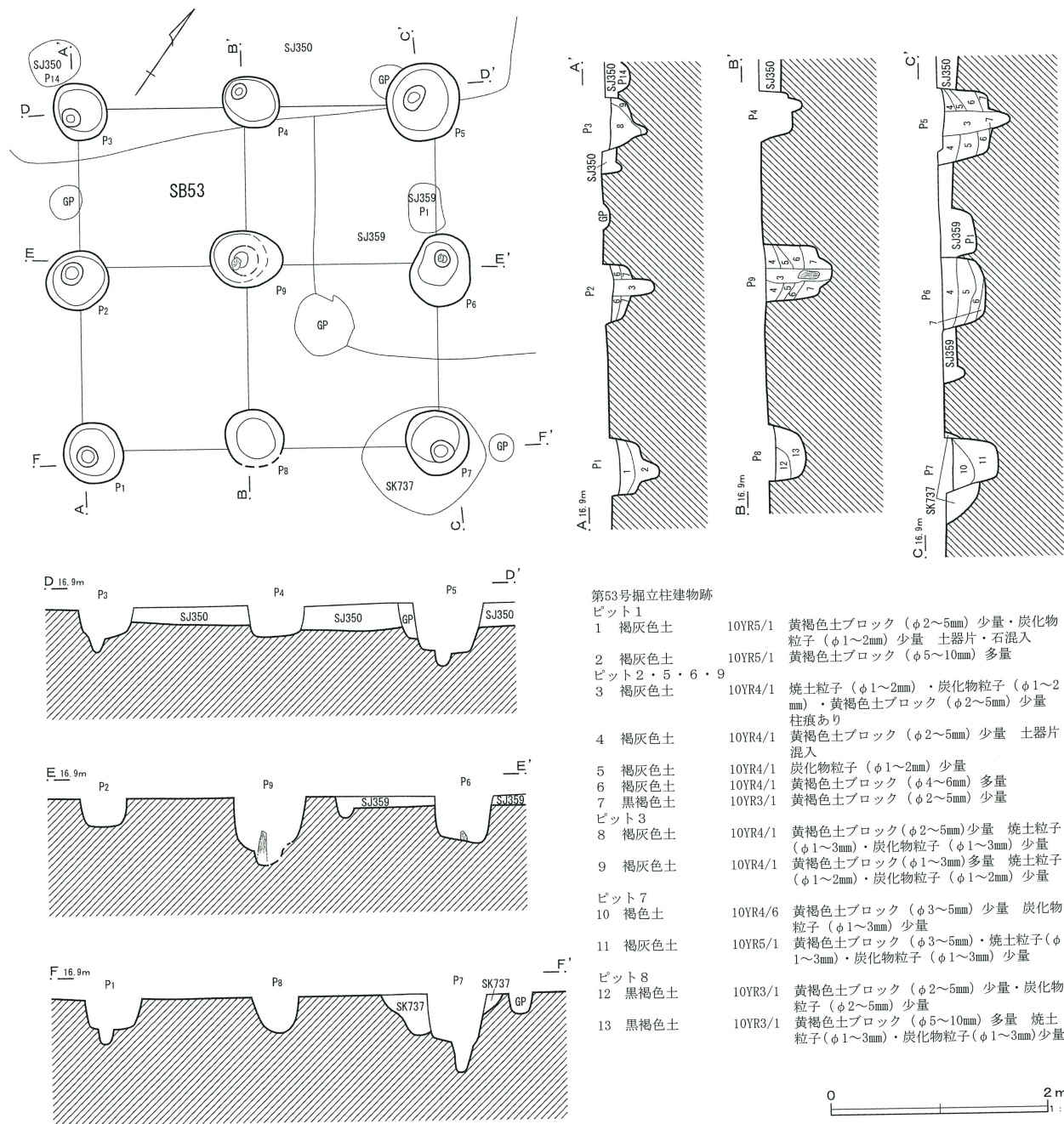
M-33・34グリッドにかけて検出された。第16号方形周溝墓、第350・351・359号住居跡、第737号土坑と重複しており、本遺構の方が重複する全ての遺構より新しかった。

建物跡の柱穴は9本が検出され、桁行2間×梁行2間の総柱建物跡であった。規模は、桁行が2.16m、梁行が2.21mで、正方形をしていた。柱間は、桁行で

0.97~1.2m (平均1.1m)、梁行で1.05~1.26m (平均1.11m)であった。桁方向はN-36°-Wであった。

P8を除いた他の8本からは、底面に小ピットが確認できたが、柱材が残存していたのはP6・9の2本のみであった。他のピットの土層断面からは柱材の痕跡を確認することができた。

各柱穴の規模は、P1が径57cm、深さ46cm、P2が径55cm、深さ47cm、P3が径53cm、深さ44cm、P4が

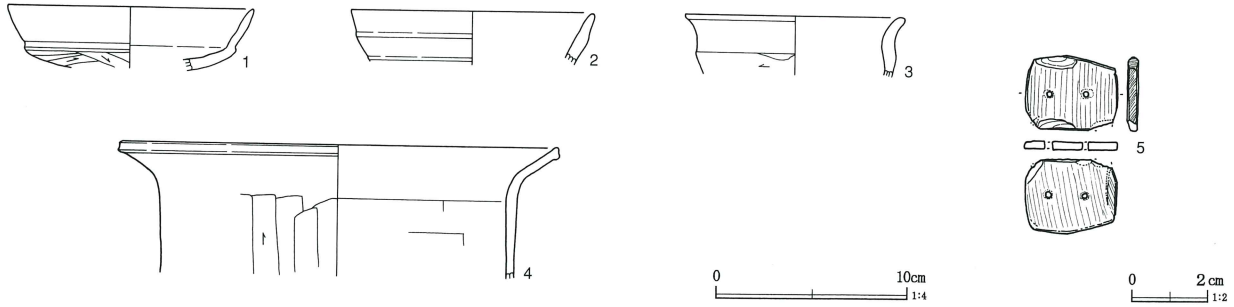


第232図 第53号掘立柱建物跡

径53cm、深さ41cm、P 5が径72cm、深さ65cm、P 6が径61cm、深さ45cm、P 7が径60cm、深さ72cm、P 8が径55cm、深さ36cm、P 9が径60cm、深さ62cmであった。各柱穴の平面形態は、全て円形であった。

遺物は、土師器坏2点、甕2点、石製模造品1点の計5点が図示できたが、本遺構に伴うものではなく、

住居跡などの他の遺構に伴う遺物である可能性が高い。本遺構に伴う遺物が出土していないため、詳細な時期は判断できないが、古墳時代後期の住居跡が埋没した後に構築されていることを考えると、本遺構の時期は平安時代以降であると考えられる。



第233図 第53号掘立柱建物跡出土遺物

第15表 53号掘立柱建物跡出土遺物観察表

挿図番号	遺構番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	備考	図版
233 1	SB 53	土師器	坏	(13.0)	[3.2]	—	口縁破片	角赤粒 白粒	普通	橙		
233 2	SB 53	土師器	坏	(12.8)	[2.7]	—	口縁破片	雲赤粒	普通	にぶい橙	有段口縁坏	
233 3	SB 53	土師器	小型甕	(11.6)	[3.1]	—	口縁破片	雲赤粒 白粒	普通	にぶい橙	煤付着	
233 4	SB 53	土師器	甕	(22.9)	[6.8]	—	口縁破片	砂粒 白粒	普通	褐灰		
233 5	SB 53	石製模造品	有孔円板	幅2.4長さ1.9厚さ0.3重さ2.9			ほぼ完形					128-1

第54号掘立柱建物跡 (第234図)

P-45・46、Q-46グリッドにかけて検出された。第419・421号井戸跡、第789・825号溝跡と重複しており、本遺構の方が重複する全ての遺構より古かった。

建物跡の柱穴は計10本を検出したが、南東部分の2本については中世の井戸跡に壊されており、検出することができなかった。

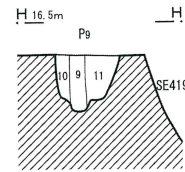
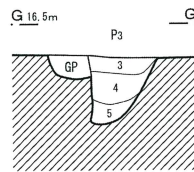
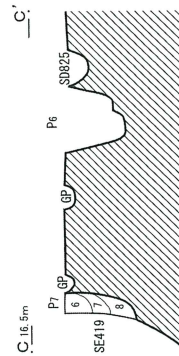
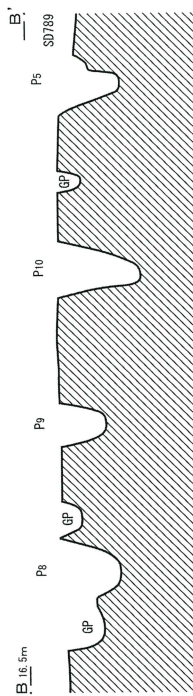
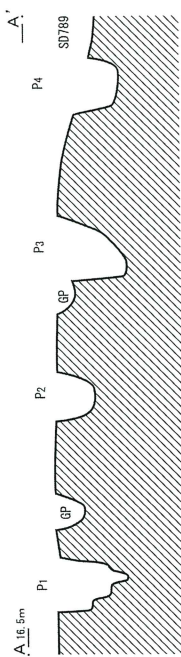
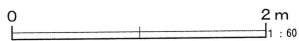
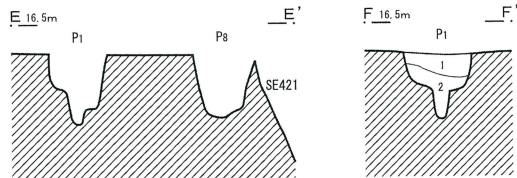
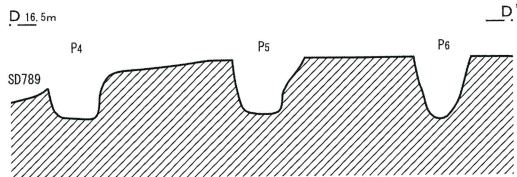
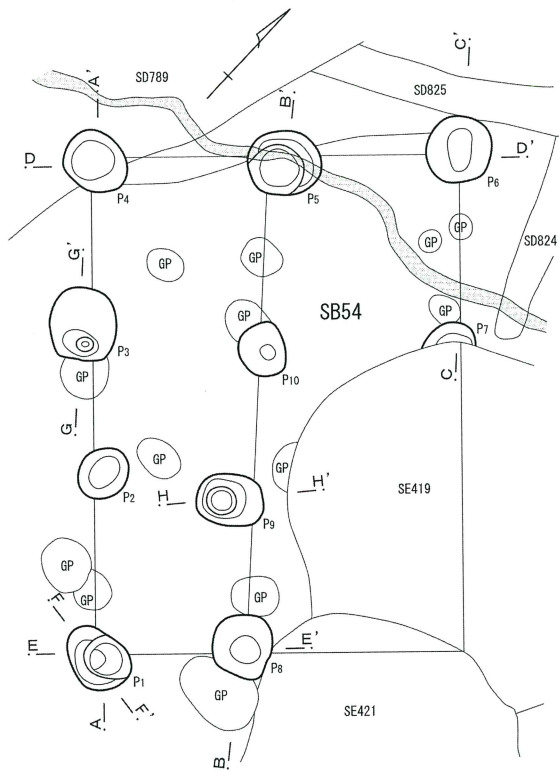
桁行3間×梁行2間で、規模は桁行2.65m、梁行が1.94mであった。柱間は、桁行で0.7~0.98m (平均0.86m)、梁行で0.78~0.98m (平均0.88m)であった。桁方向はN-43°-Wであった。

各柱穴の規模は、P 1が径50cm、深さ56cm、P 2が径40cm、深さ31cm、P 3が径55cm、深さ56cm、P 4が

径50cm、深さ36cm、P 5が径55cm、深さ43cm、P 6が径54cm、深さ50cm、P 7が径43cm、深さ57cm、P 8が径53cm、深さ48cm、P 9が径47cm、深さ44cm、P10が径38cm、深さ67cmであった。各柱穴の平面形態は、ほぼ円形であった。

P 9の土層断面からは、柱材の痕跡を確認することができた。

遺物はP 1・7を除いた各柱穴から出土しているが、出土量が少量で、図示できるものはなかった。古墳時代後期の高坏脚部片などの土師器片が出土しているが、遺構の重複が著しいため、周囲の遺構からの流れ込みの可能性もあり、本遺構の時期を特定するには至らなかった。



第54号掘立柱建物跡

ビット1

- 1 オリーブ褐色土 2.5Y4/4 黒色土ブロック (φ20~30mm) 多量
- 2 暗褐色土 10YR3/3 黒色土ブロック (φ10mm) 含む

ビット3

- 3 黒褐色土 10YR2/2 黄褐色土粒子 (φ5mm) 少量
- 4 にぶい黄褐色土 10YR5/4 黄褐色土粒子 (φ5~10mm) 多量
- 5 暗青灰色土 5BG3/1 黒色土ブロック (φ10~20mm) 多量 黄褐色土ブロック (φ5~10mm) 少量

ビット7

- 6 褐色土 10YR4/4 黄褐色土ブロック (φ10~20mm) 含む
- 7 黒褐色土 10YR3/2 黒色土粒子 (φ1mm) 含む 微細土器片を含む
- 8 黒褐色土 10YR3/2 緑灰色土ブロック (φ10mm) 含む

ビット9

- 9 褐灰色土 10YR4/1 混入物無し 明確な柱痕 粘性ややあり
- 10 にぶい黄橙色土 10YR6/3 黒色土粒子 (φ10mm) 含む しまりあり
- 11 にぶい黄橙色土 10YR6/3 黒色土粒子 (φ10mm) 少量 しまりあり

第234図 第54号掘立柱建物跡

4. 井戸跡

本書で今回報告する調査区からは、総数36基の井戸跡を検出した。

遺構の時期は、古墳時代後期から中世のもので、古墳時代前期の住居跡や方形周溝墓は検出されているが、井戸跡については1基も検出されていない。

本遺跡の傾向としては、直径が1mにも満たない小型の井戸跡は古墳時代から奈良時代までの古いものが多い。平安時代から中世になると、直径2m前後の大型の井戸跡となり、木枠を伴うものが増えることが特徴である。本遺跡のように自然堤防に立地するという条件下では、湧水に伴い壁面が崩落しやすく、井戸枠を伴う遺構が少ないことから、一つの井戸跡を長期的に使用していたとは考えにくい。

平面形態は円形のもので主体を占めるが、第414号井戸跡のように隅丸長方形の遺構も僅かに認められる。断面形は、筒形のものが多い。

主な出土遺物としては、第396号井戸跡から陰刻花文を施した緑釉陶器の皿や木櫛、第394号井戸跡からは下駄、第408・414号井戸跡からそれぞれ漆塗木製椀、第422号井戸跡からは灰釉陶器を転用した硯片などが出土している。

第388号井戸跡 (第235図)

K・L-27・28グリッドにかけて検出された。

規模は、長径90cm、短径86cm、深さが107cmであった。平面形態は円形で、断面形は筒形であった。

遺物が出土しなかったため、時期は不明である。

第389号井戸跡 (第235図)

K-29グリッドで検出され、第671号溝跡と重複していた。

規模は、長径84cm、短径73cm、深さが77cmであった。平面形態は円形で、断面形は筒形をしていた。覆土の1～3層には、土師器の破片を含んでいた。また、2層の下層からは木片が出土している。

遺物は、図示できるものが出土しなかった。

第390号井戸跡 (第235図)

K-29・30グリッドにかけて検出され、第660号溝跡と重複していた。

規模は、長径230cm、短径229cm、深さが162cmであった。平面形態は円形で、断面形は箱形をしていた。

出土遺物は、第236図1に示した。1は、木製の曲物側板で、井戸の中央に据えられた状態で出土している。綴じ部を樹皮紐ではなく、円孔に木栓を入れて固定している。

第391号井戸跡 (第235図)

N-28グリッドで検出された。第11号方形周溝墓と重複しており、本遺構の方が新しかった。

規模は、長径81cm、短径70cm、深さが123cmであった。平面形態は円形で、断面形は筒形をしていた。井戸枠については、検出できなかった。

出土遺物は、第236図2～6に示した。2は、須恵器坏の底部片である。3～5は、須恵器高台付碗の底部片である。6は、高台の貼りついた須恵器壺片である。

第392号井戸跡 (第235図)

K-29グリッドで検出され、第671号溝跡と重複していた。

規模は、長径50cm、短径44cm、深さが124cmであった。平面形態は円形で、断面形は筒形をしていた。井戸枠については、検出されなかった。

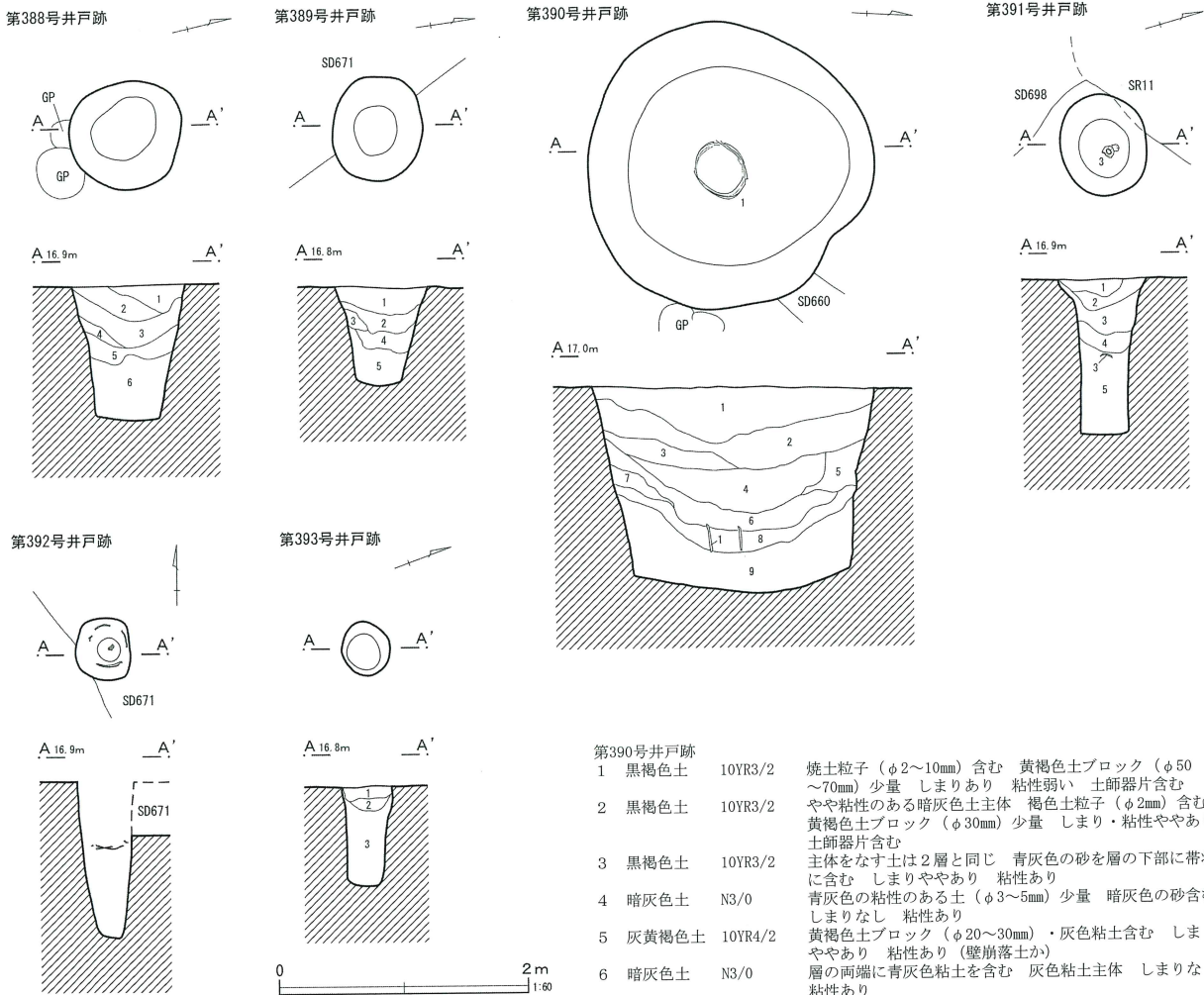
遺物は、土師器甕の破片などが少量出土した。

第393号井戸跡 (第235図)

L-30グリッドで検出された。

規模は、長径43cm、短径40cm、深さが79cmの小型の井戸跡であった。平面形態は円形で、断面形は筒形をしていた。井戸枠は、検出されなかった。

遺物は、土師器甕の破片が出土した。



- 第388号井戸跡
- | | | | | |
|---|------|---------|-----------------------|------------|
| 1 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | 黄褐色土ブロック多量 | マンガン含む |
| 2 | 黒褐色土 | 2.5Y3/1 | 黄褐色土ブロック・マンガン含む | 炭化物少量 |
| 3 | 黒色土 | 5Y2/1 | 青灰色土ブロック多量 | 炭化物・マンガン含む |
| 4 | 黒色土 | 5Y2/1 | 青灰色土ブロック多量 | |
| 5 | 黒色土 | N2/0 | 青灰色土ブロック (φ1~50mm) 含む | |
| 6 | 黒色土 | N2/0 | 青灰色土ブロック多量 | |
- 第389号井戸跡 ※1・2・3層は土師器の破片を含む
- | | | | | |
|---|------|---------|----------------------|---------------------|
| 1 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | 暗褐色土粒子 (φ1mm) 含む | 暗灰色の砂少量 |
| 2 | 暗灰色土 | N3/0 | 青灰色粘土ブロック (φ10mm) 少量 | しまりややあり 粘性あり |
| 3 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | 褐色土粒子 (φ5mm) 含む | しまりなし 粘性あり (壁崩落土か) |
| 4 | 暗灰色土 | N3/0 | 青灰色粘土ブロック (φ10mm) 少量 | 灰色粘土主体 しまりややあり 粘性あり |
| 5 | 黒色土 | N2/0 | 暗灰色 (黒色に近い色) の粘土主体 | しまりなし 粘性ややあり |

- 第390号井戸跡
- | | | | | | | |
|---|-------|---------|-----------------------------|------------------------|---------------------|--------------|
| 1 | 黒褐色土 | 10YR3/2 | 焼土粒子 (φ2~10mm) 含む | 黄褐色土ブロック (φ50~70mm) 少量 | しまりあり 粘性弱い | 土師器片含む |
| 2 | 黒褐色土 | 10YR3/2 | やや粘性のある暗灰色土主体 | 褐色土粒子 (φ2mm) 含む | 黄褐色土ブロック (φ30mm) 少量 | しまり・粘性ややあり |
| 3 | 黒褐色土 | 10YR3/2 | 主体をなす土は2層と同じ | 青灰色の砂を層の下部に帯状に含む | しまりややあり | 粘性あり |
| 4 | 暗灰色土 | N3/0 | 青灰色の粘性のある土 (φ3~5mm) 少量 | 暗灰色の砂含む | しまりなし | 粘性あり |
| 5 | 灰黄褐色土 | 10YR4/2 | 黄褐色土ブロック (φ20~30mm) | 灰色粘土含む | しまりややあり | 粘性あり (壁崩落土か) |
| 6 | 暗灰色土 | N3/0 | 層の両端に青灰色粘土を含む | 灰色粘土主体 | しまりなし | 粘性あり |
| 7 | 暗青灰色土 | 5B4/1 | 明るい青灰色粘土主体 | 暗褐色土粒子 (φ2mm) 多量 | しまりなし | 粘性あり |
| 8 | 暗灰色土 | N3/0 | 灰色と暗灰色 (黒色にちかい) の粘土が混じり合った層 | しまりなし | 粘性あり | |
| 9 | 灰色土 | N4/0 | 明るい青灰色の粘土・砂多量 | しまりなし | 粘性あり | |
- 第391号井戸跡
- | | | | | | |
|---|------|-----------|--------------------|---------------------|-------|
| 1 | 黒色土 | 10YR1.7/1 | 黄褐色土ブロック (φ1~10mm) | ・焼土ブロック少量 | 炭化物含む |
| 2 | 黒色土 | 10YR2/1 | 黄褐色土ブロック (φ1~5mm) | ・焼土ブロック少量 | 炭化物含む |
| 3 | 黒色土 | 7.5YR2/1 | 黄褐色土ブロック (φ1~5mm) | ・焼土ブロック少量 (2層より増える) | 炭化物含む |
| 4 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | 焼土ブロック少量 | 炭化物多量 | |
| 5 | 黒色土 | 2.5Y2/1 | 黄褐色土ブロック多量 | 炭化物・小礫を含む | |
- 第393号井戸跡
- | | | | | | |
|---|-------|---------|----------------------|---------|--------|
| 1 | 黒褐色土 | 2.5Y3/2 | ローム粒子 (φ1~5mm) 含む | しまりややあり | 粘性強い |
| 2 | 明黄褐色土 | 10YR6/6 | ロームブロック主体 (φ10~30mm) | しまりあり | 粘性ややあり |
| 3 | 黒色土 | N2/0 | 均質の粘質土層 | しまり弱い | 粘性強い |

第235図 井戸跡 (1)

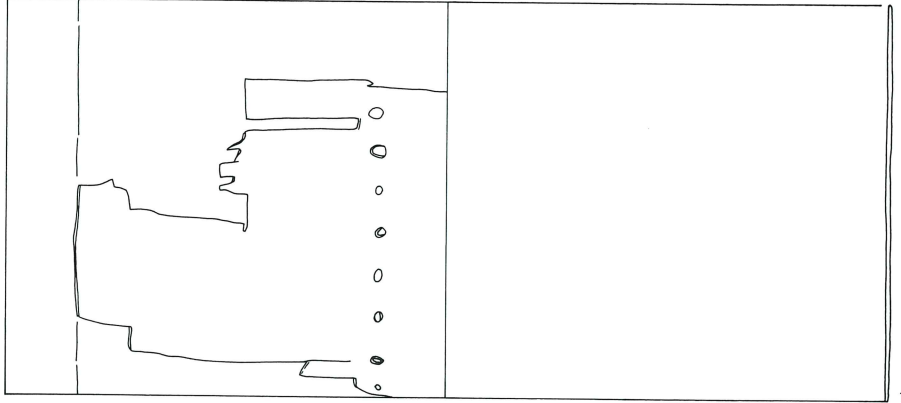
第394号井戸跡 (第237図)

L-28グリッドで検出された。湧水が著しく、底面まで調査することができなかった。

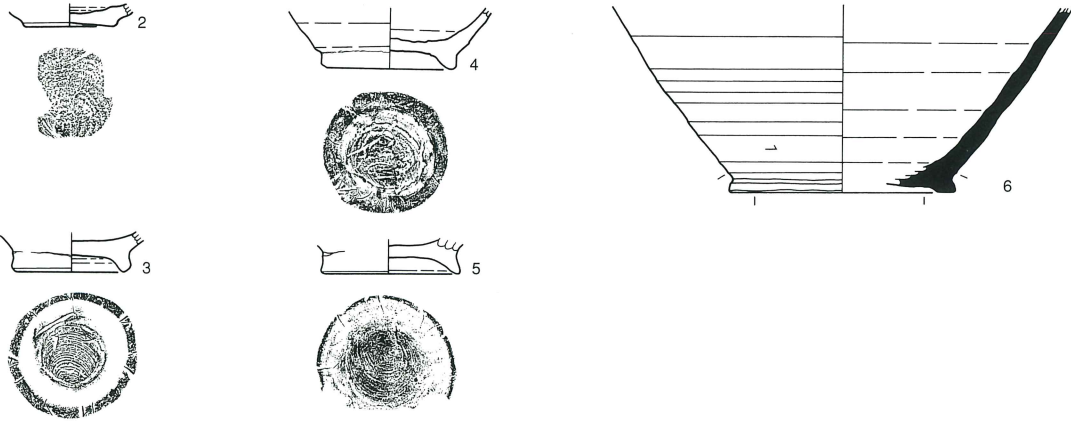
規模は長径147cm、短径141cm、深さが153cm以上であった。平面形態は円形で、断面形は口が大きく広がる筒形であった。

出土遺物は、第236図7~9に示した。7は、口縁部に横ナデを施し、体部内外面に指頭圧痕を残す器高の浅い北武蔵型の土師器坏である。8は、須恵器甕の口縁部片である。9は、一木造りの連歯下駄である。左半分を欠損する。前歯・後歯とも高さ1cmと低い。後歯は台よりやや外側に広がる。

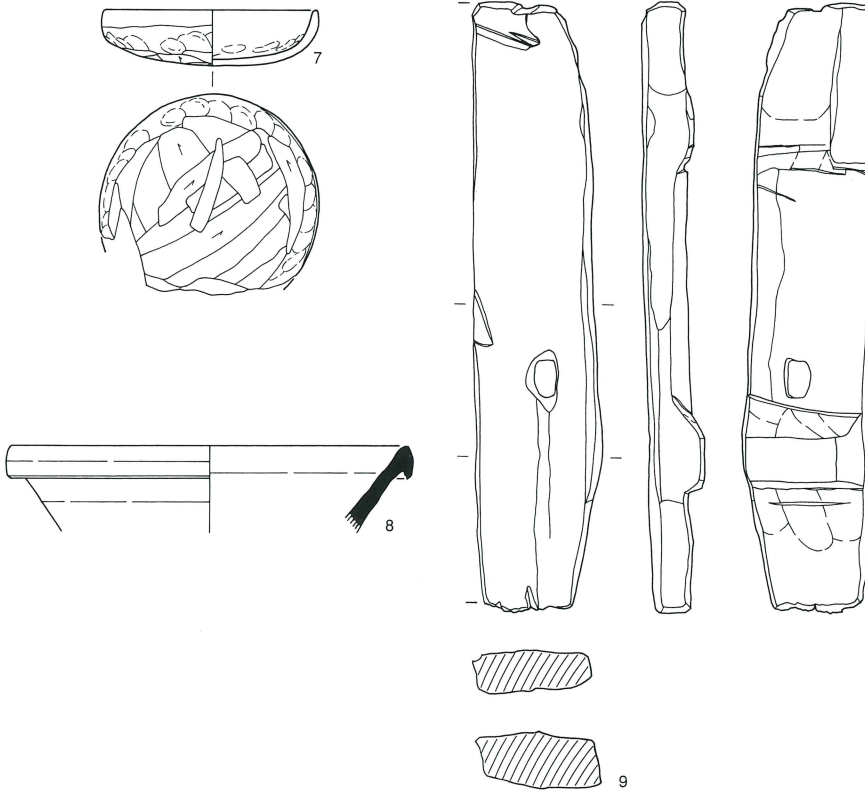
SE 390



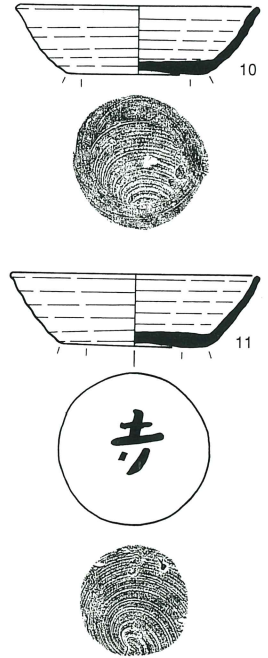
SE 391



SE 394



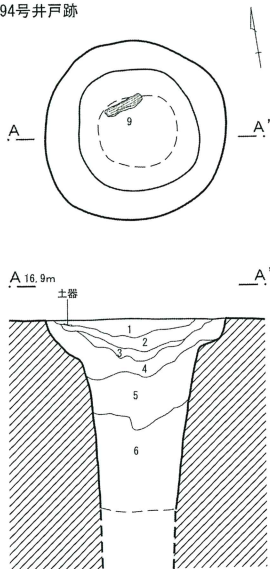
SE 395



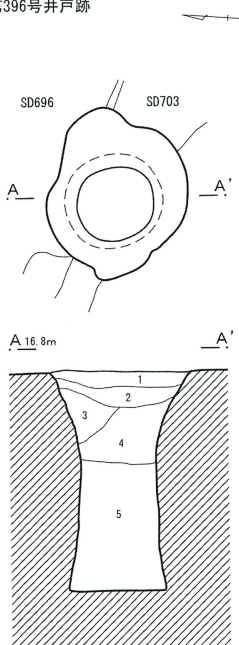
0 10cm 1:4

第236図 井戸跡出土遺物 (1)

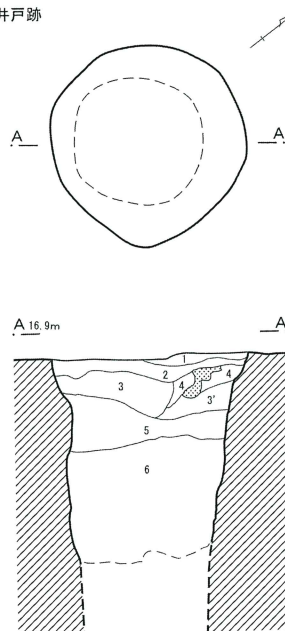
第394号井戸跡



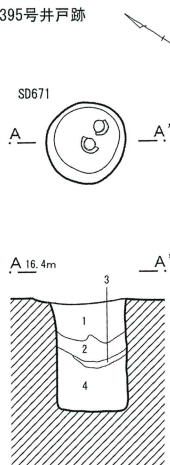
第396号井戸跡



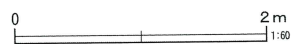
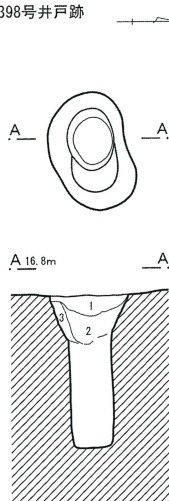
第397号井戸跡



第395号井戸跡



第398号井戸跡



第394号井戸跡

1	黒褐色土	10YR3/2	しまりのある黒褐色土主体 焼土粒子(φ2~5mm)少量 しまりあり 粘性なし
2	褐色土	10YR4/1	炭化物(10mm角)含む 褐色土粒子(φ2mm)多量 しまりあり 粘性なし
3	黒色土	10YR2/1	黒色の灰層 やや粘性のある暗灰色土少量 しまりなし 粘性ややあり
4	褐色土	10YR4/1	褐色土粒子(φ2mm)多量 青灰色の粘質土(ブロック状)少量 しまりあり 粘性ややあり
5	黒褐色土	10YR3/1	褐色土粒子(φ2mm)多量 青灰色の粘質土(ブロック状)少量 暗灰色粘土含む しまりなし 粘性ややあり
6	緑灰色土	5G5/1	緑灰色の粘土主体 きめ細かい砂少量 しまりなし 粘性あり

第395号井戸跡

1	暗灰色土	N3/0	暗灰色の粘土主体 灰色粘土少量 しまりなし 粘性あり
2	暗灰色土	N3/0	暗灰色に変色したロームブロックと思われる土(φ3~4mm)含む しまりなし 粘性あり
3	黒色土	N2/0	植物の茎のような遺存物多量 しまりなし 粘性なし
4	暗青灰色土	5B4/1	青灰色粘土の層 ロームブロック(φ3mm)含む しまりなし 粘性あり

第396号井戸跡

1	黒褐色土	10YR3/1	マンガン・炭化物含む
2	黒色土	10YR2/1	焼土ブロック微量 マンガン・炭化物含む
3	黒色土	10YR2/1	地山ブロック(φ1~5mm)・マンガン・炭化物含む
4	暗灰色土	N3/0	地山ブロック(φ1~10mm)・マンガン・炭化物含む
5	暗灰色土	N3/0	明青灰色粘土含む 地山ブロック少量 しまり弱い 粘性強い

第397号井戸跡

1	灰黄褐色土	10YR6/2	黄灰色粘土ブロック(φ3~5mm)多量 炭化物粒子(φ3~5mm)少量
2	褐色土	10YR5/1	黄灰色粘土ブロック(φ3~5mm)斑 炭化物粒子(φ3~5mm)・焼土ブロック(φ5mm)少量
3	褐色土	10YR5/1	黄灰色粘土ブロック(φ3~5mm)斑 炭化物粒子(φ3~5mm)少量
3'	灰色土	N6/0	黄灰色粘土ブロック(φ5~10mm)多量 3層に黄灰色粘土を多く含む
4	灰色土	N4/0	黄灰色粘土ブロック(φ5~10mm)多量 (埋戻しと思われるが填砂に攪拌されるのか)
5	灰色土	N4/0	暗褐色土をブロック状に含む 炭化物(φ3~5mm)多量
6	褐色土	10YR4/1	淡緑灰色粘土ブロック(φ10mm)・炭化物(φ3~5mm)多量

第398号井戸跡

1	黒褐色土	10YR3/2	酸化鉄多量 炭化物少量
2	黒褐色土	10YR3/1	焼土粒子少量
3	褐色土	10YR4/1	黄褐色土ブロック少量

第237図 井戸跡 (2)

第395号井戸跡（第237図）

K-29・30グリッドにかけて検出された。第671号溝跡と重複していた。

規模は、長径64cm、短径63cm、深さが85cmの小型の井戸跡であった。平面形態は円形で、断面形は筒形をしていた。

出土遺物は、第236図10・11に示した。2点とも底部回転糸切りの南比企産の須恵器坏である。11の底部外面には、「寺」(?)の墨書が見られる。

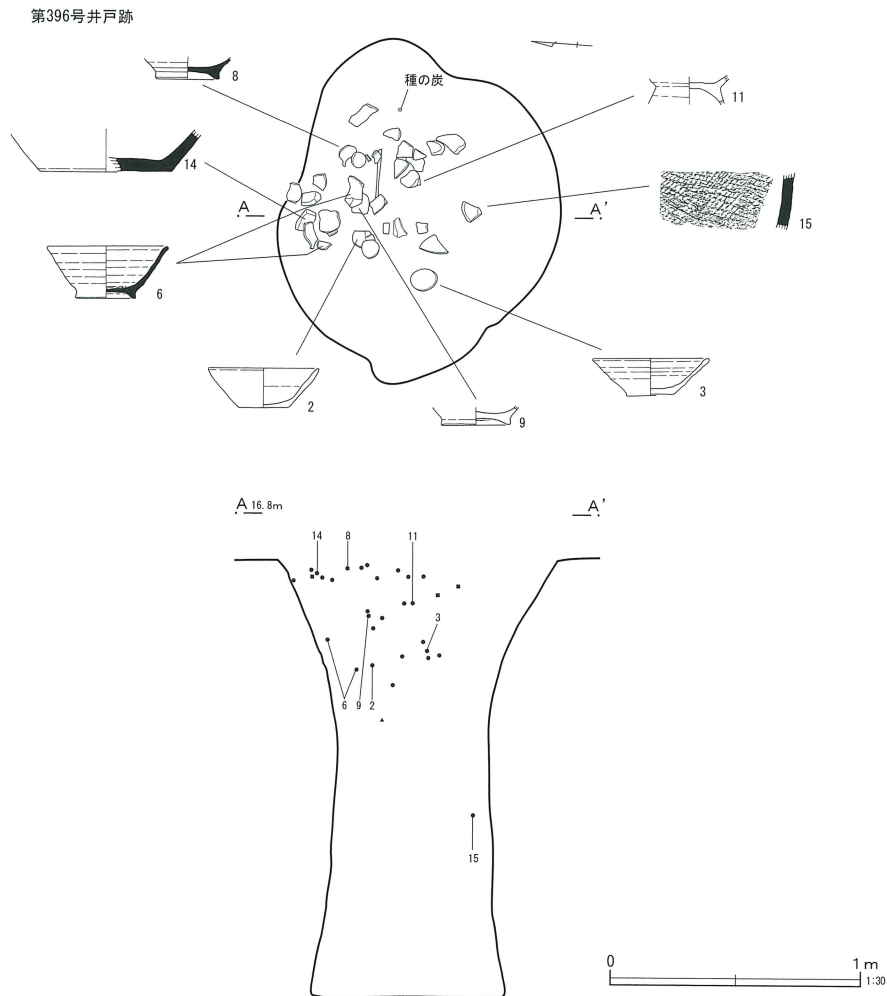
った。平面形態は円形で、断面形は底面が平坦なフラスコ形であった。

遺物は、覆土上層から須恵器などが多量に出土した。出土遺物は、第239図1～16に示した。1は、緑釉陶器の稜皿である。内面には口縁部と底面に陰刻花文が施されている。2～12は、須恵器である。2・5は、底部外面未調整の坏である。3・4は、底部外面糸切離しの坏である。6～12は、高台付埴である。11・12は、高台の長い埴である。13は、土師器の小型甕である。14は、須恵器甕の底部片である。15は、須恵器甕の胴部片で、外面に擬似格子タタキ、内面には青海波文が残る。16は、木製の櫛である。また、上層の土器片とともに種の炭が検出されている。

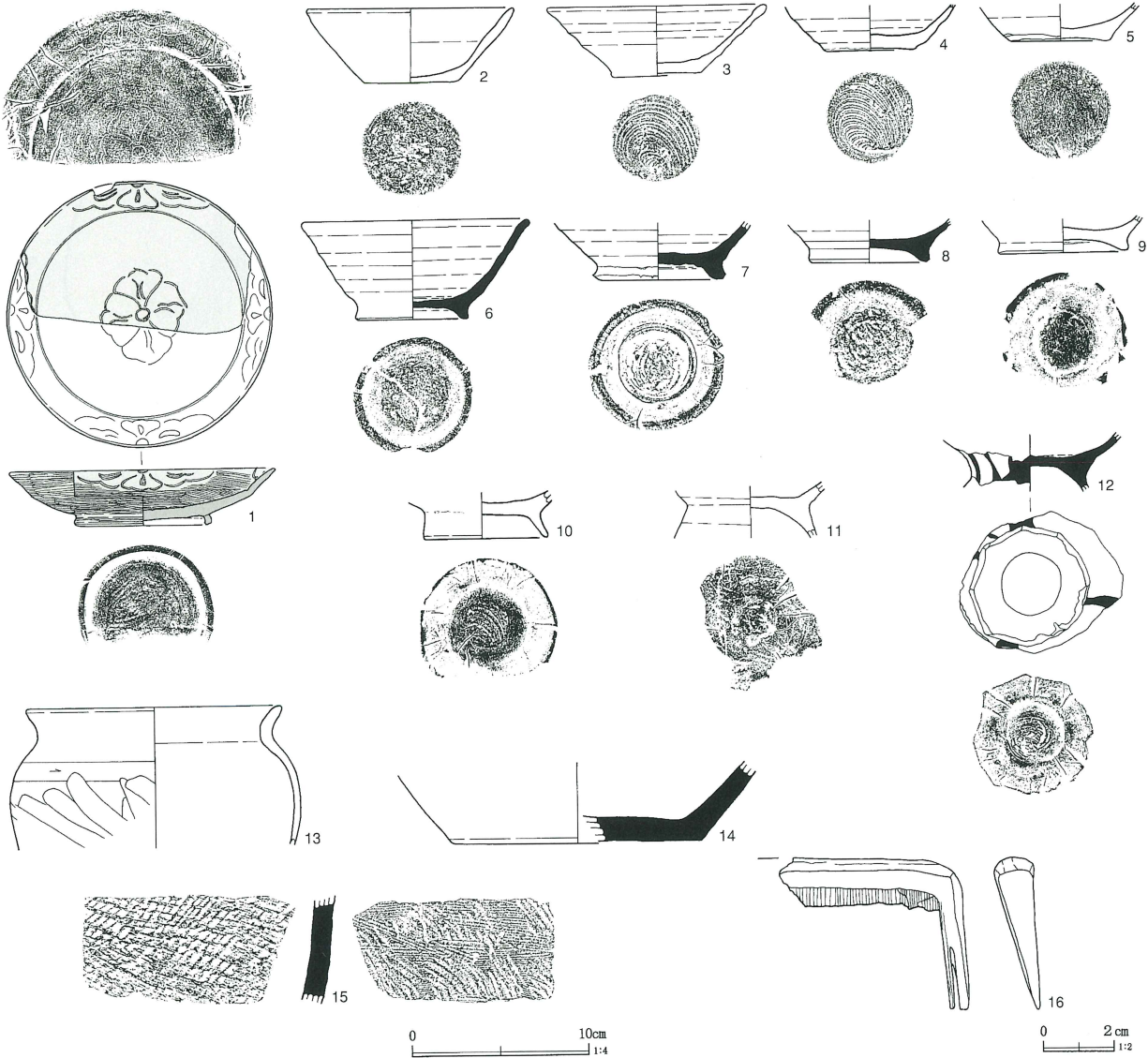
第396号井戸跡（第237・238図）

M-29グリッドで検出された。第696・703号溝跡と重複していた。

規模は、長径135cm、短径110cm、深さが170cmであ



第238図 第396号井戸跡遺物出土状況



第239図 井戸跡出土遺物 (2)

第397号井戸跡 (第237・240図)

M-30グリッドで検出された。湧水が著しく、壁面が崩落する恐れがあったため、底面まで調査することができなかった。第12号方形周溝墓と重複しており、本遺構の方が新しかった。

規模は、長径160cm、短径155cm、深さが160cm以上であった。平面形態は円形で、断面形は筒形をしていた。中位で井戸杵を検出したが、埋没の過程で崩壊しており、残りが良好ではなかった。

出土遺物は、第241図1~10に示した。1は、須恵器の高台付埴である。2は須恵器坏、3は灰釉陶器の埴である。4は、高台の高い須恵器の高台付埴で

ある。5は、口縁部の短い羽釜片である。6は、灰釉陶器の壺である。7は、表面に擦痕が認められる平たい砥石である。8は、須恵器大甕の底部破片である。9・10は、木製杭で、井戸杵の一部である。

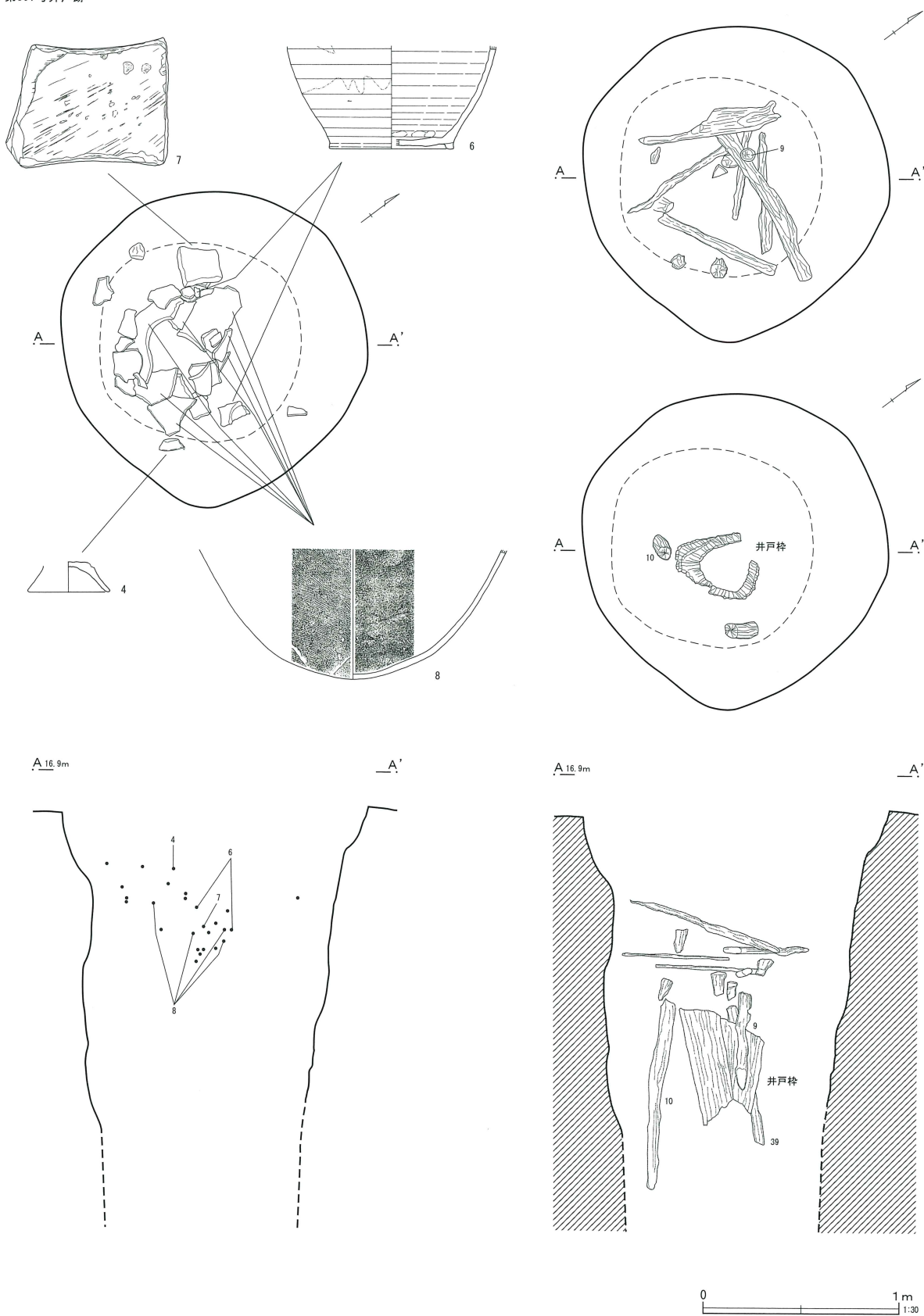
第398号井戸跡 (第237図)

L・M-29・30グリッドにかけて検出された。

規模は、長径95cm、短径61cm、深さが121cmであった。平面形態は円形で、断面形は筒形であった。

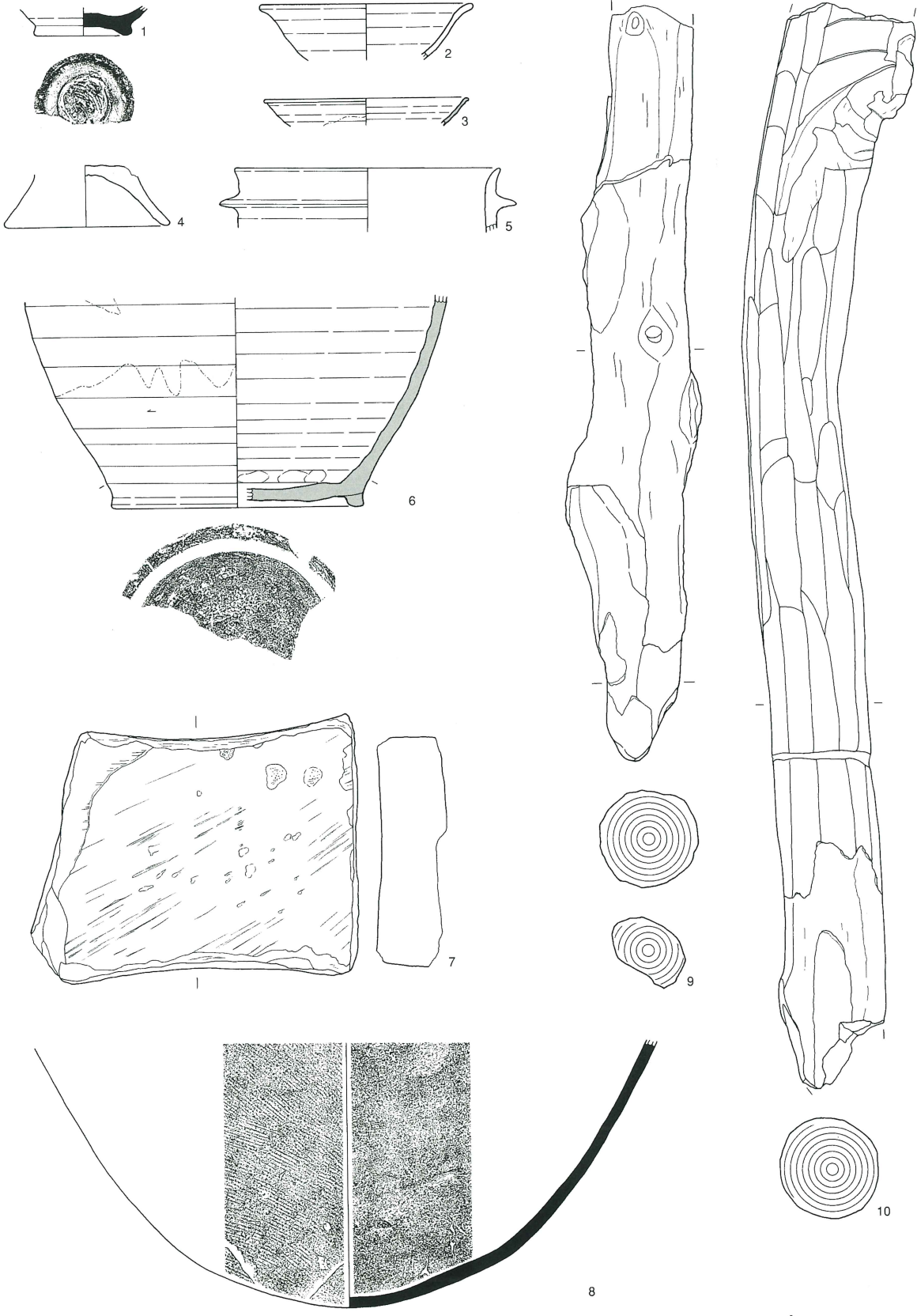
遺物が出土していないため、時期は不明である。

第399号井戸跡 欠番



第240図 第397号井戸跡遺物出土状況

SE 397



0 10cm 1:4

第241図 井戸跡出土遺物 (3)

第400号井戸跡 (第242図)

N-33グリッドで検出された。第332・367号住居跡と重複しており、本遺構の方が新しかった。規模は、長径99cm、短径84cm、深さが113cmであった。平面形態は楕円形で、断面形は南側の一端のみがやや開く筒形をしていた。井戸枠は、検出されなかった。長軸方向は、N-24°-Wであった。

遺物は、平安時代の須恵器片などが少量出土したが、図示できるものがなかった。

第401号井戸跡 (第242図)

O-32グリッドで検出された。規模は、径84cm、深さが159cmであった。平面形態は円形で、断面形は最下部がオーバーハングして大きく膨らむ漏斗形をしていた。井戸枠については、検出されなかった。長軸方向は、N-86°-Wであった。

遺物は、古墳時代後期の土師器片などが少量出土している。

第402号井戸跡 (第242図)

O-33グリッドで検出された。第336号住居跡と重複しており、本井戸跡の方が新しかった。規模は、長径66cm、短径57cm、深さが156cmで、小型の井戸跡であった。平面形態は楕円形で、断面形は南側のみがやや開く筒形をしていた。長軸方向は、N-28°-Wであった。

遺物が出土していないため、詳細な時期は不明であるが、古墳時代後期の住居跡を壊していることから、奈良時代以降と考えられる。

第403号井戸跡 (第242図)

K-32グリッドで検出された。第733号溝跡と重複しており、本遺構の方が古かった。土層断面は、崩落のため記録に残すことができなかった。規模は、長径89cm、短径72cm、深さが134cmであった。平面形態は楕円形で、断面形は底面が平坦なフラスコ形をしていた。井戸枠については、検出されなかった。

長軸方向は、N-88°-Eであった。

出土遺物は、覆土下層から第243図1の北武蔵型の土師器坏が出土している。

第404号井戸跡 (第242図)

M・N-35グリッドにかけて検出された。第377・378・385号住居跡と重複しており、本井戸跡の方が新しかった。規模は、長径206cm、短径177cm、深さが123cmで、大型の井戸跡であった。平面形態は楕円形で、断面形は立ち上がりやや開く舟底形をしていた。井戸枠は検出されなかったため、素掘りの井戸であったと考えられる。長軸方向は、N-34°-Eであった。

出土遺物は、覆土下層から第243図2の土師器の完形の壺が出土している。なお、上層からは灰釉陶器の壺片なども出土した。

第405号井戸跡 (第242図)

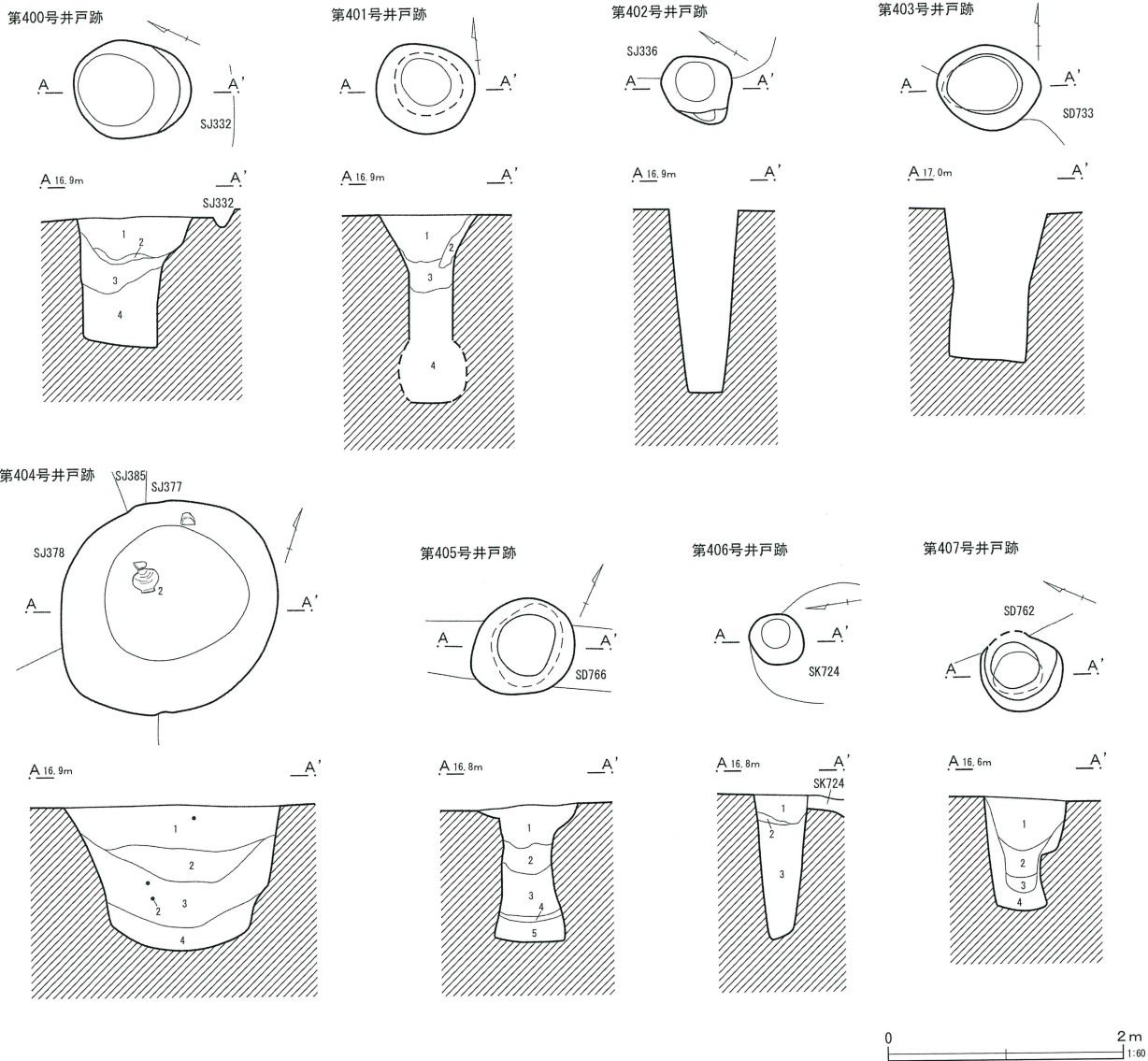
O-34グリッドで検出された。第766号溝跡と重複しており、本井戸跡の方が古かった。規模は、長径95cm、短径81cm、深さが123cmであった。平面形態は楕円形で、断面形は底面が平坦なフラスコ形をしていた。井戸枠については、検出されなかった。長軸方向は、N-34°-Eであった。

出土遺物は、第243図5に示した。図示できた遺物は、底部外面に回転ヘラケズリを施す須恵器坏1点だけであるが、他に土師器片などが少量出土している。

第406号井戸跡 (第242図)

P-34グリッドで検出された。第724号土坑と重複しており、本遺構の方が新しかった。規模は、径48cm、深さが107cmで、小型の井戸跡であった。平面形態は円形で、断面形は筒形をしていた。井戸枠は、検出されなかった。長軸方向は、N-50°-Wであった。

遺物が出土していないため、時期は不明である。



第400号井戸跡

- | | | | |
|---|------|---------|---|
| 1 | 黒色土 | N2/0 | 黄褐色土粒子 (φ1~3mm)・黄褐色土ブロック少量
緑灰色 (5G 5/1) 粘土 (φ1~5mm) を均等に少量
しまり・粘性あり |
| 2 | 黒色土 | N2/0 | 緑灰粘土ブロックが集中的に堆積する層
しまりあり
粘性強い |
| 3 | 青黒色土 | 5B1.7/1 | 緑灰粘土 (φ1~10mm) 均等を含む
しまりあり
粘性強い |
| 4 | 青黒色土 | 5B2/1 | 緑灰粘土 (φ1~10mm) 及び青灰色砂をブロック状を含む
しまりなし 粘性弱い |

第401号井戸跡

- | | | | |
|---|------|---------|---|
| 1 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | 黄褐色土粒子 (φ1~5mm) を均等を含む
しまり・粘性あり |
| 2 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | 黄褐色土 (φ1~10mm) 多量
しまり・粘性あり |
| 3 | 黒褐色土 | 10YR3/2 | 黄褐色土粒子 (φ1~5mm) を均等に多量
しまり良好
粘性あり |
| 4 | 黒色土 | 10YR2/1 | 青灰色粘土ブロック多量
しまり弱い 粘性強い |

第404号井戸跡

- | | | | |
|---|-------|---------|--|
| 1 | 灰黄褐色土 | 10YR4/2 | 鉄分・黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 少量 |
| 2 | 黒色土 | 2.5Y2/1 | 鉄分多量 炭化物粒子 (φ2~5mm) 少量 |
| 3 | 緑灰色土 | 5G5/1 | 緑灰色の砂質土 炭化物粒子 (φ5~10mm) 多量
緑灰色粘土ブロック (φ3~20mm)・鉄分少量 |
| 4 | 暗緑灰色 | 5G4/1 | 緑灰色粘土を主体とする (地山崩落土) |

第405号井戸跡

- | | | | |
|---|-------|---------|--|
| 1 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | 黒っぽい暗灰色のしまりある土 (シルト質土少量) 焼土
ブロック (φ5~10mm) 少量 炭化物 (1.5cm長) 微量
しまりあり 粘性なし |
| 2 | 暗灰色土 | N3/1 | 暗灰色の粘質土主体 暗緑灰色シルト含む
しまり弱い
粘性なし |
| 3 | 暗灰色土 | N3/1 | 暗灰色の粘土 暗緑灰色シルト (φ0.3mm) 少量 焼土
粒子 (φ0.3~1mm) 少量
しまりなし 粘性強い |
| 4 | 植物繊維層 | | 木材片・植物の皮などの堆積 |
| 5 | 暗灰色土 | N3/1 | 暗灰色粘土 (3層よりシルト質っぽい) 暗灰色シルト
含む 淡青灰色シルト (φ1~2mm) 少量
しまりなし
粘性強い |

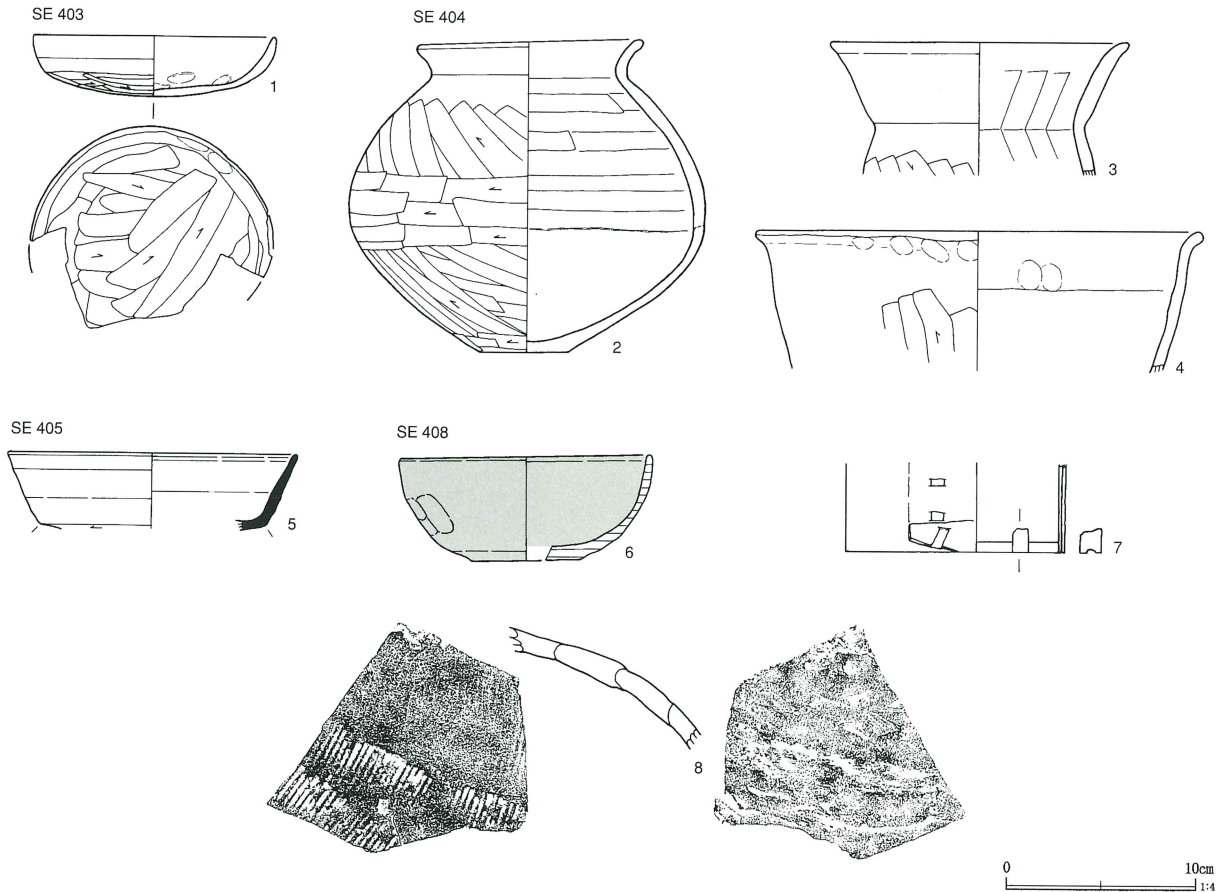
第406号井戸跡

- | | | | |
|---|------|---------|--|
| 1 | 黒色土 | 10YR2/1 | 黒褐色のしまりある土 暗灰色シルト少量 黄褐色土粒
子 (φ2mm) 斑を含む 焼土ブロック (φ5mm) 微量
しまりあり 粘性やあり |
| 2 | 黒色土 | 10YR2/1 | 1層と同様だが青灰色土ブロック (φ10~20mm) 多量
しまりあり 粘性やあり |
| 3 | 暗灰色土 | N3/0 | 暗灰色粘土主体 暗灰色シルト少量
しまりなし
粘性強い |

第407号井戸跡

- | | | | |
|---|-------|---------|--------------------------|
| 1 | 黒色土 | 10YR2/1 | 白色土微粒子 (φ1~2mm) 微量 土器片含む |
| 2 | 黒色土 | 10YR2/1 | 灰褐色土ブロック (φ10~20mm) 少量 |
| 3 | 黒色土 | 10YR2/1 | 黒色土ブロック (φ10~20mm) 少量 |
| 4 | 暗緑灰色土 | 5G3/1 | 含有物を含まない |

第242図 井戸跡 (3)



第243図 井戸跡出土遺物 (4)

第407号井戸跡 (第242図)

N-36グリッドの谷部への落ち際で検出された。第762号溝跡と重複しており、本井戸跡の方が新しかった。

規模は、長径71cm、短径65cm、深さが96cmであった。平面形態は円形で、西側はテラス状の平場を設けていた。井戸枠については、検出されなかった。長軸方向は、N-40°-Wであった。

遺物は、平安時代の須恵器片が少量出土しているが、図示できるものがなかった。

第408号井戸跡 (第244図)

K・L-36グリッドにかけて検出された。調査前に設けた排水溝の際で検出されたため、湧水が著しく、壁面の崩落の恐れがあったため、底面まで調査をすることはできなかった。

規模は、長径114cm、短径108cm、深さが167cm以上

であった。平面形態は楕円形で、断面形は筒形をしていた。長軸方向は、N-81°-Eであった。

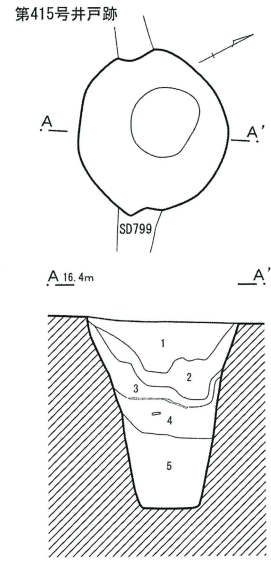
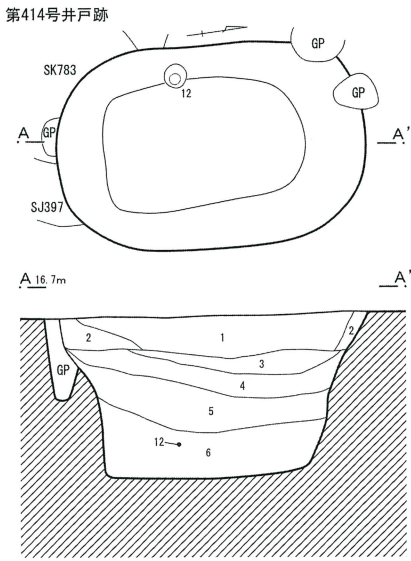
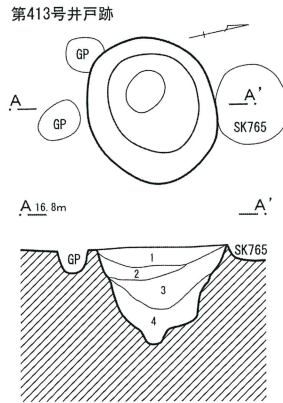
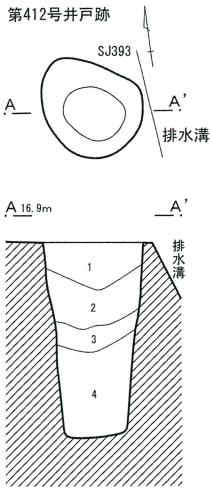
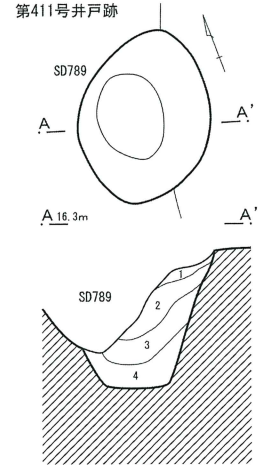
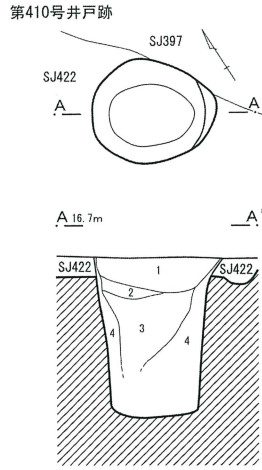
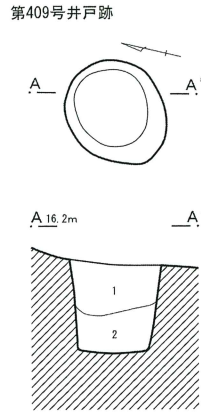
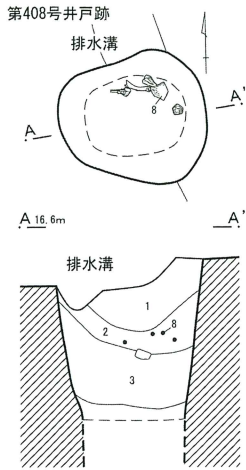
出土遺物は、第243図6~8に示した。覆土2層中からは、8の渥美甕の肩部片と共に馬の右上顎骨とほぼ完存の左下顎骨が出土している。下層からは、6の内外面に黒漆を施すケヤキ製椀が出土した。7は、曲物柄杓である。底部に木栓が残る。側板は樹皮紐1列で綴じる。

第409号井戸跡 (第244図)

L-37グリッドの谷部への落ち際で検出された。

規模は、長径89cm、短径75cm、深さが74cmであった。平面形態は楕円形で、断面形は筒形をしていた。井戸枠については、検出されなかった。長軸方向は、N-45°-Eであった。

遺物が全く出土しなかったため、本遺構の時期は不明である。



第408号井戸跡

- | | | |
|-------------|--------|------------------------|
| 1 オリーブ黒色粘質土 | 5Y3/1 | 緑灰色粘土ブロック (φ3~30mm) 少量 |
| 2 黒色シルト | 5Y2/1 | 有機物 (馬の骨・自然木片) 少量 |
| 3 黒色シルト | 10Y2/1 | 緑灰色粘土ブロック (φ3~5mm) 少量 |
| 4 黒色シルト | N2/0 | 含有物を含まない |

第409号井戸跡

- | | | |
|---------|---------|--|
| 1 黒褐色土 | 10YR3/1 | 暗緑灰土ブロック (φ10~50mm) 少量
非常にやわらかい しまりなし |
| 2 暗緑灰色土 | 5G4/1 | 緑灰色土ブロック (φ10~50mm) 多量
黒褐色土ブロック (φ10~50mm) 少量
非常にやわらかい しまりなし |

第410号井戸跡

- | | | |
|---------|---------|------------------------------------|
| 1 灰黄褐色土 | 10YR6/2 | 焼土粒子 (φ2~5mm)・炭化物ブロック (φ2~10mm) 少量 |
| 2 黒褐色土 | 10YR3/1 | 焼土粒子 (φ2~5mm)・炭化物ブロック (φ2~10mm) 少量 |
| 3 黒色土 | 10YR2/1 | 緑灰色土ブロック (φ2~5mm) 少量 |
| 4 灰黄褐色土 | 10YR6/2 | 黄褐色土ブロック (緑灰色土ブロック) (φ2~10mm) 多量 |

第411号井戸跡

- | | | |
|--------------|-----------|---|
| 1 黒色粘質土 | 2. 5Y2/1 | 緑灰色土粒子 (φ1~2mm)・炭化物粒子 (φ2~3mm) 少量 |
| 2 暗オリーブ灰色粘質土 | 5GY4/1 | 緑灰色粘土ブロック (φ3~5mm)・黒色土多量 |
| 3 オリーブ黒色粘質土 | 5Y3/1 | 緑灰色粘土ブロック (φ3~10mm) 多量
炭化物粒子 (φ2~3mm) 少量 |
| 4 緑灰色シルト | 7. 5GY5/1 | 緑灰色シルトを主体 黒色土ブロック少量 |

第412号井戸跡

- | | | |
|--------|----------|--|
| 1 暗褐色土 | 10YR3/3 | 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~10mm)・炭化物粒子 (φ2~3mm)・焼土粒子 (φ2~3mm) 少量 |
| 2 黒褐色土 | 2. 5Y3/1 | 黄褐色土ブロック (φ3~20mm) 多量
炭化物粒子 (φ2~3mm) 少量 |

第413号井戸跡

- | | | |
|-----------|---------|-----------------------|
| 1 にぶい黄褐色土 | 10YR7/4 | 黄褐色土ブロック (φ2~10mm) 多量 |
| 2 灰黄褐色土 | 10YR5/2 | 黄褐色土ブロック (φ2~10mm) 少量 |
| 3 にぶい黄褐色土 | 10YR7/4 | 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) 多量 |
| 4 褐色土 | 10YR4/1 | 緑灰色土ブロック (φ2~10mm) 多量 |

第414号井戸跡

- | | | |
|-------------|----------|--|
| 1 黒褐色土 | 10YR3/2 | 鉄分多量 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~10mm)・炭化物粒子 (φ2~5mm) 少量 焼土ブロック (φ3~5mm) 微量
黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量 鉄分・炭化物粒子 (φ2~3mm) 少量 |
| 2 暗黒褐色土 | 10YR3/3 | 炭化物粒子 (φ2~3mm) 少量 |
| 3 黒褐色粘質土 | 5Y2/1 | 鉄分多量 緑灰色土ブロック (φ3~5mm)・炭化物粒子 (φ2~3mm) 少量 |
| 4 オリーブ黒色粘質土 | 10Y3/1 | 緑灰色土ブロック (φ3~20mm) 多量 鉄分・炭化物粒子 (φ2~3mm) 少量 |
| 5 黒色シルト | 5Y2/1 | 緑灰色土粒子 (φ1~2mm)・緑灰色土ブロック (φ3~10mm)・炭化物粒子 (φ2~3mm) 少量 |
| 6 黒色粘質土 | 7. 5Y2/1 | 緑灰色土ブロック (φ3~20mm) 少量 炭化物粒子 (φ2~3mm) 微量 |

第415号井戸跡

- | | | |
|--------|------------|--|
| 1 暗褐色土 | 7. 5YR3/3 | 黄褐色土ブロック少量 土器片を多量 |
| 2 暗褐色土 | 7. 5YR3/3 | 緑灰色土ブロック多量 黄褐色土ブロック (φ5mm) 微量 |
| 3 黒褐色土 | 10YR1. 7/1 | サラサラした炭の細粒の層 しまりなし
井戸が半分埋まった時点で全体を覆っている灰色のカワラケ?出土 |
| 4 黒褐色土 | 10YR2/2 | 黄褐色土ブロック (φ5mm) 少量 粘性強い |
| 5 黒色土 | 10YR2/1 | 4層と同じだが粘性がより高い |

第244図 井戸跡 (4)

第410号井戸跡 (第244図)

Q-44グリッドで検出された。第397・422号住居跡と重複しており、本遺構の方が新しかった。

規模は、長径99cm、短径83cm、深さが129cmであった。平面形態は楕円形で、断面形は筒形をしていた。井戸枠は、検出されなかった。長軸方向は、N-57°-Wであった。

遺物は、古墳時代後期の土師器片が少量出土しているが、本遺構と重複していた住居跡からの混入品と考えられる。時期は、覆土の状況から中世と考えられる。

第411号井戸跡 (第244図)

Q-44グリッドで検出された。第789号溝跡と重複しており、本遺構の方が古かった。

規模は、長径141cm、短径105cm、深さが110cmであった。平面形態は南北に長い楕円形で、断面形は上方がやや開く筒形をしていた。井戸枠については、検出されなかった。長軸方向は、N-31°-Eであった。

遺物は、古墳時代後期の土師器坏、須恵器蓋片などが少量出土しているが、本遺構に伴う遺物ではなく、覆土の様相から時期は中世と考えられる。

第412号井戸跡 (第244図)

Q-43グリッドで検出され、古墳時代後期の第393号住居跡の覆土を掘り込んで構築されていた。

規模は、長径87cm、短径74cm、深さが155cmであった。平面形態は楕円形で、断面形は筒形をしていた。井戸枠については、検出されなかった。長軸方向は、N-42°-Wであった。

本井戸跡に伴う遺物が出土しなかったため、時期は不明である。

第413号井戸跡 (第244図)

Q-44グリッドで検出された。第765号土坑と重複しており、本遺構の方が新しかった。規模は、長径

117cm、短径102cm、深さが78cmであった。平面形態は楕円形で、断面形は漏斗形をしていた。井戸枠は、検出されなかった。長軸方向は、N-89°-Wであった。

出土遺物が少量で、本遺構の時期を特定するには至らなかった。

第414号井戸跡 (第244図)

Q-44グリッドで検出された。第397号住居跡、第783号土坑と重複しており、何れの遺構よりも新しかった。

規模は、長軸248cm、短軸162cm、深さが132cmであった。平面形態は南北に長い隅丸長方形で、断面形は上方が開き気味の箱形をしていた。井戸枠については、検出されなかった。長軸方向は、N-0°であった。

出土遺物は、第245図1~13に示した。覆土下層からは、12の完形の漆塗木製椀が出土した。内外面ともに黒漆が施される。体部外面にはケズリ痕が認められる。1・2は、かわらけの皿である。底面に回転糸切り離し痕が残り、底部は厚手である。3は、青磁鉢の口縁部片である。4・5は、常滑甕の口縁部片である。9・10は、在地産の片口鉢口縁部片である。11は、古瀬戸の梅瓶の肩部・底部片で、肩部外面には木葉文が施文されている。13は、平瓦の破片である。

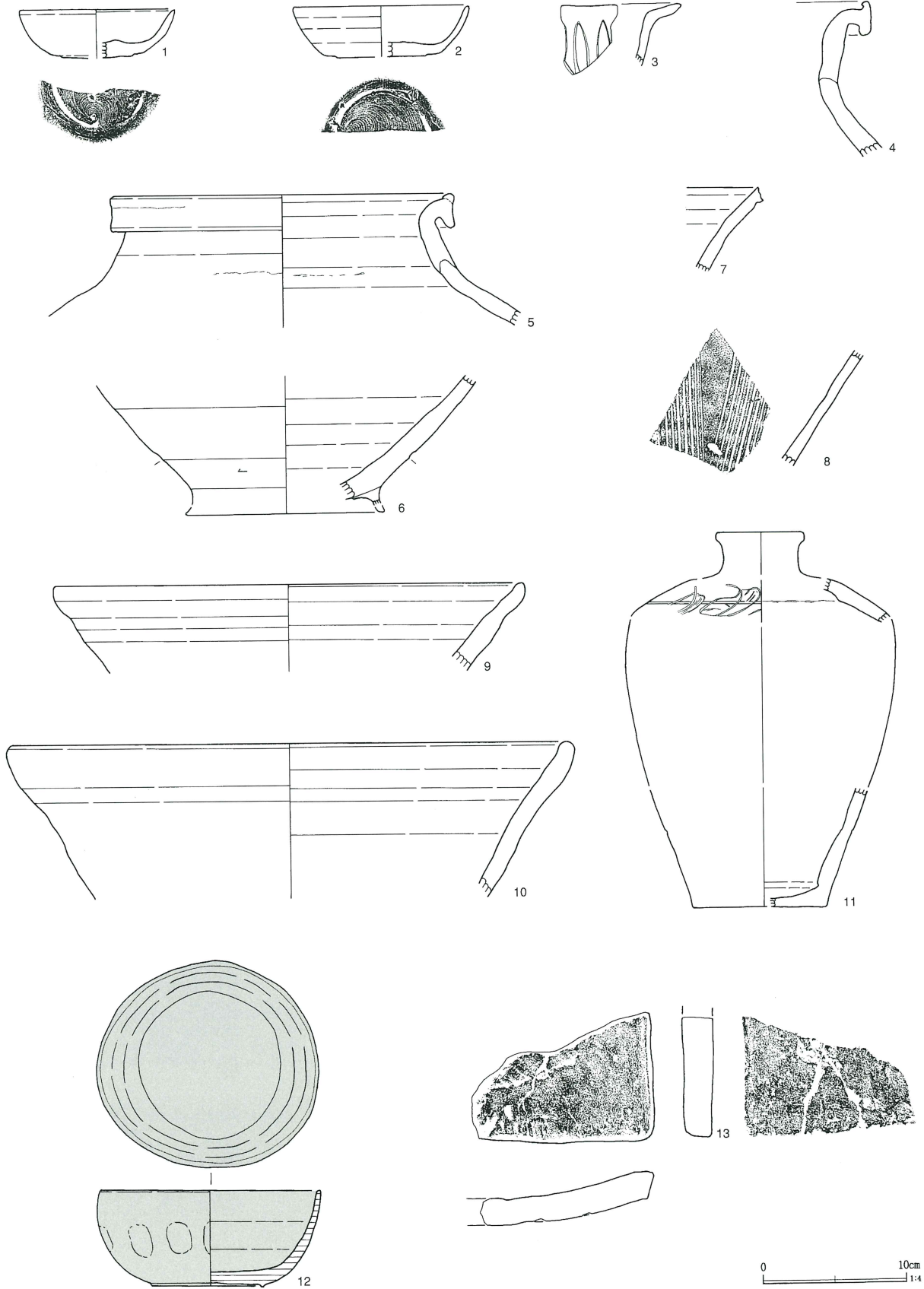
第415号井戸跡 (第244図)

P-45グリッドで検出された。第799号溝跡と重複しており、本遺構の方が新しかった。

規模は、長径126cm、短径122cm、深さが153cmであった。平面形態は円形で、断面形は筒形をしていた。覆土の中層では、炭化材を含むしまりのない炭層が薄く堆積していた。井戸枠は、検出されなかった。長軸方向は、N-84°-Wであった。

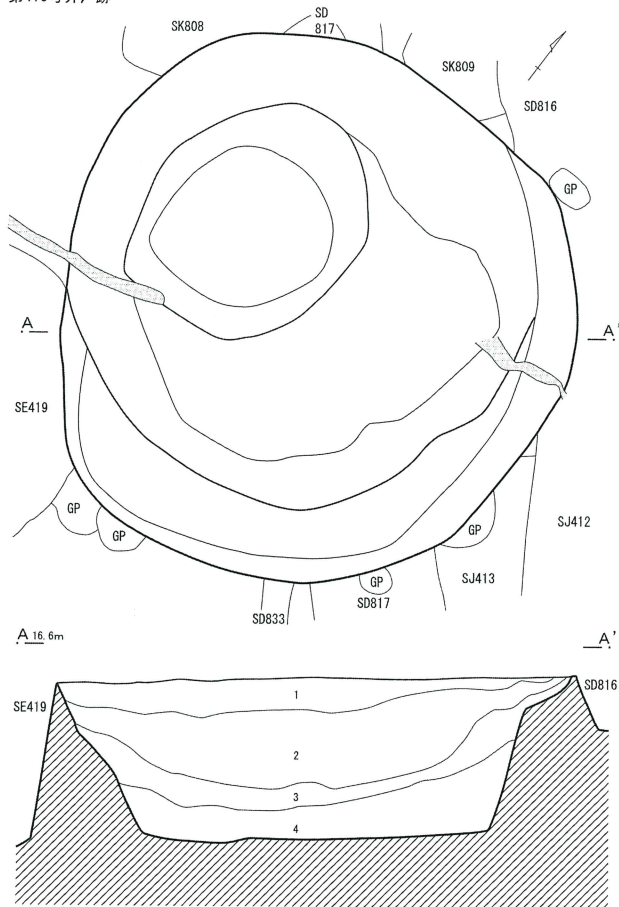
遺物は、中世の陶器片などが少量出土したが、図示できるものはなかった。

SE 414

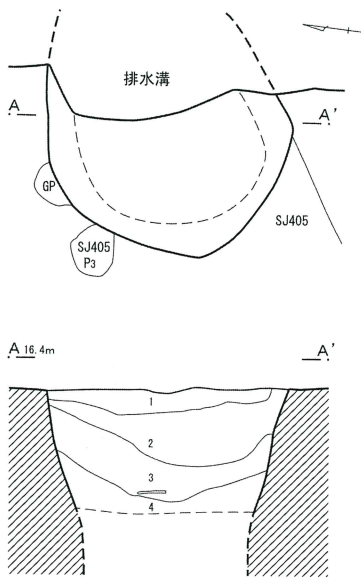


第245図 井戸跡出土遺物 (5)

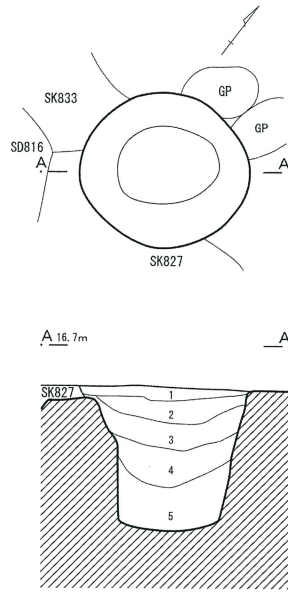
第416号井戸跡



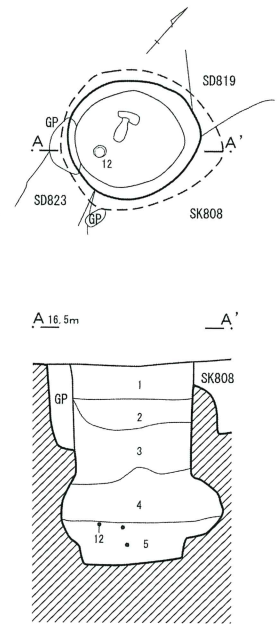
第420号井戸跡



第417号井戸跡



第418号井戸跡



第416号井戸跡

1	にぶい黄褐色土	10YR5/4	緑灰色土ブロック少量 古銭出土 粘性あり
2	オリーブ灰土	10Y4/2	1~2cm長の炭化物・緑灰色土ブロック多量 遺物はこの層に多い 2・3層の境に密度の 薄い炭層が部分的にみられる 粘性強い
3	灰色土	7.5Y4/4	緑灰色土ブロック少量 粘性強い
4	オリーブ黒色土	7.5Y3/1	緑灰色土ブロック微量

第417号井戸跡

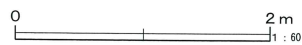
1	暗褐色土	10YR3/3	黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・炭化物粒子 (φ 2~3mm)・焼土粒子 (φ1~2mm) 微量
2	黒色土	10YR2/1	黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 少量 炭化物粒子 (φ1~3mm) 微量
3	黒色土	5Y2/1	緑灰色土ブロック (φ3~20mm) 多量 炭化物 粒子 (φ1~3mm) 微量
4	黒色粘質土	7.5Y2/1	緑灰色土ブロック (φ3~20mm) 少量
5	オリーブ黒色シルト	10Y3/1	緑灰色土ブロック (φ3~30mm) 多量

第418号井戸跡

1	暗オリーブ色土	7.5Y3/4	黄褐色土ブロック (φ10mm) 多量 黒色土ブ ロック (φ10~20mm) 多量 緑灰色土ブロック (φ5~10mm) 少量
2	オリーブ黒色土	7.5Y3/1	緑灰色土ブロック (φ20~30mm) 多量 焼土 粒子・炭化物粒子・黄褐色土ブロック (φ10 mm) 少量
3	オリーブ黒色土	7.5Y3/1	緑灰色土ブロック (φ30~50mm) 多量 炭化物 (最大10mm) 含む
4	オリーブ黒色土	7.5Y3/2	ほとんど混入物なし
5	オリーブ黒色土	7.5Y3/2	木片・蕈状植物・葉など含む 4層より粘性 強い

第420号井戸跡

1	暗褐色土	10YR3/3	黄褐色土ブロック (φ3~10mm)・緑灰色土 ブロック (φ3~10mm) 多量
2	黒色土	7.5Y2/1	緑灰色土ブロック (φ3~30mm) 多量
3	オリーブ黒色粘質土	10Y3/1	緑灰色土ブロック (φ3~10mm)・炭化物粒子 (φ2~5mm) 少量
4	緑灰色シルト	7.5GY6/1	地山崩落土を主体 黒色シルトブロック (φ 3~10mm) 少量



第246図 井戸跡 (5)

第416号井戸跡 (第246図)

Q-45・46グリッドにかけて検出された。第412・413号住居跡、第419号井戸跡、第808・809号土坑、第816・817・833号溝跡と重複しており、新旧関係は切り合う全ての遺構より本井戸跡の方が新しかった。

規模は、長径438cm、短径414cm、深さが134cmであった。規模が大型にしては、深さが浅いもので、井戸として機能していたかは疑わしい点がある。平面形態は円形で、断面形は箱形をしていた。2層中には炭化物や遺物を多量に含み、最下層には薄い炭層が認められた。井戸枠は、検出されなかった。長軸方向は、N-52°-Wであった。

遺物は、中世の陶磁器、青磁片などが多量に出土している。第247図1・2は青磁の皿である。4～6は、常滑の甕口縁部片である。6の外表面と内面上位に自然釉が付着している。7は、在地産の片口鉢で、外表面には指頭圧痕が認められる。8は、現存長11cm

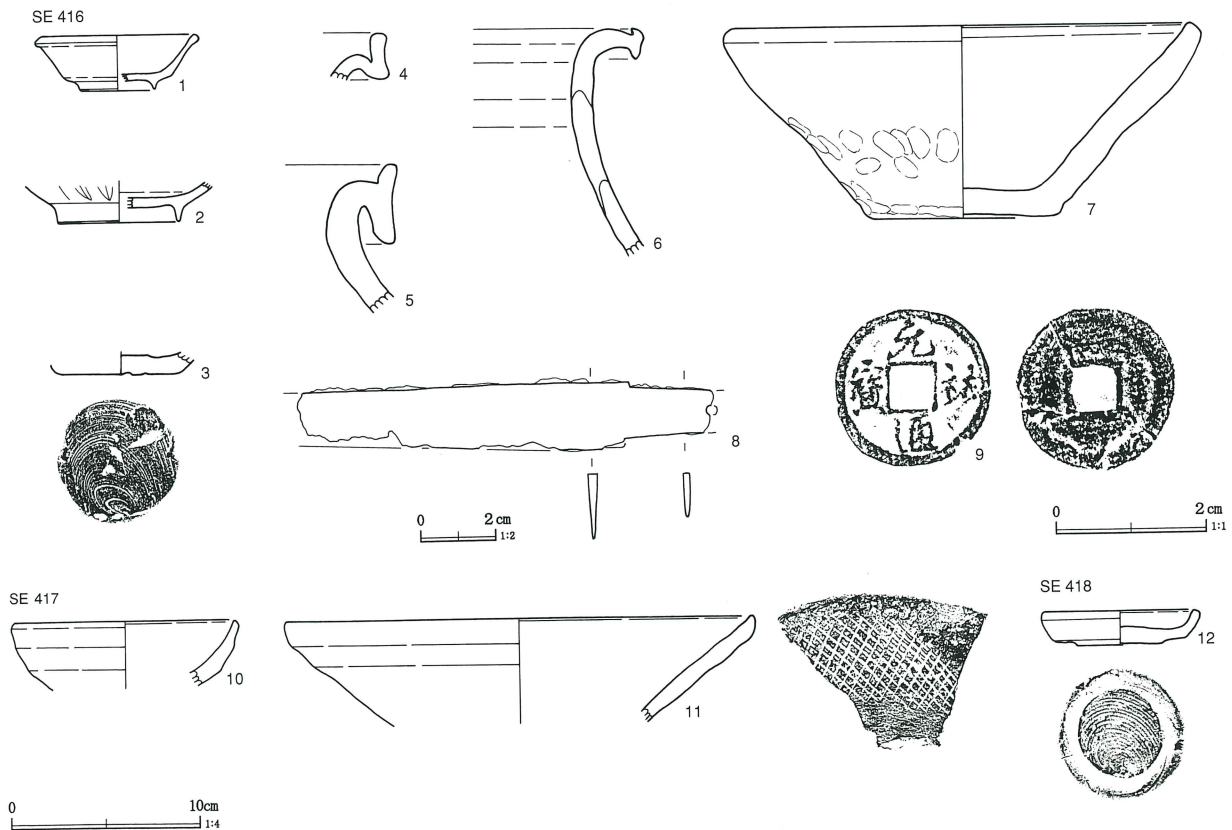
の短刀片である。9は、1層から出土した銭貨で、元祐通寶である。北宋銭で、初鑄は1086年である。これらの出土遺物から、本井戸跡の時期は中世と考えられる。

第417号井戸跡 (第246図)

Q・R-46グリッドにかけて検出された。第827・833号土坑と重複しており、本遺構の方が新しかった。

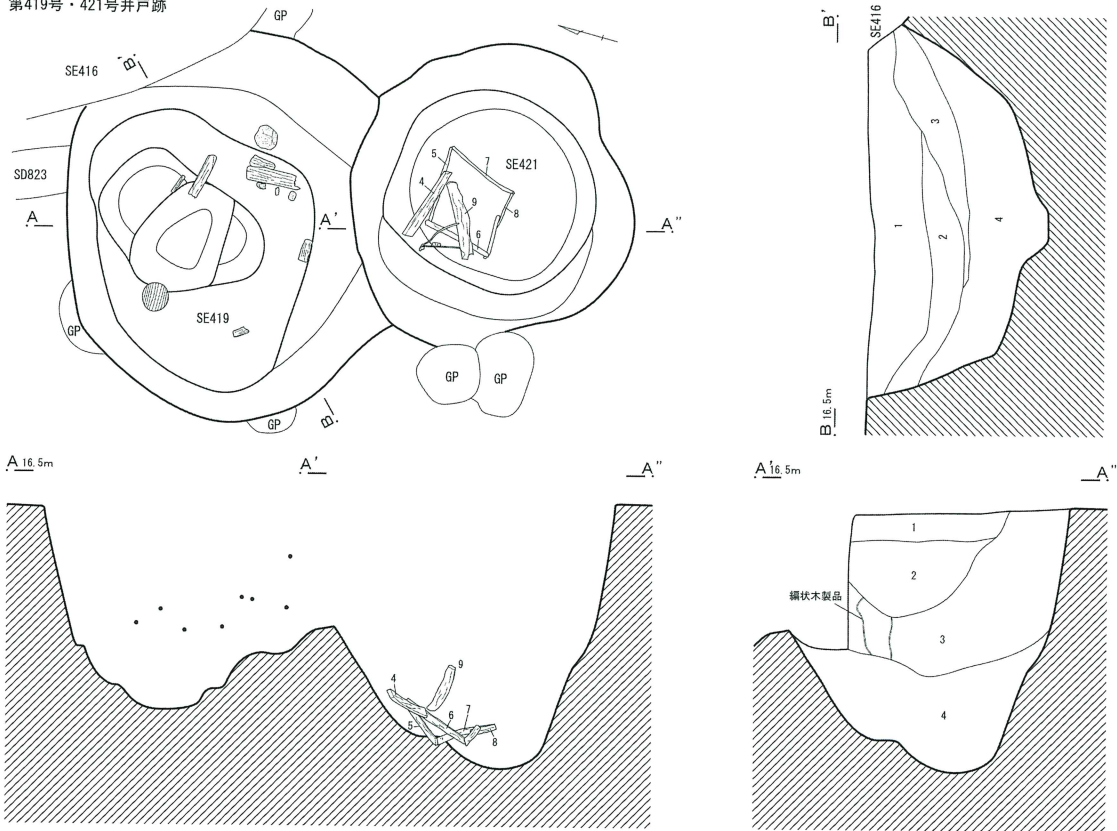
規模は、長径137cm、短径123cm、深さが117cmであった。平面形態はほぼ円形で、断面形は西側の立ち上がりだけが僅かに開く筒形をしていた。井戸枠は、検出されなかった。長軸方向は、N-53°-Eであった。

出土遺物は、第247図10・11に示した。10は、かわらけの皿である。11は、在地産の浅い片口鉢で、内面に格子目状の卸目が施されている。他にも中世陶器片が少量出土している。

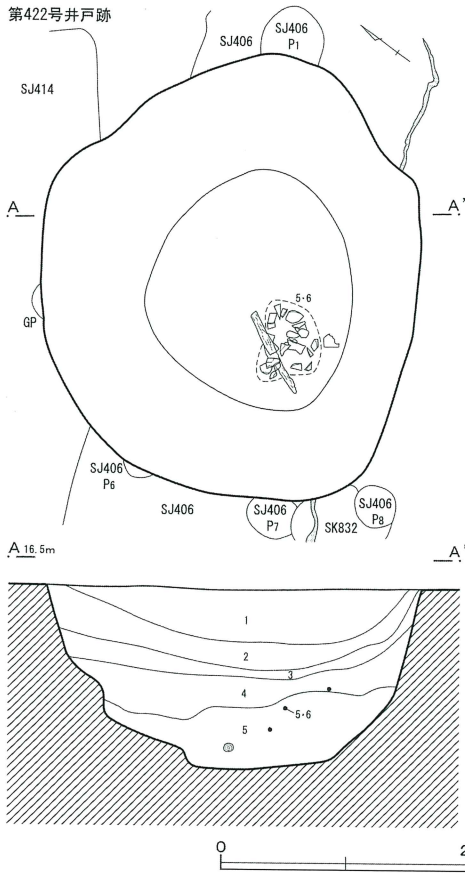


第247図 井戸跡出土遺物 (6)

第419号・421号井戸跡



第422号井戸跡



第419号井戸跡

- | | |
|-------------|---|
| 1 黒褐色土 | 2. 5Y3/1 黄褐色土ブロック・緑灰色土ブロック (φ3~50mm) 多量 鉄分・炭化物粒子 (φ2~10mm) 少量 |
| 2 オリーブ黒色粘質土 | 10Y3/1 緑灰色土粒子 (φ1~2mm)・緑灰色土ブロック (φ3~10mm)・炭化物粒子 (φ2~5mm) 多量 |
| 3 緑灰色シルト | 7. 5GY6/1 地山の緑灰色シルトを主体とする層 (地山崩落土) |
| 4 黒色シルト | 7. 5Y2/1 緑灰色土ブロック (φ3~10mm)・炭化物粒子 (φ2~5mm) 少量 |

第421号井戸跡

- | | |
|-----------|--|
| 1 灰黄褐色土 | 10YR4/2 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~20mm) 多量 炭化物粒子 (φ2~3mm) 少量 |
| 2 オリーブ黒色土 | 10Y3/1 緑灰色土ブロック (φ3~20mm) 多量 炭化物粒子 (φ2~3mm) 少量 |
| 3 黒色粘質土 | 10Y2/1 黄褐色土ブロック・緑灰色土ブロック主体 炭化物粒子 (φ2~5mm) 少量 白色土粒子 (φ1~2mm) 微量 (地山崩落土) |
| 4 オリーブ黒色土 | 10Y3/2 ほぼ全体が地山崩落土 混入土はない |

第422号井戸跡

- | | |
|-------------|---|
| 1 黒褐色土 | 2. 5Y3/1 鉄分多量 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・炭化物粒子 (φ1~2mm) 微量 |
| 2 オリーブ黒色土 | 5Y3/1 緑灰色土粒子 (φ1~2mm)・炭化物粒子 (φ1~3mm) 微量 |
| 3 オリーブ黒色土 | 7. 5Y3/1 緑灰色土ブロック (φ3~5mm)・炭化物粒子 (φ2~3mm) 少量 |
| 4 オリーブ黒色粘質土 | 7. 5Y3/1 緑灰色土ブロック (φ3~20mm)・白色土粒子 (φ1~2mm) 多量 炭化物粒子 (φ2~3mm)・焼土ブロック (φ2~3mm) 少量 |
| 5 黒色粘質土 | 7. 5Y2/1 緑灰色土粒子 (φ1~2mm)・緑灰色土ブロック (φ3~10mm) 多量 炭化物粒子 (φ2~3mm)・白色土粒子 (φ1~2mm) 少量 |

第248図 井戸跡 (6)

第418号井戸跡 (第246図)

Q-45グリッドで検出された。第808号土坑、第819・823号溝跡と重複しており、本遺構の方が新しかった。

確認面での規模は、長径105cm、短径95cm、深さが162cmであった。平面形態は円形で、断面形は筒形をしていた。底面から高さ20cmの範囲では、大きくオーバーハングしており、長径で24cm、短径で15cm外に張り出していた。井戸枠については、検出されなかった。長軸方向は、N-50° - Eであった。

遺物は、第247図12の回転糸切り離しの底部をもつ完形のかわらけの小皿が覆土下層の5層中から出土している。

第419号井戸跡 (第248図)

P-46、Q-45・46グリッドにかけて検出された。第416・421号井戸跡、第823号溝跡と重複していた。新旧関係は、第416号井戸跡より古く、第823号溝跡より新しいが、隣接する第421号井戸跡との切り合いは不明である。

規模は、長径311cm、短径300cm、深さが159cmであった。平面形態は円形で、断面形は舟底形をしていた。井戸枠は検出されなかったが、曲物の底板や板材が出土していることから、井戸枠が設けられていた可能性が高い。長軸方向は、N-79° - Eであった。

出土遺物は、第249図1～7に示した。1は、かわらけの皿である。底面の調整は、摩滅のため不明瞭である。口縁部外面の端部に浅い沈線が巡る。2は、山茶碗の片口鉢底部片で、高台部は欠損している。3は、在地産の鉢である。4は、ヒノキ製指物容器の側板である。内面の左右両端に圧痕、上面・下面に木釘孔がある。容器は方形で、内傾しており、上面・下面にも板があったと考えられる。5は、完形の曲物底板である。6・7は、覆土の中層から出土した加工痕が残る板材で、井戸枠の一部であった可能性が考えられる。

第420号井戸跡 (第246図)

R-47グリッドで検出された。第405号住居跡と重複しており、本遺構の方が新しかった。調査区の排水溝脇で検出されたため、湧水が著しく、壁面の崩落する恐れがあったため、底面までは調査することができなかった。

規模は、長径197cm、短径116cm以上、深さが100cm以上であった。平面形態は円形で、断面形は上方がやや開く筒形をしていた。井戸枠は検出されなかったが、曲物の破片が出土していることから、底部に曲物を据えていた可能性が考えられる。長軸方向は、N-15° - Wであった。

遺物は、第250図1の曲物の底板などが少量出土している。詳細な時期は不明であるが、覆土の状況から中世と考えられる。

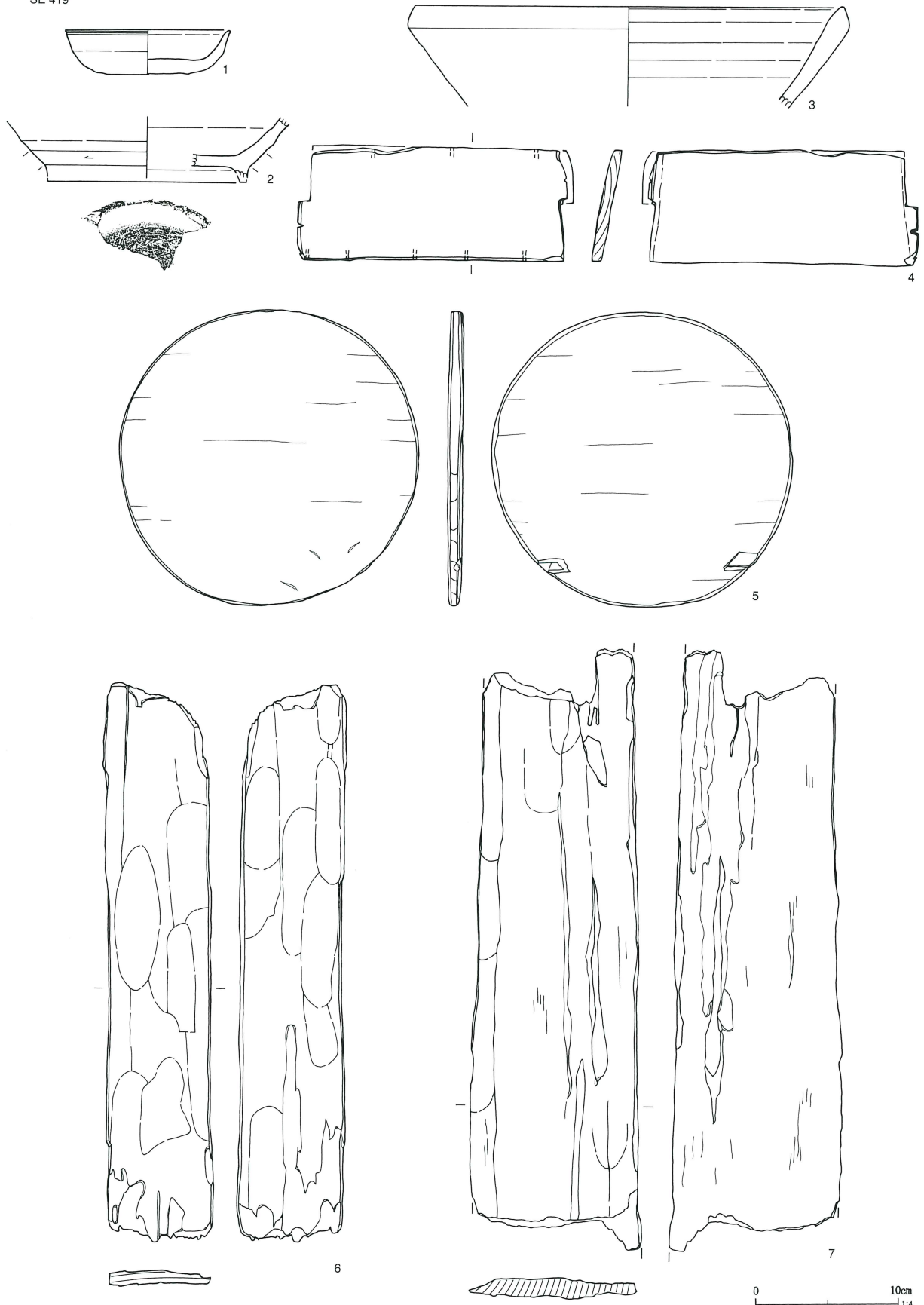
第421号井戸跡 (第248図)

Q-46グリッドで検出された。第419号井戸跡、第814号溝跡と重複していたが、新旧関係は不明である。

規模は、長径254cm、短径227cm、深さが210cmであった。平面形態は楕円形で、断面形は舟底形をしていた。底面には、井戸の中心からずれた位置に井戸枠の最下部が残存していた。壁面の崩落により、ズレや歪みが生じたものと考えられる。また、中層からは編状木製品が出土した。長軸方向は、N-77° - Wであった。

出土遺物は、第250図2～9に示した。2は、青磁の碗である。3は、渥美甕の肩部片で、工具の当て具痕が残る。5～8の最下段は正方形に組み合わせる。四本は内法・全長共にほぼ同じである。平坦な場所で組み合わせると安定が良い。地上で一段分を組み合わせ作り、井戸内に設置したと考えられる。上段の9は、下段と内法は同じだが仕口が長いので全長が長くなっている。井戸枠を一段ずつ作ったことによる誤差か、意図的な差異かのいずれかと考えられる。

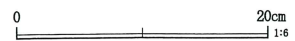
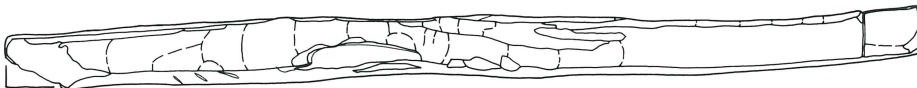
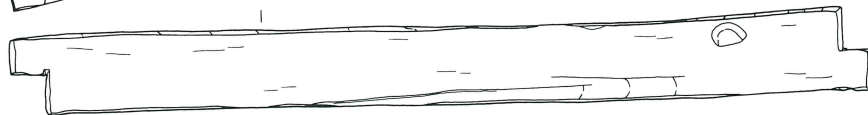
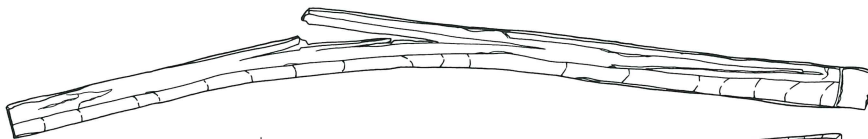
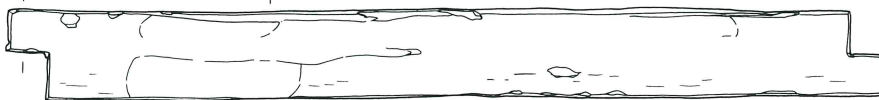
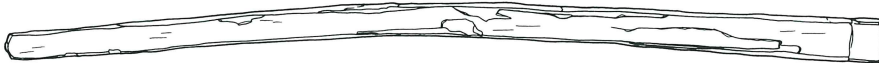
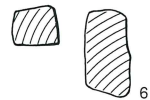
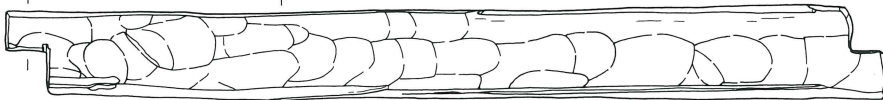
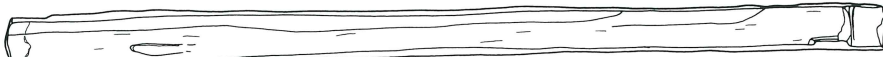
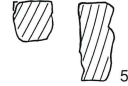
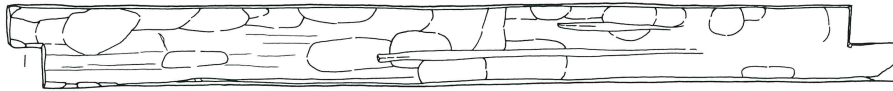
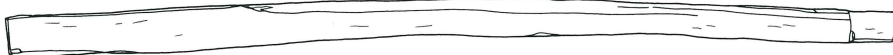
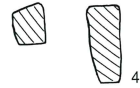
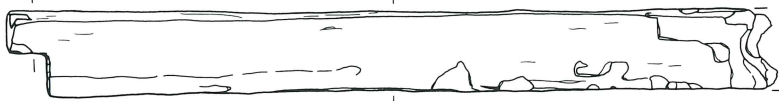
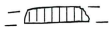
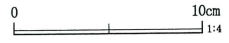
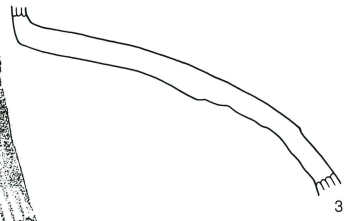
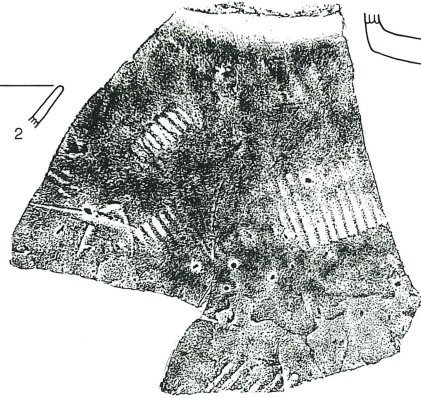
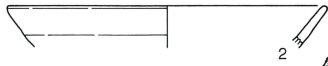
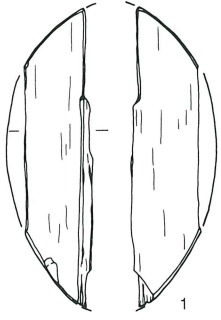
SE 419



第249図 井戸跡出土遺物 (7)

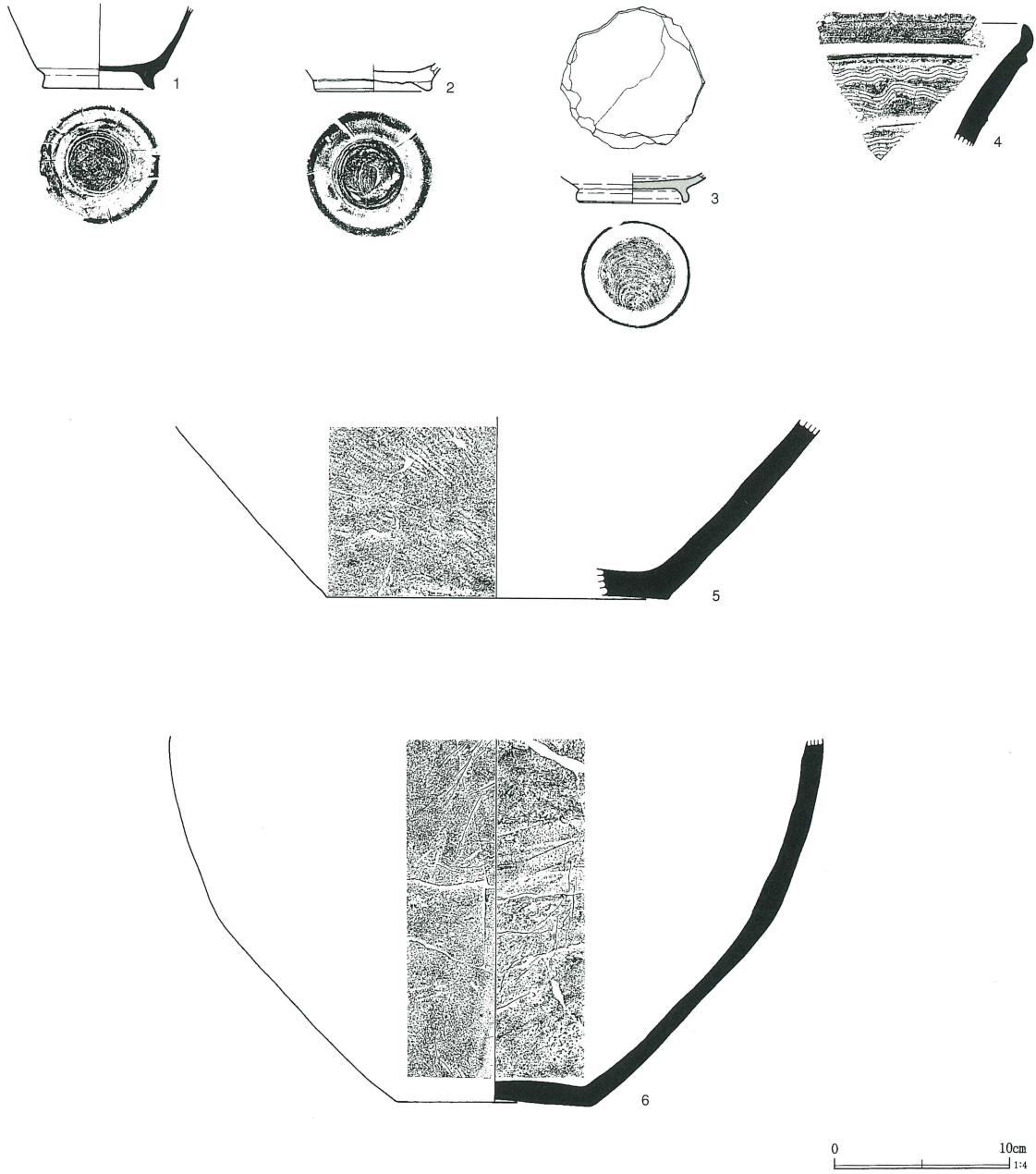
SE 420

SE 421



第250図 井戸跡出土遺物 (8)

SE 422



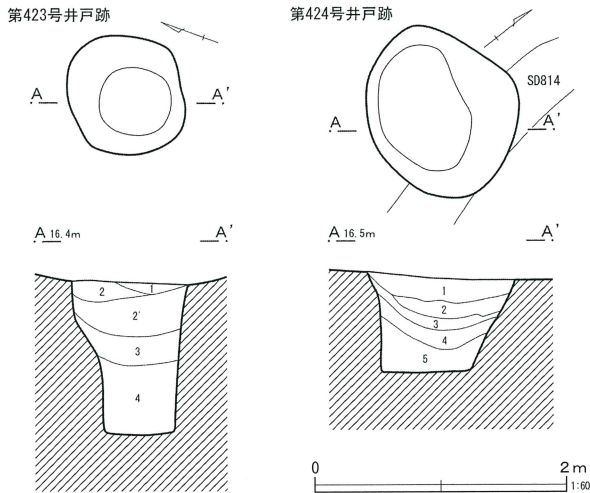
第251図 井戸跡出土遺物 (9)

第422号井戸跡 (第248図)

Q-47グリッドで検出された。第406・414号住居跡と重複しており、本井戸跡の方が新しかった。

規模は、長径338cm、短径300cm、深さが149cmであった。平面形態は楕円形で、断面形は舟底形をしていた。井戸枠は検出されなかったが、下層に杭状の木材が出土していることから、井戸枠を撤去した可能性も考えられる。長軸方向は、N-53°-Eであった。

遺物は、須恵器の破片などが少量出土しており、第251図1～6に示した。1・2・4～6は須恵器で、3は灰釉陶器である。3は高台付碗で、図化した底部部分は完存している。坏部内面部分は、朱墨と黒墨の痕跡が認められる。摩滅が著しく、器面も平滑であることから、転用硯である可能性が高い。4は、甕の口縁部片で、3本1単位の波状文が施文されている。5・6は大形甕の底部片で、ナデ調整である。



- 第423号井戸跡
- | | | |
|---------|-----------|--|
| 1 暗灰黄色土 | 2. 5Y5/2 | 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 少量 |
| 2 黒褐色土 | 10YR3/2 | 黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量 炭化物粒子 (φ2~10mm) 多量 |
| 2' 緑灰色土 | 10GY5/1 | 2層の還元層 |
| 3 緑灰色土 | 7. 5GY5/1 | 砂質土 地山土を主体 炭化物粒子 (φ2~3mm) 微量 |
| 4 暗緑灰色土 | 7. 5GY4/1 | 緑灰色土ブロック (φ3~5mm) 多量 炭化物粒子 (φ2~3mm) 少量 |
- 第424号井戸跡
- | | | |
|-----------|----------|--|
| 1 灰オリーブ色土 | 7. 5Y4/2 | 灰オリーブ色土を主体 黒色土ブロック (φ20~30mm) 極多量 |
| 2 灰オリーブ色土 | 7. 5Y4/2 | 黒色土ブロック (φ20~30mm) 多量 |
| 3 黒褐色土 | 10YR3/2 | 2層より全体的に暗い 黒色土ブロック (φ20~30mm) の混入は少ない 粘性あり |
| 4 灰色土 | 10Y5/1 | 地山土に近いが黒色土を部分的にブロック状に含む 粘性ややあり |
| 5 オリーブ黒色土 | 10Y3/1 | 黒色土粒子 (φ1~5mm) 少量 粘性ややあり |

第252図 井戸跡 (7)

第423号井戸跡 (第252図)

P-47グリッドで検出された。

規模は、長径104cm、短径98cm、深さが120cmであった。平面形態は楕円形で、断面形は北側の立ち上がりやや開く筒形をしていた。井戸杵については、検出されなかった。長軸方向は、N-14°-Eであった。

遺物は、中世の陶器片などが少量出土しているが、図示できるものはなかった。

第424号井戸跡 (第252図)

P・Q-46グリッドにかけて検出された。第814号溝跡と重複しており、本井戸跡の方が古かった。

規模は、長径141cm、短径123cm、深さが81cmであった。平面形態は楕円形で、断面形は筒形をしていた。井戸杵は、検出されなかった。長軸方向は、N-79°-Wであった。

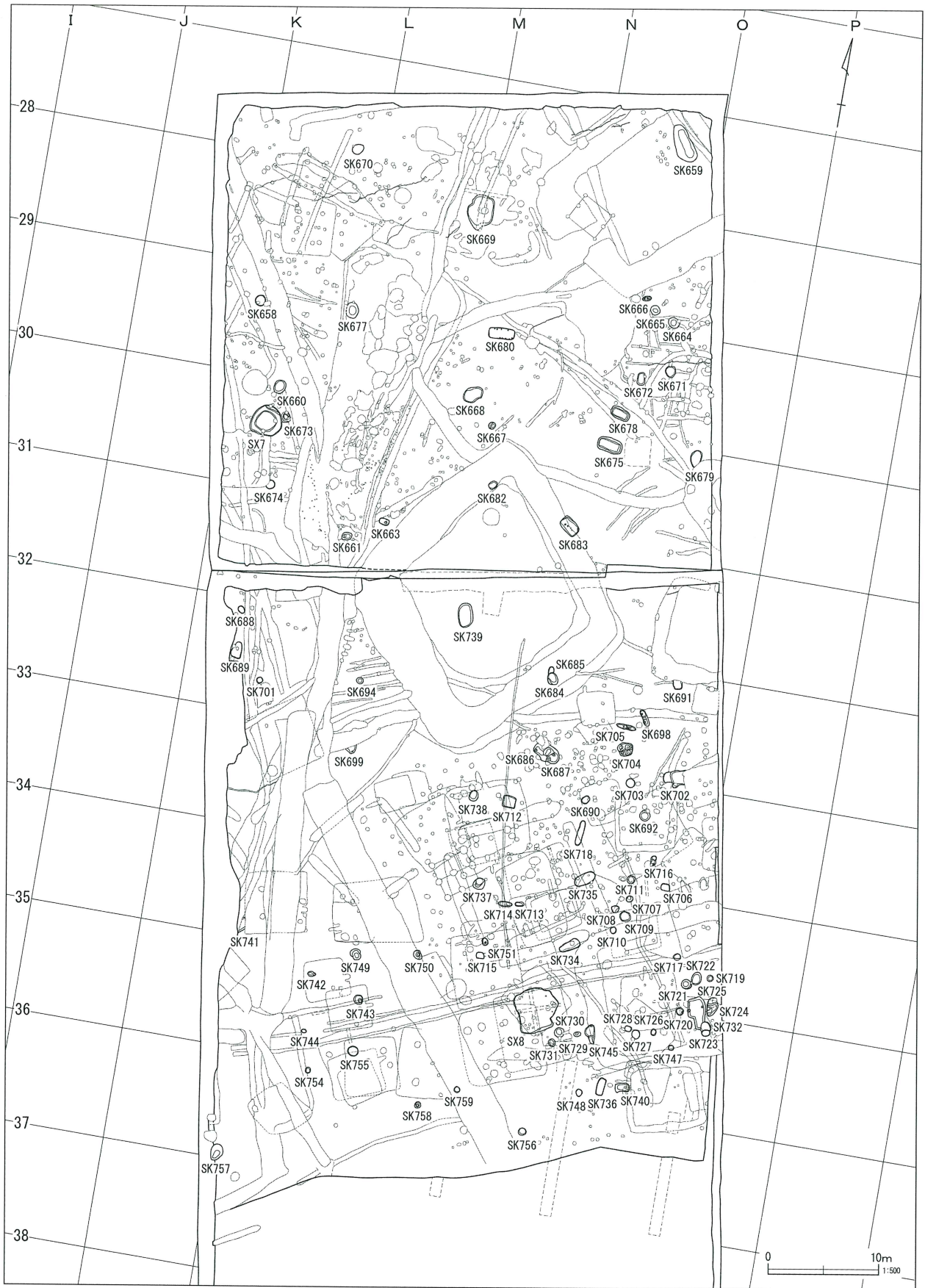
遺物は、中世の陶器片などが少量出土しているが、図示できるものはなかった。

第16表 井戸跡出土遺物観察表(1)

挿図番号	遺構番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	備考	図版
236 1	SE 390	木製品	曲物側板	径47.1	高さ20.8	厚さ0.2	—					
236 2	SE 391	須恵器	坏	—	[1.2]	4.8	1/5	雲 赤粒 白粒	普通	にぶい黄橙		
236 3	SE 391	須恵器	高台付塊	—	[2.1]	5.6	底部のみ	雲 赤粒 針 黒粒	普通	褐灰		
236 4	SE 391	須恵器	高台付塊	—	[3.2]	7.1	底部のみ	雲	普通	にぶい橙		
236 5	SE 391	須恵器	高台付塊	—	[1.8]	6.8	底部のみ	雲 角 赤粒 白粒 針 黒粒	普通	黄灰		
236 6	SE 391	須恵器	壺	—	[9.8]	(12.0)	破片	石英 白粒 針	普通	灰		
236 7	SE 394	土師器	坏	11.2	2.9	—	4/5	雲 角 黒粒	普通	にぶい橙	北武蔵型坏	72-8
236 8	SE 394	須恵器	甕	(12.1)	[4.5]	—	破片	石英 白粒	普通	灰		
236 9	SE 394	木製品	下駄	幅6.3	長さ6.7	高さ32.1	厚さ2.2	3.1	1/2			132
236 10	SE 395	須恵器	坏	12.6	3.6	7.6	3/4	石英 針	良好	褐灰		72-9
236 11	SE 395	須恵器	坏	13.2	3.8	8.0	3/4	石英 針	良好	黄灰	墨書	72-10
239 1	SE 396	緑釉陶器	稜皿	(15.1)	3.1	7.8	1/2	白粒	普通	灰白、釉オリーブ黒	陰刻花文	73-1
239 2	SE 396	須恵器	坏	(11.6)	4.2	5.4	1/3	雲 石英	普通	灰褐		
239 3	SE 396	須恵器	坏	12.4	3.9	5.0	完形	雲 石英	良好	灰		73-2
239 4	SE 396	須恵器	坏	—	[2.6]	5.0	2/3	雲 角 赤粒 白粒 黒粒	普通	にぶい橙		
239 5	SE 396	須恵器	坏	—	[2.1]	5.9	底部のみ	雲 石英 針	普通	灰		
239 6	SE 396	須恵器	高台付塊	(12.6)	5.6	6.5	1/2	石英 白粒	普通	褐灰		
239 7	SE 396	須恵器	高台付塊	—	[3.2]	7.5	底部のみ	雲 赤粒 白粒 小礫	普通	黄灰		
239 8	SE 396	須恵器	高台付塊	—	[2.4]	(6.8)	底部のみ	雲 長石 黒粒	不良	灰		
239 9	SE 396	須恵器	高台付塊	—	[1.9]	7.4	1/5	角 赤粒 白粒	普通	にぶい黄橙		
239 10	SE 396	内黒土器	高台付塊	—	[2.6]	7.1	底部のみ	石英 赤粒 白粒 針	普通	褐灰		
239 11	SE 396	須恵器	高台付塊	—	[3.0]	—	破片	角 石英 赤粒 白粒	普通	にぶい黄橙		
239 12	SE 396	須恵器	高台付塊	—	[2.3]	—	底部のみ	雲 赤粒 黒粒	良好	灰		
239 13	SE 396	土師器	甕	(14.1)	[7.9]	—	1/5	雲 石英	普通	灰黄褐		
239 14	SE 396	須恵器	甕	—	[4.4]	(14.0)	破片	石英 白粒	普通	灰		
239 15	SE 396	須恵器	甕	—	—	—	破片	白粒 黒粒	普通	灰		
239 16	SE 396	木製品	櫛	幅5.3	長さ4.9	厚さ1.1	—					133-1
241 1	SE 397	須恵器	高台付塊	—	[1.9]	6.5	底部のみ	角 石英 赤粒 白粒 黒粒	普通	灰		
241 2	SE 397	須恵器	坏	(14.2)	[3.8]	—	4/5	雲 角	良好	褐灰		
241 3	SE 397	灰釉陶器	塊	(13.9)	[1.8]	—	破片	白粒 黒粒	良好	灰白、釉灰白		122-2
241 4	SE 397	須恵器	高台付塊	—	[4.1]	11.0	脚部	石英 赤粒	普通	明褐灰		
241 5	SE 397	土師器	羽釜	(17.2)	[4.3]	—	破片	角 石英 赤粒 白粒	普通	にぶい褐		
241 6	SE 397	灰釉陶器	壺	—	[14.0]	(17.0)	1/4	白粒 黒粒	普通	灰白、釉灰白	ハケ塗り	91-6
241 7	SE 397	石製品	砥石	幅(17.9)	長さ[22.0]	厚さ(4.4)	破片					
241 8	SE 397	須恵器	甕	—	[17.5]	—	底部完存	片 白粒 黒粒	良好	青灰		
241 9	SE 397	木製品	杭	幅6.6	長さ[50.3]	厚さ6.5	—					132
241 10	SE 397	木製品	丸材	幅6.6	長さ[72.2]	厚さ6.6	—					
243 1	SE 403	土師器	坏	(12.8)	[3.2]	—	1/3	雲 角 白粒 黒粒	普通	にぶい橙	北武蔵型坏	73-3
243 2	SE 404	土師器	壺	11.4	16.4	5.0	完形	雲 赤粒 黒粒	普通	灰褐	黒斑	92-1
243 3	SE 404	土師器	甕	(15.6)	[7.0]	—	口縁破片	雲 長石	普通	にぶい橙		
243 4	SE 404	土師器	鉢	(23.6)	[12.4]	—	口縁破片	砂粒 赤粒	普通	橙		
243 5	SE 405	須恵器	坏	(15.3)	[4.0]	(11.0)	1/5	白粒 針 黒粒	良好	灰白		
243 6	SE 408	木製品	漆椀	(13.2)	5.4	(6.8)	1/4				黒漆	136-1
243 7	SE 408	木製品	柄杓	径11.7	高さ4.7	底板0.6	側板0.4				側板三重	133-7
243 8	SE 408	渥美	甕	—	—	—	破片	白粒 黒粒	普通	灰		126-1
245 1	SE 414	かわらけ	皿	(10.8)	[3.3]	(5.0)	1/3	赤粒 黒粒	良好	淡橙		
245 2	SE 414	かわらけ	皿	(12.2)	3.5	(6.1)	1/3	雲	普通	にぶい橙		
245 3	SE 414	青磁	鉢	(13.6)	[4.3]	—	口縁破片		良好	オリーブ黄		124-1
245 4	SE 414	常滑	甕	—	[17.5]	—	口縁破片	白粒	良好	灰赤		125-1
245 5	SE 414	常滑	甕	—	[23.2]	—	口縁破片	雲 白粒 黒粒 小礫	良好	灰赤		125-1
245 6	SE 414	常滑	片口鉢	—	[9.0]	—	胴部破片	長石 石英	普通	灰白		
245 7	SE 414	常滑	鉢	—	[5.9]	—	口縁破片	赤粒 白粒	普通	暗赤褐		125-2
245 8	SE 414	陶器	すり鉢	—	7.9	—	胴部破片	黒粒	普通	赤紫		126-2
245 9	SE 414	在地	片口鉢	(33.0)	[6.0]	—	口縁破片	石英	良好	灰		
245 10	SE 414	在地	片口鉢	(39.0)	[10.7]	—	口縁破片	雲 石英	普通	灰白		
245 11	SE 414	古瀬戸	梅瓶	—	—	9.5	底部破片	赤粒 白粒	普通	灰白		124-2

第17表 井戸跡出土遺物観察表(2)

挿図番号	遺構番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	備考	図版
245 12	SE 414	木製品	漆椀	15.4	8.5	7.9	ほぼ完形				黒漆	136-2
245 13	SE 414	瓦	平瓦	幅(12.0)長さ(8.8)厚さ(1.9)			破片	砂粒 赤粒	普通	橙褐		
247 1	SE 416	青磁	腰折皿	(8.1)	2.9	(3.9)	口縁破片		良好	明緑灰		124-1
247 2	SE 416	青磁	蓮弁文皿	—	[2.1]	(6.4)	底部破片		良好	明緑灰		124-1
247 3	SE 416	かわらけ	皿	—	[1.0]	6.2	底部	赤粒	普通	にぶい橙		
247 4	SE 416	常滑	甕	(23.5)	[2.5]	—	口縁破片	白粒	良好	灰褐		125-2
247 5	SE 416	常滑	甕	—	[7.8]	—	口縁破片	長石 白粒	普通	にぶい赤褐		125-1
247 6	SE 416	常滑	甕	—	[12.0]	—	口縁破片	長石 白粒 黒粒	普通	極暗赤褐		125-1
247 7	SE 416	在地	片口鉢	(24.2)	10.1	10.3	1/3	石英	普通	黒		126-2
247 8	SE 416	鉄製品	短刀	刀幅1.7~1.6背幅0.2長さ[11.0]			2/3					130-1
247 9	SE 416	銭貨	元祐通寶	径2.1重さ1.5			—				北宋1086年、行書	
247 10	SE 417	かわらけ	皿	11.7	3.5	—	破片	雲 角 赤粒	普通	にぶい橙		
247 11	SE 417	在地	片口鉢	24.6	5.5	—	破片	角 白粒 白色小礫	普通	灰黄		126-2
247 12	SE 418	かわらけ	小皿	8.0	1.8	4.6	完形	雲 角 赤粒	普通	にぶい黄橙		73-4
249 1	SE 419	かわらけ	皿	11.5	3.1	5.7	2/5	雲 角	普通	にぶい黄橙		
249 2	SE 419	山茶碗	片口鉢	—	4.3	(14.0)	破片	白粒 黒粒 白色礫	良好	灰		
249 3	SE 419	在地	片口鉢	30.0	7.0	—	破片	白粒 黒粒	普通	灰		
249 4	SE 419	木製品	指物容器	幅7.8長さ18.8厚さ0.8			ほぼ完形				木釘	133-2
249 5	SE 419	木製品	底板	幅20.5長さ21.2厚さ1.0			ほぼ完形					133-8
249 6	SE 419	木製品	板材	幅(7.2)長さ(38.2)厚さ1.0			—					
249 7	SE 419	木製品	板材	幅11.8長さ(42.0)厚さ1.4			—					
250 1	SE 420	木製品	底板	幅[3.4]長さ[15.8]厚さ[0.8]			1/4					133-3
250 2	SE 421	青磁	碗	(17.0)	[2.2]	—	破片		良好	オリーブ黄		124-1
250 3	SE 421	渥美	甕	—	—	—	破片	白粒 黒粒	普通	灰		125-2
250 4	SE 421	木製品	井戸枠	幅6.7長さ61.2厚さ2.6			ほぼ完形					132
250 5	SE 421	木製品	井戸枠	幅6.2長さ71.6厚さ2.8			ほぼ完形					132
250 6	SE 421	木製品	井戸枠	幅7.0長さ71.0厚さ3.6			ほぼ完形					132
250 7	SE 421	木製品	井戸枠	幅6.8長さ71.0厚さ2.4			ほぼ完形					132
250 8	SE 421	木製品	井戸枠	幅6.1長さ70.0厚さ2.7			ほぼ完形					132
250 9	SE 421	木製品	井戸枠	幅9.2長さ73.9厚さ4.8			ほぼ完形					132
251 1	SE 422	須恵器	高台付碗	—	[4.8]	6.4	1/3	黒粒	普通	灰		
251 2	SE 422	須恵器	高台付碗	—	[1.6]	6.4	底部	砂粒 赤粒 白粒	普通	にぶい黄橙		
251 3	SE 422	灰釉陶器	高台付碗	—	[1.7]	6.3	底部完存	白粒 黒粒	良好	灰白	転用硯	122-2
251 4	SE 422	須恵器	甕	—	[7.0]	—	口縁破片	石英 砂粒 白粒	普通	灰		121-2
251 5	SE 422	須恵器	甕	(19.6)	—	—	破片	長石 白粒	良好	暗灰		
251 6	SE 422	須恵器	甕	—	[20.7]	11.2	底部破片	白粒 針	良好	灰		



第253図 性格不明遺構・土坑全体図 (1)



第254図 性格不明遺構・土坑全体図 (2)

5. 性格不明遺構

円形に溝が巡る円形周溝状遺構や平面形態が不整形をする竪穴状遺構などの遺構の性格が不明である遺構を本稿でまとめて報告することにする。

円形周溝状遺構は、第4次調査東区において1基検出された。円形周溝状遺構は、下田町遺跡では、第2次調査東区で1基（第224号溝跡）、第3次調査で2基（第5・6号円形周溝状遺構）調査され、本例で4基めである。

本遺構は、住居跡との切り合いがみられない他の例とは異なり、奈良時代の住居跡（第325号住居跡）を切って構築されている。出土遺物はほとんどないため、正確な時期は不明であるが、少なくとも奈良時代以降と推定される。

下田町遺跡において、円形周溝状遺構は、古墳時代後期の集落に伴うものと考えられてきたが、本例のように、時代の降る例が発見されたことは重要である。下田町遺跡の諸例を見ても、円形に溝が輪になる点を除けば、その規模や形態には多様性がみられる。その性格は不明であるが、おそらく、画一的なものではなく、地域や時期によって、異なる性格を有していた可能性がある。こうした視点は、今後、このような形状の遺構の性格を検討する際に必要と考えられる。

竪穴状不明遺構は、第5次調査で2基が検出され、本遺跡で検出された遺構の総数は4基となる。第8号竪穴状不明遺構は、一辺が約4mの不整形を呈し、覆土の上層には焼土・炭が多量に含まれていた。底面は中央に向かって低くなっていた。第9号竪穴状不明遺構は、底面は平坦であるが、平面形態は不整形で、カマドや壁溝などの施設が検出できなかった。

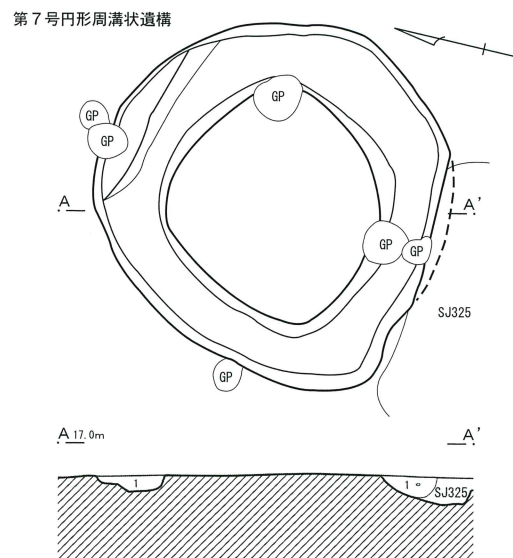
両遺構とも居住施設とは考えにくく、これまで検出された同様の遺構とは平面形態は異なるが、時期は何れも古墳時代後期である。祭祀色が薄く、出土遺物の復元率が低いことから、土器などを廃棄するための遺構と考えられる。

第7号円形周溝状遺構（第255図）

K-30グリッドで検出された。第325号住居跡と重複していた。切り合い関係は、第325号住居跡よりも新しかった。

平面形態は円形で、中心の平坦部はやや方形に近くなっていた。規模は、直径2.8m、中心部は1.64×1.61mであった。溝の深さは東側で0.11m、西側で0.12m、北側で0.11m、南側で0.17m、幅が0.45～0.65mであった。中央部分にピットなどの掘り込みはなく、地山面は平坦であった。

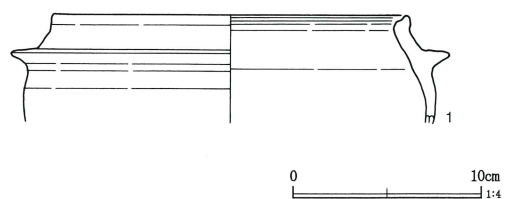
出土遺物は少なく、すべて破片である。第256図1は土師器の羽釜である。他に、土師器杯・甕、須恵器杯（回転糸切り底）・甕などの破片が含まれていた。



第7号円形周溝状遺構
1 褐灰色土 10YR4/1 暗灰色の粘質土主体 褐色土粒子（φ2mm）多量 しまりあり 粘性弱い



第255図 第7号円形周溝状遺構



第256図 第7号円形周溝状遺構出土遺物

第 8 号 豎穴状不明遺構 (第257・258図)

N-35グリッドで検出された。第764号溝跡、第365・376・389号住居跡と重複していた。新旧関係は、第764号溝跡より古く、第365・376・389号住居跡よりも新しかった。

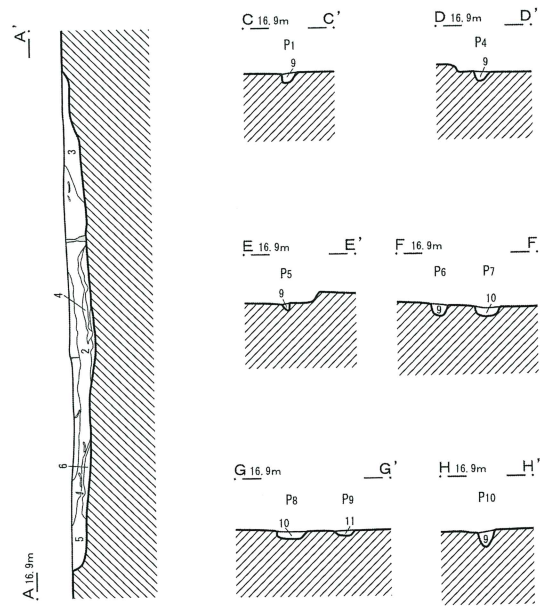
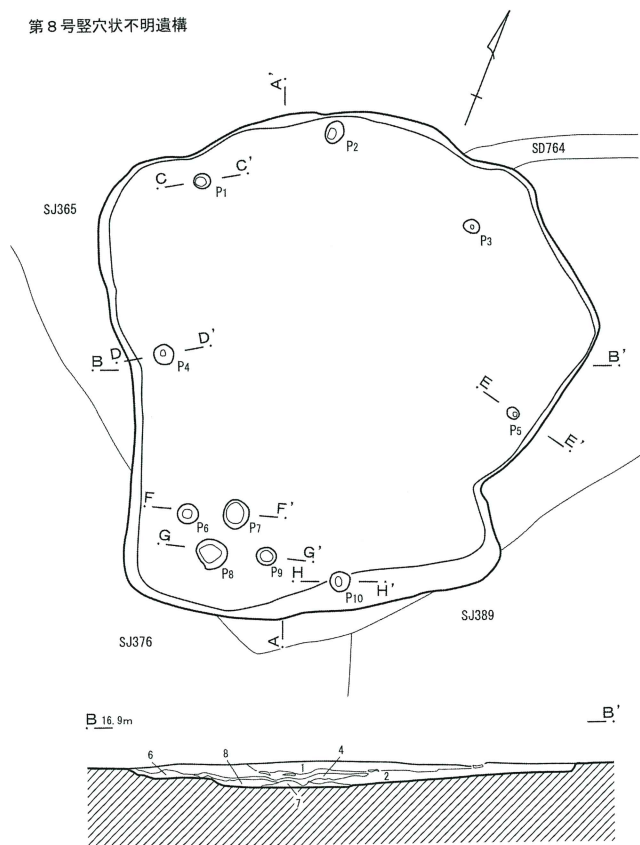
規模は、南北3.93m、東西3.78mで、深さが0.06~0.17mであった。平面形態は不整形をしていた。主軸方向は、N-19°-Wであった。

掘り込みは全体的に浅く、中央がやや深くなっており、掘り鉢状になっていた。覆土上層の1・2層は、灰を主体とし、炭化物や焼土が多量に含まれていた。遺物の多くはこれらの層位から出土している。

ピットは、壁際に沿った形で小規模なピットを10本検出した。各ピットの規模は、P1は径13cm、深さが7cm、P2は径17cm、深さが14cm、P3は径13cm、深さが4cm、P4は径16cm、深さが9cm、P5は径10cm、深さが6cm、P6は径17cm、深さが10cm、P7は径22cm、深さが9cm、P8は径25cm、深さが8cm、P9は径16cm、深さが5cm、P10は径16cm、深さが12cmであった。

遺物は、土師器の坏・甕を主体に、多量に出土している。第259図2~27は、土師器坏で、有段口縁坏、須恵器坏身の模倣坏が多いのが特徴である。第260図30~45は、土師器甕で、全体を復元できるものはなかった。第261図54は、半円形をした勾玉形の滑石製

第 8 号 豎穴状不明遺構



第 8 号 豎穴状不明遺構

- 1 黒色土 10YR1.7/1 黒色の灰を主体とし中~多量 焼土粒子 (φ2~5mm) 少量 土師器片を含む しまりあり 粘性なし
- 2 黒色土 10YR1.7/1 1層と同じ黒色の灰を主体 黒色・灰色の灰多量 焼土粒子 (φ2~10mm) を斑に含む 炭化物 (0.5~1mm角) 中~多量 青褐色灰色土ブロック (φ2~20mm) 含む 土師器片を含む しまり・粘性なし
- 3 黒色土 10YR2/1 茶色っぽい黒褐色のしまりある土主体 焼土ブロック (φ5~20mm) 中~多量 炭化物 (0.5cm角) 含む しまりあり 粘性なし

- 4 黒色土 10YR2/1 黒色灰主体 (黒色灰層) 焼土粒子 (φ5~10mm) 斑に含む しまり・粘性なし
- 5 暗褐色灰色土 2.5Y4/2 暗褐色灰色のしまりある土主体 (地山土に近い土) 暗灰色の灰を斑に含む 黄褐色土粒子 (φ2~5mm)・焼土粒子 (φ10mm)・炭化物 (0.8cm角) 少量 しまりあり 粘性なし
- 6 暗褐色灰色土 2.5Y4/2 5層と同じ土を主体とするが混入物はみられない しまりあり 粘性なし
- 7 暗青灰色土 5B3/1 暗青灰色粘質土主体 暗灰色粘土少量
- 8 暗褐色灰色土 2.5Y4/2 暗褐色灰色の粘性のやある土主体 青褐色灰色土粒子 (φ2~5mm) 中~多量 暗灰色の灰を斑に含む しまりあり 粘性ややあり

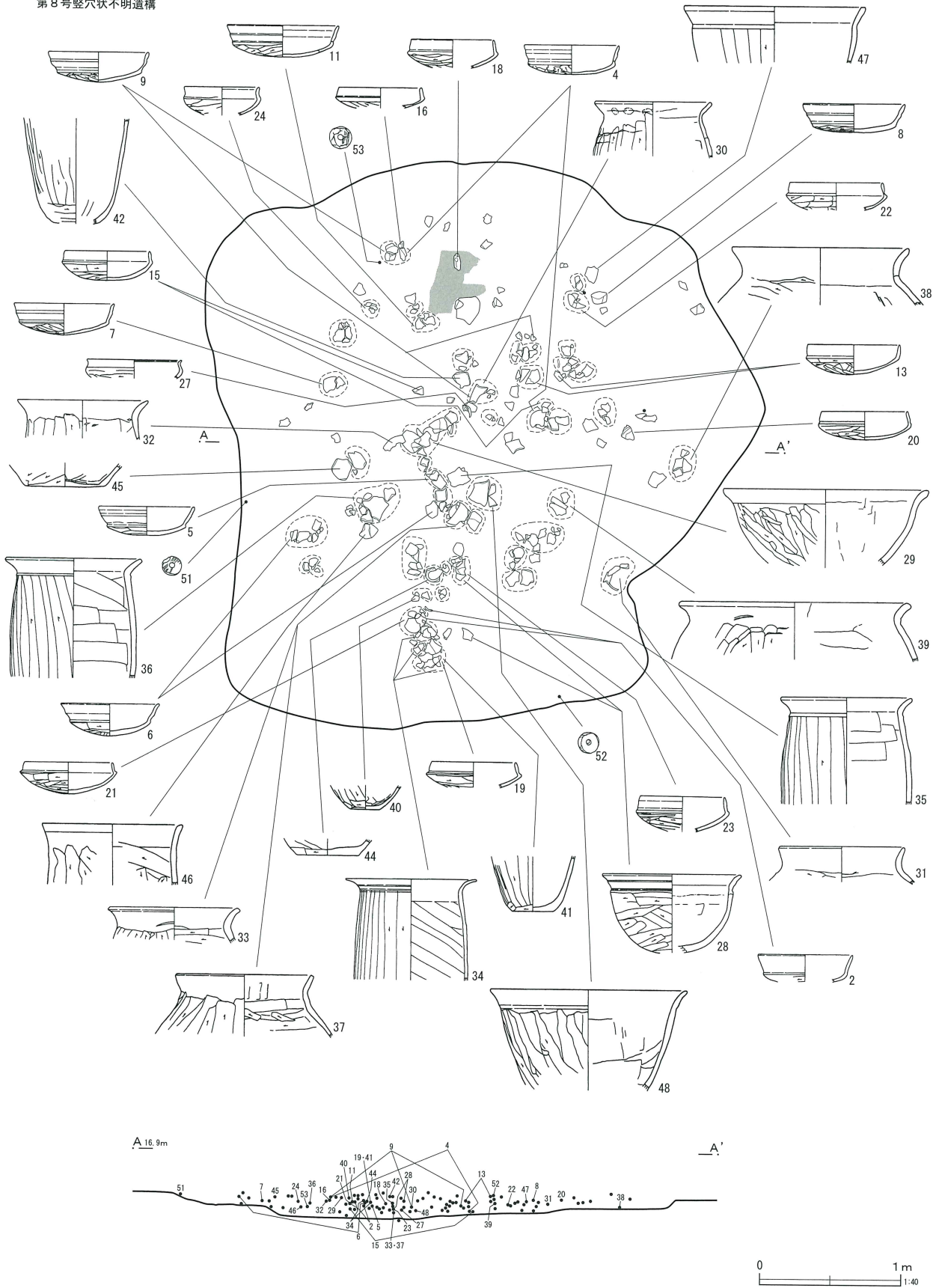
ピット

- 9 黒褐色土 10YR3/1 焼土粒子 (φ2mm)・炭化物粒子 (φ2mm) 少量 しまりあり 粘性なし
- 10 褐色土 10YR4/1 焼土粒子 (φ2mm) 少量 しまりあり 粘性なし
- 11 黒褐色土 10YR3/1 暗灰色のしまりある土主体 黒灰色の灰少量 しまりあり 粘性なし

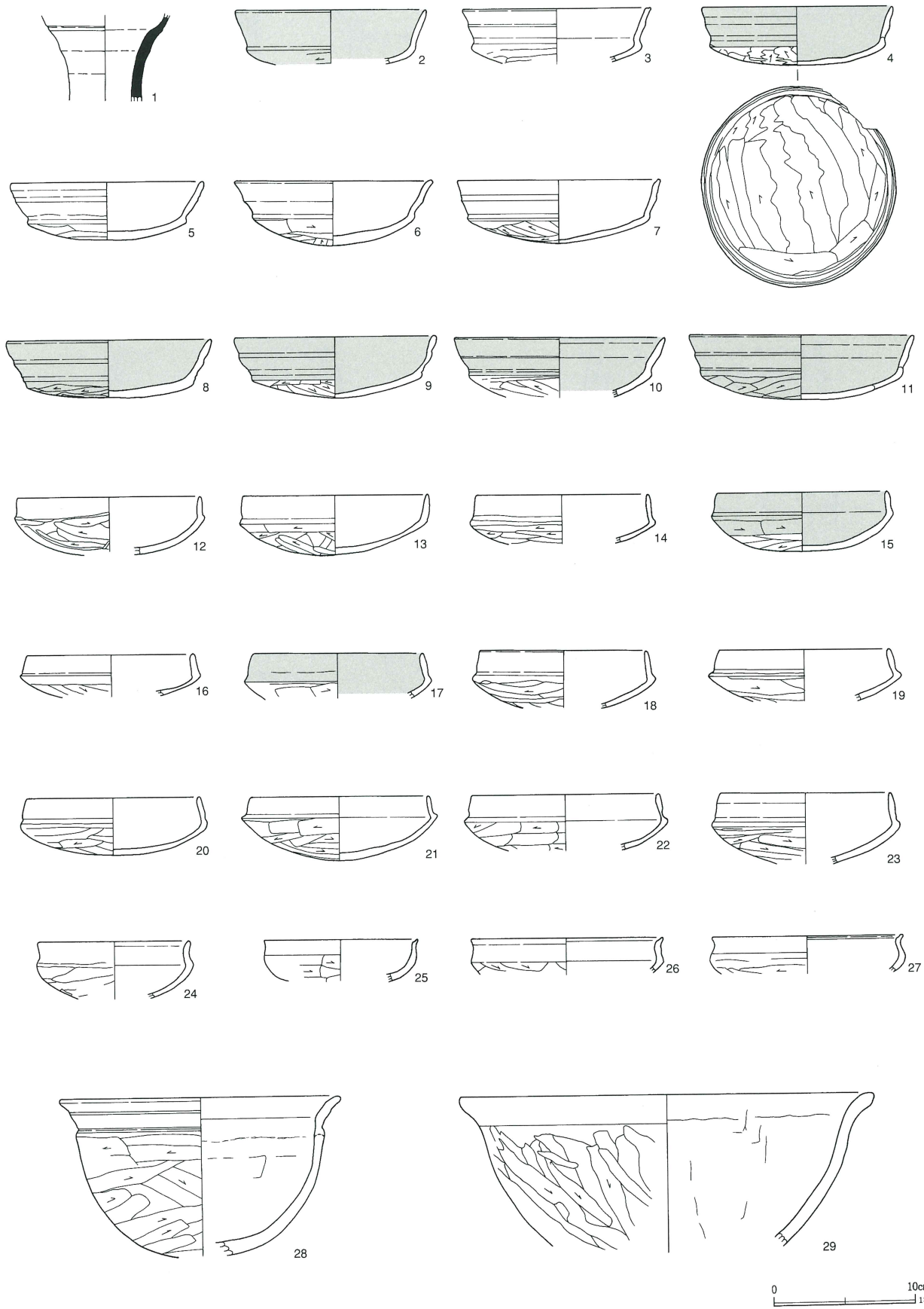


第257図 第 8 号 豎穴状不明遺構

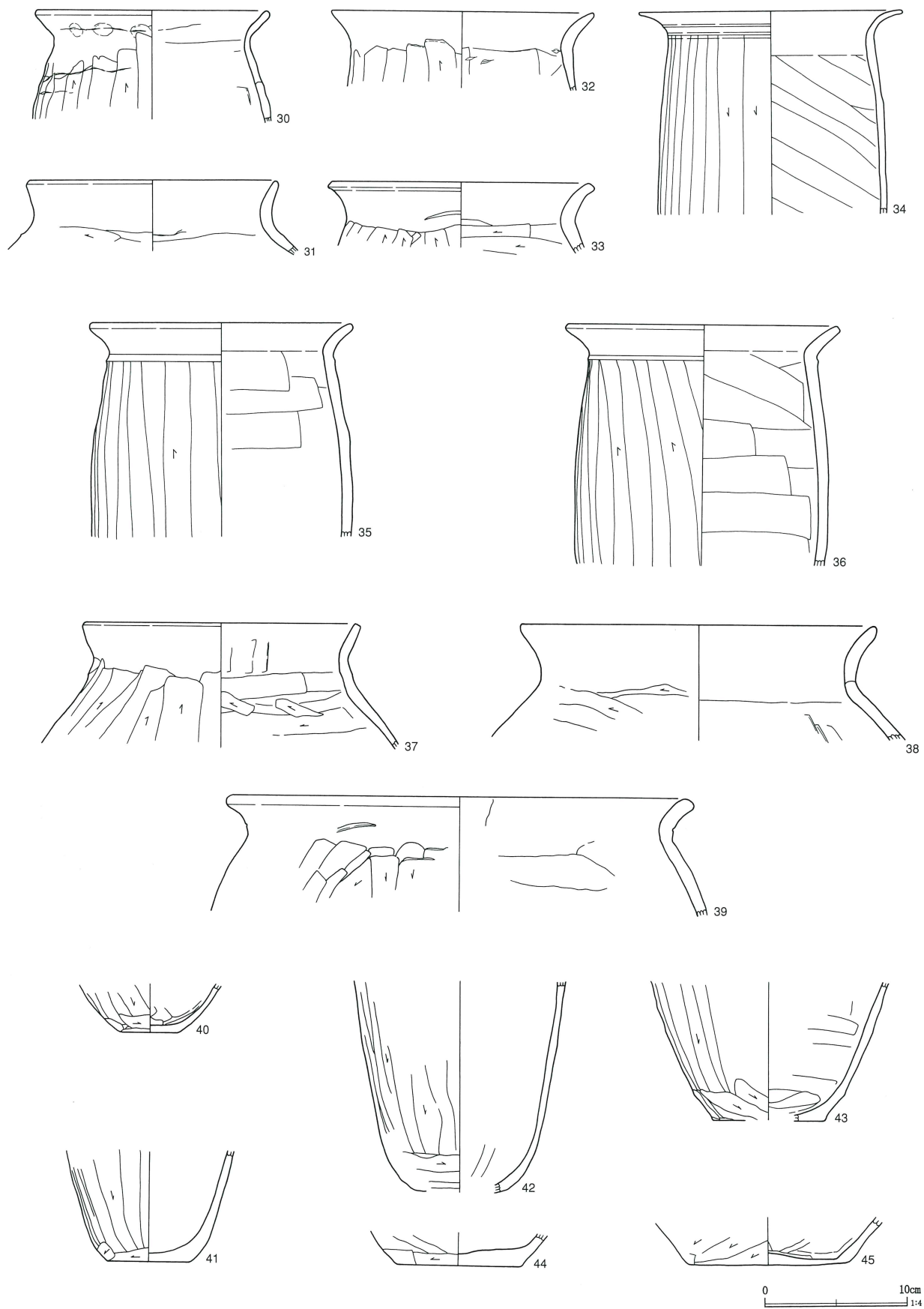
第8号竖穴状不明遺構



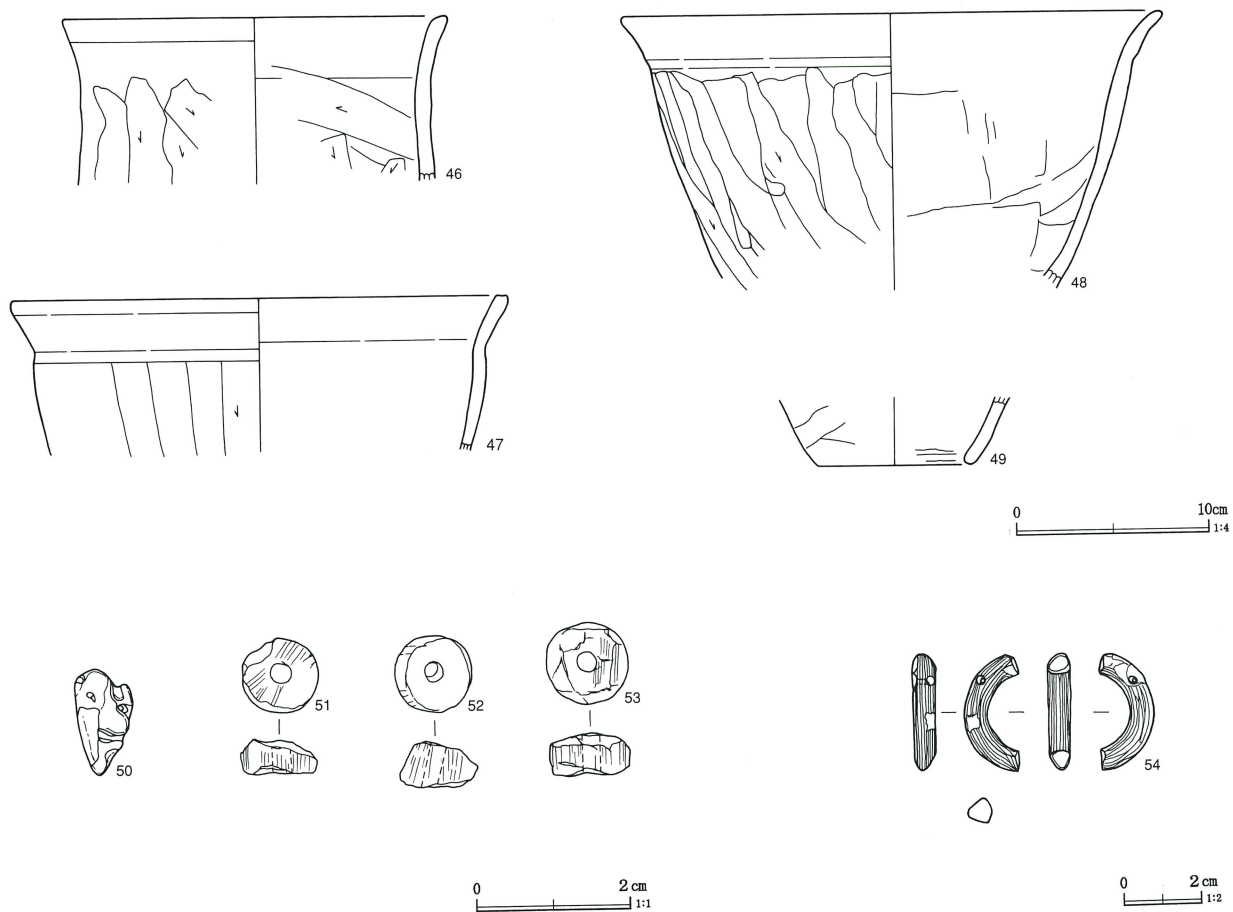
第258图 第8号竖穴状不明遺構遺物出土狀況



第259图 第8号竖穴状不明遺構出土遺物(1)



第260图 第8号豎穴状不明遺構出土遺物(2)



第261図 第8号竪穴状不明遺構出土遺物(3)

模造品で、作りは丁寧である。

第9号竪穴状不明遺構(第263図)

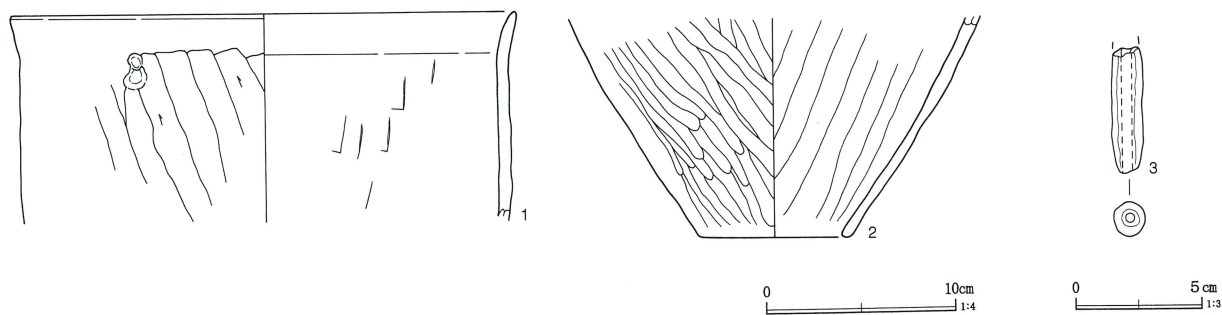
P-47グリッドで検出された。第402号住居跡、第806号溝跡と重複していた。新旧関係は、第806号溝跡より古く、第402号住居跡よりも新しかった。

規模は、南北2.6m、東西2.45m、深さが0.1~0.25mであった。平面形態は、北西部が張り出す不整形

をしていた。主軸方向は、N-46°-Wであった。

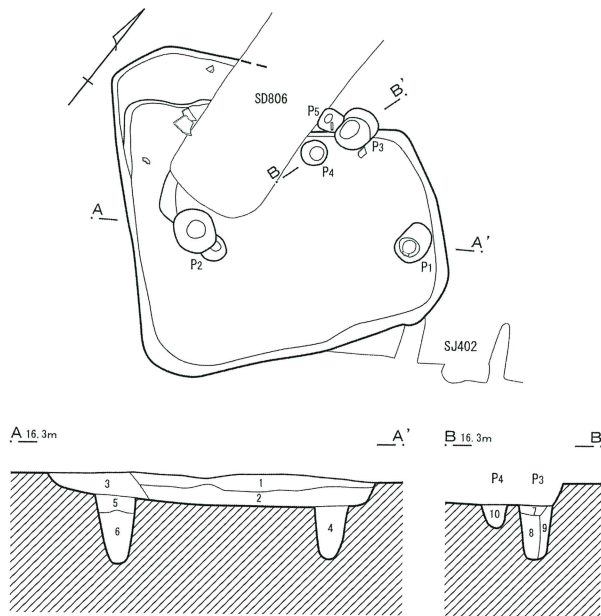
底面はほぼ平坦で、ピットを5本検出した。各ピットの規模は、P1が30×22cm、P2が37×57cm、P3が33×60cm、P4が21×22cm、P5が18×13cmであった。ピットの配置も不規則で、規模もまばらであることから、柱穴とは考え難い。

出土遺物は、同一個体と考えられる土師器甑の口



第262図 第9号竪穴状不明遺構出土遺物

第9号竪穴状不明遺構



第263図 第9号竪穴状不明遺構

第9号竪穴状不明遺構

- 1 黒褐色土 2.5Y3/2 黄褐色土粒子 (φ1~10mm) 少量 焼土粒子 (φ1~5mm)・炭化物粒子 (φ1~5mm) 微量 しまり・粘性あり
- 2 黒褐色土 2.5Y3/2 黄褐色土ブロック (φ5~10mm) 斑を含む 緑灰色土粒子 (φ1~5mm) 斑を含む しまりあり 粘性ややあり
- 3 黒褐色土 2.5Y3/2 黄褐色土粒子 (φ1~10mm) 斑を含む 焼土粒子 (φ1mm)・炭化物粒子 (φ1~3mm) 微量 しまり・粘性あり
- ピット1
- 4 黒色土 2.5Y2/1 粘質土・緑灰色土粒子 (φ1~5mm) 微量 焼土粒子 (φ1mm) 微量 しまりあり 粘性強い
- ピット2
- 5 暗オリーブ灰色土 2.5GY3/1 緑灰色土 (φ1~20mm) をブロック状に多量 しまり・粘性あり
- 6 黒色土 2.5GY2/1 粘質土・緑灰色土 (φ10~20mm) をブロック状に多量 しまりあり 粘性強い
- ピット3
- 7 暗緑灰色土 10GY3/1 暗緑灰色粘質土 炭化物ブロック (φ5mm) 少量 しまり・粘性あり
- 8 暗緑灰色土 10GY3/1 7層と同色粘質土で炭化物含まず しまりなし 粘性あり
- 9 暗青灰色土 5B3/1 青灰色粘質土主体 青灰色シルト少量 暗青灰色粘質土を斑を含む しまりややあり 粘性あり
- ピット4
- 10 暗緑灰色土 10GY3/1 7層よりやや暗めの暗緑灰色粘質土 炭化物粒子 (φ1~2mm) 微量 青灰色土粒子 (φ3~5mm) 斑を含む しまりややあり 粘性あり



縁部、底部片が各1点と土錘が1点出土している。

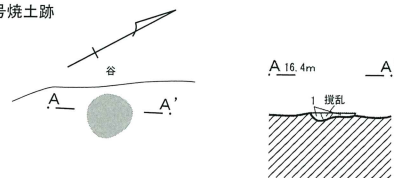
第10号焼土跡 (第264図)

P-44グリッドの谷部への落ち際で検出された。

規模は、径0.37mで、平面形態は円形をしていた。

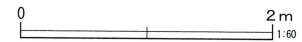
掘り込みはなく、遺構検出面である地山が被熱していた。住居跡の炉跡の可能性が考えられたため、周囲を丹念に精査したが、柱穴や壁溝なども検出できなかったことから、単独の遺構として調査を行った。

第10号焼土跡



第10号焼土跡

- 1 にぶい橙色土 2.5YR6/4 焼土を主体とし下方に向かってうすくなる



第264図 第10号焼土跡

第18表 性格不明遺構出土遺物観察表(1)

挿入番号	遺構番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	備考	図版	
256	1	SX	7	土師器	羽釜	(18.7)	[5.7]	—	破片	角石英 砂粒 白粒	普通	にぶい黄橙	
259	1	SX	8	須恵器	甕	—	[6.0]	—	頸部破片	白粒	良好	暗緑灰	模倣坏
259	2	SX	8	土師器	坏	(13.6)	4.8	—	1/3	赤粒 白粒	普通	黒褐	黒色模倣坏
259	3	SX	8	土師器	坏	(13.4)	3.8	—	1/3	雲 砂粒 白粒	普通	暗赤褐	有段口縁坏
259	4	SX	8	土師器	坏	13.6	4.1	—	ほぼ完形	雲 赤粒	普通	暗赤灰	黒色有段口縁坏
259	5	SX	8	土師器	坏	(13.6)	4.0	—	1/2	雲 赤粒	良好	赤褐	有段口縁坏
259	6	SX	8	土師器	坏	14.0	4.5	—	2/3	角 砂粒 赤粒 白粒	普通	黄橙	有段口縁坏
259	7	SX	8	土師器	坏	(14.4)	[4.4]	—	1/3	赤粒 白粒	普通	橙	有段口縁坏
259	8	SX	8	土師器	坏	(14.4)	3.9	11.8	1/2	赤粒 白粒	普通	褐灰	黒色有段口縁坏
259	9	SX	8	土師器	坏	14.2	4.3	—	4/5	砂粒 赤粒 白粒	普通	浅黄	黒色有段口縁坏
259	10	SX	8	土師器	坏	(15.0)	4.1	—	1/5	雲 角 赤粒 白粒	普通	橙	黒色有段口縁坏
259	11	SX	8	土師器	坏	(15.8)	[4.5]	(14.3)	破片	雲 白粒 黒粒	普通	にぶい橙	黒色有段口縁坏
259	12	SX	8	土師器	坏	12.8	[4.0]	—	1/4	雲 赤粒 白粒	普通	橙	模倣坏
259	13	SX	8	土師器	坏	(13.0)	4.2	—	3/4	角 砂粒 赤粒 白粒	普通	黄橙	模倣坏
259	14	SX	8	土師器	坏	12.2	[3.4]	—	1/3	赤粒 白粒	普通	にぶい橙	身模倣坏
259	15	SX	8	土師器	坏	12.0	4.1	—	2/3	砂粒 赤粒 白粒	普通	橙	黒色身模倣坏
259	16	SX	8	土師器	坏	11.8	[2.5]	—	1/5	赤粒	普通	にぶい橙	身模倣坏、赤彩
259	17	SX	8	土師器	坏	(12.0)	[3.1]	—	口縁破片	雲 赤粒	良好	にぶい赤褐	黒色身模倣坏
259	18	SX	8	土師器	坏	(11.8)	4.0	—	1/4	赤粒 白粒	普通	橙	身模倣坏、赤彩

第19表 性格不明遺構出土遺物観察表(2)

挿図番号	遺構番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	備考	図版
259 19	SX 8	土師器	坏	(12.0)	[3.6]	—	1/5	雲 赤粒 白粒	普通	橙	身模倣坏	74-4
259 20	SX 8	土師器	坏	(12.2)	4.0	—	1/4	赤粒 白粒	普通	黄灰	身模倣坏	
259 21	SX 8	土師器	坏	(12.6)	4.5	—	3/4	砂粒 白粒	普通	橙	身模倣坏、黒斑	
259 22	SX 8	土師器	坏	(13.2)	[3.9]	—	1/4	角 砂粒 赤粒 白粒	普通	黄橙	身模倣坏	
259 23	SX 8	土師器	坏	(12.0)	4.9	—	1/5	雲 赤粒 白粒	良好	にぶい褐	身模倣坏	
259 24	SX 8	土師器	坏	(10.6)	[4.0]	—	1/5	砂粒	普通	明褐灰		
259 25	SX 8	土師器	坏	(10.8)	2.9	—	破片	赤粒	普通	淡橙	比企型坏、赤彩	
259 26	SX 8	土師器	坏	(13.6)	2.6	—	口縁破片	砂粒 赤粒	良好	にぶい黄橙	比企型坏、赤彩	
259 27	SX 8	土師器	坏	(13.6)	2.6	—	口縁破片	赤粒 白粒	普通	赤褐	比企型坏、赤彩	
259 28	SX 8	土師器	鉢	(19.6)	[12.1]	—	1/3	雲 赤粒	良好	にぶい橙		
259 29	SX 8	土師器	鉢	(14.5)	10.7	—	口縁破片	石英 砂粒	良好	橙		
260 30	SX 8	土師器	甕	(16.4)	[7.7]	—	1/5	石英 赤粒 白粒	普通	明赤褐		
260 31	SX 8	土師器	甕	(17.4)	[5.2]	—	口縁破片	砂粒 白粒	普通	明赤褐		
260 32	SX 8	土師器	甕	(18.6)	[5.4]	—	1/4	角 赤粒 白粒	普通	にぶい赤橙		
260 33	SX 8	土師器	甕	(18.4)	[4.9]	—	口縁破片	赤粒 白粒	普通	にぶい橙	92-2	
260 34	SX 8	土師器	甕	(18.8)	[14.3]	—	口縁	砂粒	良好	明褐灰		
260 35	SX 8	土師器	甕	(18.6)	[15.0]	—	口縁破片	雲 白粒 黒粒	普通	にぶい橙		
260 36	SX 8	土師器	甕	(19.0)	[16.8]	—	1/3	砂粒 赤粒	普通	にぶい橙		
260 37	SX 8	土師器	甕	(19.0)	8.8	—	1/5	砂粒 赤粒 白粒	普通	明赤褐		
260 38	SX 8	土師器	甕	(12.5)	8.0	—	口縁破片	赤粒 白粒	普通	浅黄橙		
260 39	SX 8	土師器	甕	(32.0)	[8.1]	—	口縁破片	砂粒 赤粒	普通	にぶい橙		
260 40	SX 8	土師器	甕	—	[3.4]	4.2	底部	白粒 黒粒	普通	赤橙		
260 41	SX 8	土師器	甕	—	[7.8]	5.8	底部	砂粒 赤粒	普通	にぶい赤橙		
260 42	SX 8	土師器	甕	—	[14.5]	—	底部1/3	石英 赤粒	普通	にぶい赤橙		
260 43	SX 8	土師器	甕	—	[9.7]	(8.0)	底部1/5	石英 赤粒 白粒	普通	黒褐		
260 44	SX 8	土師器	甕	—	[2.3]	9.0	底部	砂粒 赤粒	普通	褐灰		
260 45	SX 8	土師器	甕	—	[3.0]	11.3	底部	砂粒	普通	にぶい橙		
261 46	SX 8	土師器	甕	(20.0)	[8.5]	—	口縁破片	白粒 黒粒	普通	にぶい橙		
261 47	SX 8	土師器	甕	(25.8)	[7.9]	—	破片	砂粒 赤粒	普通	にぶい橙		
261 48	SX 8	土師器	甕	(28.0)	[14.2]	—	口縁破片	石英 赤粒 白粒	良好	明赤褐		
261 49	SX 8	土師器	甕	—	[3.5]	(8.0)	破片	石英 砂粒	普通	にぶい黄橙		
261 50	SX 8	石	貝巢穴岩	幅(2.9)長さ(3.4)厚さ(2.1)			—					
261 51	SX 8	石製品	白玉	径1.0長さ0.4重さ0.5			ほぼ完形				滑石製	
261 52	SX 8	石製品	白玉	径1.0長さ0.6重さ0.8			ほぼ完形				滑石製	
261 53	SX 8	石製品	白玉	径1.1長さ0.5重さ0.9			4/5				滑石製	
261 54	SX 8	石製品	勾玉	厚さ0.5重さ3.0重さ2.3			完形				滑石製	
262 1	SX 9	土師器	甕	(27.0)	[11.0]	(8.0)	破片	長石 石英 砂粒 白粒	普通	淡黄		
262 2	SX 9	土師器	甕	—	[11.6]		底部1/4	長石 砂粒 白粒	普通	淡黄	黒斑	
262 3	SX 9	土製品	土錘	孔径0.3径1.2長さ[4.9]重さ8.7			ほぼ完形					

6. 土坑

本書で報告する調査区内から検出された土坑は、総数140基であった。

時期は、古墳時代前期と考えられる土坑は検出できず、古墳時代後期と平安時代のものが多く認められた。遺構の性質上、遺物が出土していないものが多く、時期を特定できない土坑が多かった。

今回検出された土坑の中で、第675・678・683号土坑は、壁面が赤く被熱し、覆土に焼土塊を多く含むことから、土師器を焼成した土坑である可能性が考えられる。長軸方向がほぼ一致することから、ほぼ同時期に構築されたものと推測できる。

他にも、形態が異なるが、第703・712・745・796号土坑などのように、多量の炭や焼土を含む土坑が検出されており、土師器焼成土坑の可能性も考えられる土坑が検出されている。

第739号土坑は、第12号方形周溝墓のマウンド上で検出されたため、調査当初は埋葬施設の可能性も考えられたが、ほとんど遺物が出土せず、覆土も古墳時代前期のものとは様相を異にしていたことから、周溝墓に伴う遺構ではないと判断した。

第658号土坑 (第265図)

K-29グリッドで検出された。規模は、長径97cm、深さが8cmで、平面形態は円形をしていた。長軸方向は、N-11°-Wであった。

遺物は、須恵器壺片などが少量出土している。

第659号土坑 (第265図)

N-27グリッドで検出され、第657号溝跡と重複していた。

規模は、長軸358cm、短軸158cm、深さが40cmで、平面形態は不整形をしていた。長軸方向は、N-32°-Wであった。

出土遺物は、第280図1～4に示した。1・2は灰釉陶器の塚で、3は緑釉陶器の塚である。4は、鉄滓の鍛冶滓である。このほかに底部に糸切を施した

須恵器坏、甕の破片が少量出土している。

第660号土坑 (第265図)

K-30グリッドで検出され、第679号溝跡と重複していた。

規模は、長軸125cm、短軸100cm、深さが23cmで、平面形態は楕円形をしていた。長軸方向はN-29°-Eであった。

遺物は、第280図5に図示した須恵器の高台付塚が出土している。

第661号土坑 (第265図)

L-31グリッドで検出され、第680号溝跡と重複していた。

規模は、長軸87cm、短軸69cm、深さが29cmで、平面形態は楕円形であった。長軸方向は、N-85°-Eであった。

遺物は、底部に糸切を施した須恵器坏の破片が出土している。

第662号土坑 欠番

第663号土坑 (第265図)

L-31グリッドで検出され、第727号溝跡と重複していた。

規模は、長軸93cm、短軸57cm、深さが19cmで、平面形態は東西に長い楕円形であった。長軸方向は、N-80°-Wであった。

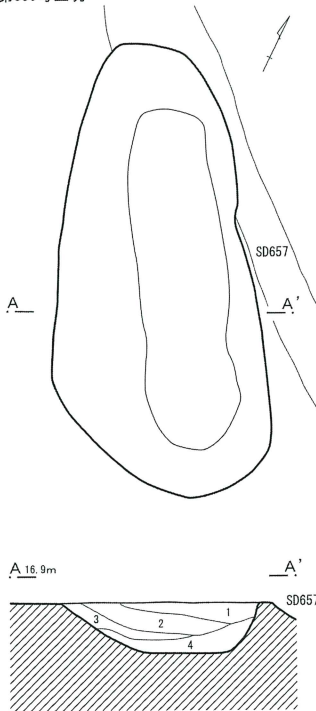
遺物は、須恵器甕、土師器片が少量出土している。

第664号土坑 (第265図)

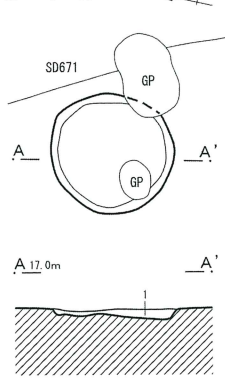
N-28グリッドで検出され、第687号溝跡と重複していた。

規模は、長軸106cm、短軸87cm、深さが18cmで、平面形態は楕円形であった。長軸方向は、N-59°-Wであった。

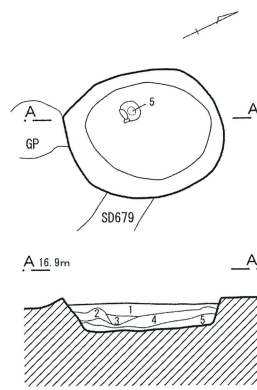
第659号土坑



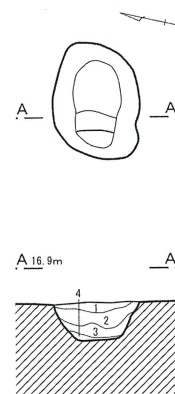
第658号土坑



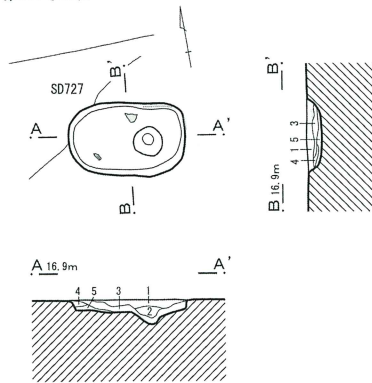
第660号土坑



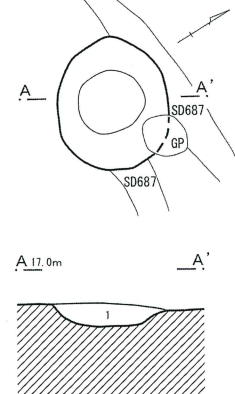
第661号土坑



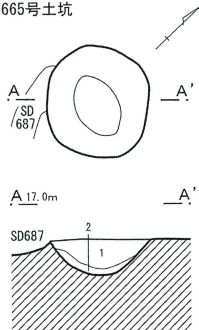
第663号土坑



第664号土坑



第665号土坑



第658号土坑

1 黒褐色土

10YR3/1 暗灰色粘土含む 灰色土ブロック (φ5mm) 微量 しまりあり 粘性なし

第659号土坑

1 黒褐色土
2 黒色土
3 黒色土
4 黒色土

7.5YR3/1 焼土ブロック微量 マンガン多量
7.5YR2/1 黄褐色土ブロック少量 マンガン含む
5YR1.7/1 黄褐色土ブロック (φ1~5mm) 少量 マンガン含む
10YR2/1 青灰色土ブロック少量 炭化物含む

第660号土坑

1 灰黄褐色土
2 灰黄褐色土
3 褐色土
4 黒色土
5 灰黄褐色土

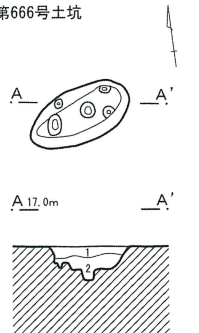
10YR4/2 褐色土粒子 (φ2mm) 含む 焼土ブロック (φ10mm) 少量 しまりあり 粘性ややあり
10YR4/2 しまりのある灰色土主体 黄褐色土ブロック (φ20mm) 含む しまりあり 粘性ややあり
10YR4/1 粘性のある灰色土 しまりややあり 粘性あり
10YR2/1 灰と焼土の混ざった層 焼土ブロック (φ5~15mm) 多量 黄褐色土ブロック (φ5mm) 少量 しまりなし 粘性あり
10YR5/2 粘性のある灰色土・黄褐色土ブロック (φ20~30mm) 含む しまりあり 粘性ややあり

第661号土坑

1 青黒色土
2 青黒色土
3 暗灰色土
4 オリブ灰色土

5BG2/1 しまりあり 粘性ややあり
5BG2/1 酸化鉄分少量 しまり・粘性ややあり
N3/0 粘質土層 青灰色粘土ブロック (φ10~20mm) 少量 しまり弱い 粘性強い
5GY6/1 均質の粘質土層 しまり弱い 粘性強い

第666号土坑



第663号土坑

1 黒褐色土
2 黒褐色土
3 灰色土
4 黒褐色土
5 黒褐色土

10YR3/2 焼土粒子 (φ1mm) ・ローム粒子 (φ3~7mm) 少量 しまりあり 粘性ややあり
10YR3/1 ローム粒子 (φ1~3mm) ・炭化物粒子 (φ1~3mm) 少量 全体的に混入物少ない しまり・粘性ややあり
N4/0 灰が主体 焼土粒子 (φ1~6mm) ・ローム粒子 (φ1~5mm) ・炭化物粒子 (φ1~5mm) 少量 しまり弱い 粘性弱い
10YR3/2 ローム粒子 (φ1~3mm) 少量 しまりあり 粘性ややあり
10YR3/2 焼土粒子 (φ1~4mm) ・炭化物粒子 (φ1~7mm) 少量 しまり・粘性ややあり

第664号土坑

1 灰黄褐色土

10YR4/2 黄褐色粘土ブロック (φ3~5mm) ・焼土ブロック (φ3~5mm) 斑 炭化物ブロック (φ5mm) 含む

第665号土坑

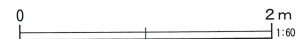
1 黒褐色土
2 灰黄褐色土

10YR3/1 黄灰色粘土ブロック (φ3~5mm) 斑 焼土ブロック (φ5mm) ・炭化物微量
10YR4/2 黄灰色粘土ブロック (φ3~5mm) 多量

第666号土坑

1 灰黄褐色土
2 褐色土

10YR5/2 黄灰色粘土ブロック (φ3~5mm) 多量 焼土・炭化物ブロック少量
10YR4/1 炭化物層 黄褐色粘土ブロック (φ10mm) 少量



第265図 土坑 (1)

遺物は、須恵器坏、土師器片が少量出土している。

第665号土坑 (第265図)

N-28グリッドで検出され、第687号溝跡と重複していた。

規模は、長径86cm、深さが28cmで、平面形態は円形をしていた。長軸方向は、N-42°-Wであった。

遺物が出土していないため、時期は不明である。

第666号土坑 (第265図)

N-28グリッドで検出された。

規模は、長軸84cm、短軸42cm、深さが28cmで、平面形態は楕円形をしていた。長軸方向は、N-70°-Eであった。

遺物が出土していないため、時期は不明である。

第667号土坑 (第266図)

M-30グリッドで検出された。

規模は、長径64cm、深さが7cmで、平面形態は円形をしていた。長軸方向は、N-82°-Eであった。

遺物は、土師器破片が少量出土している。

第668号土坑 (第266図)

M-29グリッドで検出された。

規模は、長軸186cm、短軸123cm、深さが16cmで、平面形態は楕円形をしていた。長軸方向は、N-61°-Eであった。

遺物は、土師器破片が少量出土している。

第669号土坑 (第266図)

L・M-28グリッドにかけて検出され、第656号溝跡を重複していた。

規模は、長軸323cm以上、短軸235cm、深さが11cmで、平面形態は不整形をしていた。長軸方向は、N-0°であった。

遺物が出土していないため、時期は不明である。

第670号土坑 (第266図)

K-27グリッドで検出された。

規模は、長軸110cm、短軸87cm、深さが7cmで、平面形態は楕円形をしていた。長軸方向は、N-53°-Eであった。

遺物が出土していないため、時期は不明である。

第671号土坑 (第266図)

N-29グリッドで検出され、第686号溝跡と重複していた。

規模は、長径100cm、深さが11cmで、平面形態は円形をしていた。長軸方向は、N-2°-Wであった。

遺物が出土していないため、時期は不明である。

第672号土坑 (第266図)

N-29グリッドで検出された。

規模は、長軸113cm、短軸68cm、深さが15cmで、平面形態は南北に長い楕円形をしていた。長軸方向は、N-3°-Wであった。

遺物は、底部に糸切を施した須恵器坏、土師器「コ」の字状口縁甕の破片などが出土している。

第673号土坑 (第266図)

K-30グリッドで検出され、第7号円形周溝状遺構、第679号溝跡と重複していた。

規模は、長軸93cm、短軸80cm、深さが14cmで、平面形態は楕円形をしていた。長軸方向は、N-20°-Wであった。底面中央部を平坦で高く残し、壁の周囲が一段深く掘り込まれていた。

遺物は、土師器破片が少量出土している。

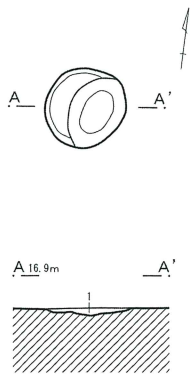
第674号土坑 (第267図)

K-30グリッドで検出され、第325号住居跡と重複していた。

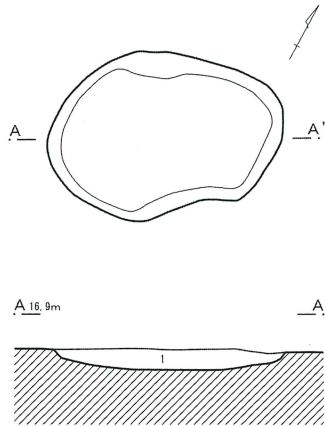
規模は、長径74cm、深さが8cmで、平面形態は円形をしていた。長軸方向は、N-27°-Eであった。

遺物は、土師器破片が少量出土している。

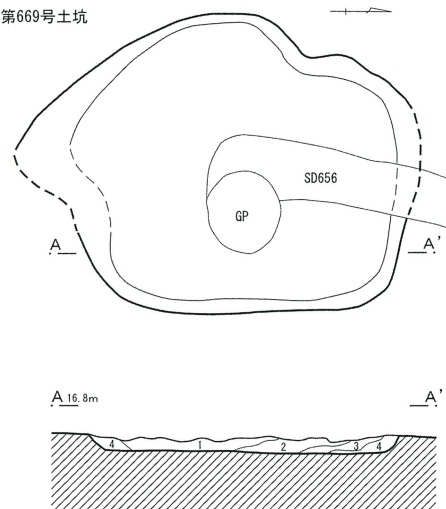
第667号土坑



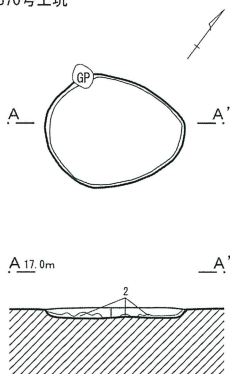
第668号土坑



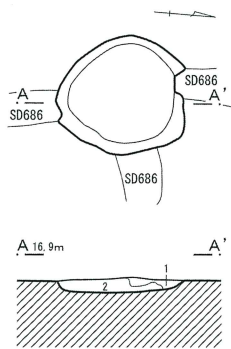
第669号土坑



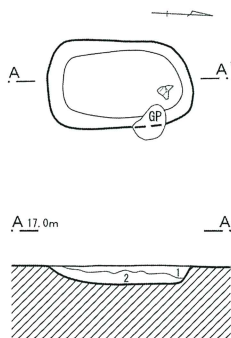
第670号土坑



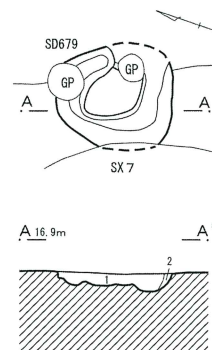
第671号土坑



第672号土坑



第673号土坑



- 第667号土坑
 1 黒褐色土 7.5YR3/1 焼土粒子 (φ1~5mm)・炭化物粒子 (φ1~5mm) 少量 しまりややあり 粘性弱い
- 第668号土坑
 1 黒色土 7.5YR2/1 ローム粒子 (φ1~5mm)・炭化物粒子 (φ1~5mm) 少量 しまりあり 粘性ややあり
- 第669号土坑
 1 暗緑灰色土 7.5GY4/1 マンガン多量 (地山との判別困難)
 2 褐灰色土 10YR4/1 マンガン少量 炭化物含む
 3 暗オリーブ灰色土 5GY4/1 マンガン多量 炭化物含む
 4 黒色土 N2/0 マンガン少量
- 第670号土坑
 1 褐灰色土 10YR4/1 暗灰色のややしまりのある土主体 褐色土粒子 (φ2mm) 多量 しまり・粘性ややあり

- 2 灰黄褐色土 10YR5/2 地山の土主体 黄褐色土ブロック (φ10~20mm)・褐色土粒子 (φ2mm) 含む しまりあり 粘性なし
- 第671号土坑
 1 灰黄褐色土 10YR5/2 黄灰色粘土ブロック (φ2~3mm) 斑
 2 褐灰色土 10YR5/1 黄灰色粘土ブロック (φ2~3mm) との混土層
- 第672号土坑
 1 褐灰色土 10YR5/1 焼土少量 炭化物粒子 (φ3~5mm) 多量 黄褐色粘土ブロック (φ3~5mm) 斑
 2 褐灰色土 10YR4/1 黄褐色粘土 (φ10mm) との混土層
- 第673号土坑
 1 黒褐色土 10YR3/2 ロームブロック (φ1~10mm) 少量 焼土粒子・炭化物粒子 (φ1~2mm) 微量 しまりあり 粘性ややあり
 2 灰黄褐色土 10YR4/2 ロームブロック多量 しまり・粘性あり

第266図 土坑 (2)